

目次

基礎教養ゼミ（共通教養科目）	1
日本語表現法（共通教養科目）	2
日本国憲法（共通教養科目）	3
法学（共通教養科目）	4
経済学（共通教養科目）	5
社会学（共通教養科目）	6
生涯健康論（共通教養科目）	7
生涯学習概論（共通教養科目）	9
生命と環境の科学（共通教養科目）	10
国際関係論（共通教養科目）	11
体育理論（共通教養科目）	13
体育実技（共通教養科目）	14
キャリア形成論（共通教養科目）	16
哲学（共通教養科目）	18
倫理学（共通教養科目）	19
心理学（共通教養科目）	20
文学と人間（共通教養科目）	21
芸術論（共通教養科目）	22
ボランティア・市民活動論（共通教養科目）	23
人権論（共通教養科目）	25
人間関係論（共通教養科目）	26
ジェンダー論（共通教養科目）	27
共生の倫理（共通教養科目）	28
チーム医療アプローチ論（共通教養科目）	29
国際医療事情（共通教養科目）	30
Introduction to Healthcare Sciences（共通教養科目）	32
英語 I A（共通教養科目）	34
英語 I B（共通教養科目）	35
英語 I C（共通教養科目）	36
英語 II A（共通教養科目）	37
英語 II B（共通教養科目）	38
英語 II C（共通教養科目）	39
英語 III A（共通教養科目）	40
英語 III B（共通教養科目）	41
英語 III C（共通教養科目）	42
英語 IV A（共通教養科目）	43
英語 IV B（共通教養科目）	44
英語 IV C（共通教養科目）	45
Integrated English I（共通教養科目）	46
Integrated English II（共通教養科目）	47
ドイツ語（共通教養科目）	48
フランス語（共通教養科目）	49
ポルトガル語（共通教養科目）	50
中国語（共通教養科目）	51
ハンガール語（共通教養科目）	52
コンピュータ入門 I（共通教養科目）	53

コンピュータ入門Ⅱ（共通教養科目）	54
コンピュータ実習Ⅰ（共通教養科目）	55
コンピュータ実習Ⅱ（共通教養科目）	56
論理学（専門教養科目）	57
人間発達論（専門教養科目）	58
人間行動学（専門教養科目）	60
化学（専門教養科目）	61
統計学（専門教養科目）	62
生物学（専門教養科目）	63
生活科学概論（専門教養科目）	64
国際保健医療論（専門教養科目）	65
生化学（看護基盤科目群）	66
解剖生理学Ⅰ（看護基盤科目群）	67
解剖生理学Ⅱ（看護基盤科目群）	69
栄養学Ⅰ（看護基盤科目群）	70
栄養学Ⅱ（看護基盤科目群）	71
臨床心理学（看護基盤科目群）	72
リスクマネジメント（看護基盤科目群）	73
疫学（看護基盤科目群）	74
社会調査特論（看護基盤科目群）	76
公衆衛生学（看護基盤科目群）	77
保健医療福祉行政論（看護基盤科目群）	78
医療情報システム論（看護基盤科目群）	79
薬理学（看護基盤科目群）	80
微生物学（看護基盤科目群）	81
病理学（看護基盤科目群）	83
リハビリテーション概論（看護基盤科目群）	85
臨床医学Ⅰ（内科学・外科学）（看護基盤科目群）	86
臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（看護基盤科目群）	88
臨床医学Ⅲ（老年医学）（看護基盤科目群）	89
臨床医学Ⅳ（小児医学）（看護基盤科目群）	90
臨床医学Ⅴ（女性医学）（看護基盤科目群）	91
臨床医学Ⅵ（精神医学）（看護基盤科目群）	92
心の健康（看護基盤科目群）	93
リラクゼーション概論（看護基盤科目群）	94
看護学原論（看護専門科目群）	95
人間関係形成論（看護専門科目群）	97
フィジカルアセスメント（看護専門科目群）	98
基礎看護技術Ⅰ（看護専門科目群）	99
基礎看護技術Ⅱ（看護専門科目群）	101
看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）	103
看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）	105
看護倫理学Ⅰ（看護専門科目群）	107
基礎看護学実習Ⅰ（看護専門科目群）	108
基礎看護学実習Ⅱ（看護専門科目群）	110
成人看護学概論（看護専門科目群）	112
成人看護学方法論Ⅰ-A（看護専門科目群）	114
成人看護学方法論Ⅰ-B（看護専門科目群）	116
成人看護学方法論Ⅱ-A（看護専門科目群）	118
成人看護学方法論Ⅱ-B（看護専門科目群）	119

セルフケア論（看護専門科目群）	120
感染看護（看護専門科目群）	121
成人看護学実習Ⅰ（看護専門科目群）	123
成人看護学実習Ⅱ（看護専門科目群）	125
老年看護学概論（看護専門科目群）	127
老年看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）	128
老年看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）	129
老年看護学実習（看護専門科目群）	130
小児看護学概論（看護専門科目群）	131
小児看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）	133
小児看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）	135
小児看護学実習（看護専門科目群）	137
母性看護学概論（看護専門科目群）	139
母性看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）	141
母性看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）	143
母性看護学実習（看護専門科目群）	145
精神看護学概論（看護専門科目群）	146
精神看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）	147
精神看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）	148
精神看護学実習（看護専門科目群）	149
在宅看護学概論（看護専門科目群）	150
在宅看護学方法論Ⅰ（共通教養科目）	152
在宅看護学方法論Ⅱ（共通教養科目）	154
在宅看護学実習（看護専門科目群）	155
公衆衛生看護学概論（看護専門科目群）	157
公衆衛生看護学方法論（看護専門科目群）	158
地域ケアシステム実習（看護専門科目群）	160
健康教育論（看護専門科目群）	161
ケアネットワーク論（看護専門科目群）	162
家族看護論（看護専門科目群）	163
看護研究概論（看護専門科目群）	164
看護管理学Ⅰ（看護専門科目群）	166
看護管理学Ⅱ（看護専門科目群）	167
看護倫理学Ⅱ（看護専門科目群）	168
ヘルスカウンセリング（看護専門科目群）	169
医療コミュニケーション論（看護専門科目群）	170
専門看護活動論Ⅰ（クリティカルケア）（看護専門科目群）	171
専門看護活動論Ⅱ（ターミナルケア）（看護専門科目群）	172
専門看護活動論Ⅲ（災害看護）（看護専門科目群）	173
国際看護学（看護専門科目群）	174
災害看護学（看護専門科目群）	175
看護学特論（看護専門科目群）	177
チーム医療アプローチ演習（看護専門科目群）	178
統合実習（看護専門科目群）	179
研究ゼミナール（看護専門科目群）	180
保健統計学（保健師課程科目）	181
公衆衛生看護活動論Ⅰ（保健師課程科目）	182
公衆衛生看護活動論Ⅱ（保健師課程科目）	183
母子保健論（保健師課程科目）	184
産業保健論（保健師課程科目）	185

学校保健論（保健師課程科目）	186
健康危機管理論（保健師課程科目）	187
公衆衛生看護組織論（保健師課程科目）	188
公衆衛生看護学実習Ⅰ（保健師課程科目）	189
公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師課程科目）	190
学校保健（教職に関する科目）	191
養護概説（教職に関する科目）	192
健康相談Ⅰ（教職に関する科目）	193
健康相談Ⅱ（教職に関する科目）	194
教師論（教職に関する科目）	195
教育基礎論（教職に関する科目）	196
教育心理学（教職に関する科目）	197
教育制度論（教職に関する科目）	198
教育課程・特別活動論（教職に関する科目）	199
道徳教育の研究（教職に関する科目）	200
教育課程・方法論（教職に関する科目）	201
生徒指導論（教職に関する科目）	202
教育相談（教職に関する科目）	203
養護実習（教職に関する科目）	204
教職実践演習（養護教諭）（教職に関する科目）	206

基礎教養ゼミ（共通教養科目）

担当者

野本悦子、鈴木忠、案田順子、大澤幸枝、下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 2単位

講義目標

看護大学生初年度として、学習方法や大学生活の心得・方法を身につけ、さらに看護を学ぶことへのモチベーションを高める。

到達目標

1. 大学初年生として、生活のしかたや社会一般のマナーが理解でき、実践できる。
2. 大学での学び方、文章の読み方、書き方が理解でき実践できる。
3. 医療現場や医療従事者を理解ができる。
4. 看護の基本的理念について理解でき、自身のキャリアデザインについて考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 大学で学ぶということ
- 第2回 社会の理解 情報リテラシー
- 第3回 文章の読み方・書き方
- 第4回 文章の読み方・書き方
- 第5回 日本の医療・
- 第6回 看護の本質
- 第7回 早期体験実習（事前学習）
- 第8回 早期体験実習（病院見学）
- 第9回 早期体験実習（病院見学）
- 第10回 早期体験実習（病院見学）
- 第11回 早期体験実習 まとめ
- 第12回 早期体験実習（発表）
- 第13回 看護史
- 第14回 キャリアデザイン
- 第15回 まとめ

評価方法

授業や実習演習への参加度 40%、課題レポート評価 60%

使用教材

授業時に適宜配布

授業外学習の内容

事前グループワーク学習や発表のためのグループワークがある

備考

日本語表現法（共通教養科目）

担当者

案田順子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

日本人の極端な日本語能力低下が問題視されている中で、「書きことば」における表現力を向上させるために、まず自分の「考え」をまとめ「書く」に至るプロセスを理解する。次に日本語の基礎知識の把握と生じやすい表現上のミスを具体的に認識し、「考え」をいかに「文章化」するかを修得する。同時に他者の「考え」を発言や文面から把握、その内容に対する自分の意見を構築、交換、指摘する機会を設け、学士力向上を図る。

到達目標

日本語の基礎的知識を、表現・文法・語彙の三側面から把握し、活用することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 「考え」をまとめるための5段階
- 第2回 日本語表現の基礎知識Ⅰ「公的」と「私的」
- 第3回 日本語表現の基礎知識Ⅱ 慣用句
- 第4回 日本語表現の基礎知識Ⅲ ことわざ・故事成語
- 第5回 日本語表現の基礎知識Ⅳ 四字熟語
- 第6回 日本語表現の基礎知識Ⅴ 比喻法
- 第7回 日本語表現のミスⅠ 主述関係
- 第8回 日本語表現のミスⅡ 修飾語・被修飾語
- 第9回 日本語表現のミスⅢ 重複表現
- 第10回 日本語表現のミスⅣ 副詞の誤用
- 第11回 日本語表現のミスⅤ 助詞の誤用
- 第12回 文章の組み立て方Ⅰ 起承転結
- 第13回 文章の組み立て方Ⅱ 5W1H
- 第14回 文章の組み立て方Ⅲ キーワード・キーセンテンス
- 第15回 文章の組み立て方Ⅳ 字数制限

評価方法

筆記試験（80%）・授業参加度（20%）によって、総合的に評価する。評価方法の基準については、講義時に通知する。

使用教材

『文章表現テクニック』（教育弘報研究所）

授業外学習の内容

自ら学ぶ姿勢を身につけるために授業後は必ずノートを整理し、課題を実施しておく。

備考

受講ルール:私語・携帯電話の使用および飲食は厳禁とする。

キーワード:「日本語」「自己表現」「基礎知識」「再確認」

学習上の助言:「日本語」の基礎を再確認し、実力をつけるラストチャンスと考え、授業には積極的に、しかしながら謙虚な姿勢で参加するように。

担当者メールアドレス:janda@takasaki-u.ac.jp

日本国憲法（共通教養科目）

担当者

新田浩司

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択 2単位、理学療法学科 2年後期 選択 2単位

講義目標

法規範は、強制力を持つ社会規範であり、憲法は最も重要な法規範である。憲法は国家の根本法ないしは最高法規であり、国家の組織や構造並びに国民の人権を保障する。講義では、この憲法について学ぶ。

到達目標

国家がどのように成立しているか、憲法の各条規は、社会において具体的に生きているのか、等について理解を深める。また、一般国民も、裁判員制度が始まり、憲法を初め様々な法律に触れる機会が増えているので、憲法や各種の法律の理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 憲法の基礎知識 (1)
- 第 3 回 憲法の基礎知識 (2)
- 第 4 回 憲法の基礎知識 (3)
- 第 5 回 日本国憲法の制定過程
- 第 6 回 日本国憲法の基本原理
- 第 7 回 国家の安全保障
- 第 8 回 精神的自由権 (1)
- 第 9 回 精神的自由権 (2)
- 第 10 回 経済的自由権
- 第 11 回 社会権 (1)
- 第 12 回 社会権 (2)
- 第 13 回 参政権、国務請求権
- 第 14 回 統治機構 (1)
- 第 15 回 統治機構 (2)

評価方法

期末試験の成績により評価する。

使用教材

名雪健二編著『公法基礎入門』（八千代出版）

授業外学習の内容

新聞等を読み、憲法や法律の理解を深めること。

備考

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。
メールアドレス：nitta@tcue.ac.jp

法学（共通教養科目）

担当者

新田浩司

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

社会のルールである法は、我々が生活する上で不可欠であり、法的思考（リーガル・マインド）は我々が社会人として身につけるべき能力であると言えよう。

到達目標

法的思考を身につけることにより、社会における様々なトラブルに対処できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 第1章 法と法学
- 第3回 第2章 法と国家
- 第4回 第3章 法と他の社会規範との関係
- 第5回 第4章 法の目的
- 第6回 第5章 法の構造
- 第7回 第6章 法の淵源
- 第8回 第7章 法の分類
- 第9回 第8章 法の解釈
- 第10回 第9章 法の適用—法が適用される事実、法を適用する機関
- 第11回 第10章 法の効力
- 第12回 第11章 権利と義務
- 第13回 まとめ①
- 第14回 まとめ②
- 第15回 まとめ③

評価方法

出席状況ならびに期末試験の成績により評価する。

使用教材

名雪健二編著『公法基礎入門』（八千代出版）

授業外学習の内容

新聞等を読み、憲法や法律の理解を深めること。

備考

授業中の私語は厳禁。出席票の代筆厳禁。

メールアドレス：nitta@tcue.ac.jp

経済学（共通教養科目）

担当者

町田修三

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

経済に関する知識は一般社会や国際社会において極めて重要であるものの、ほとんどの学生は十分な知識を持っていない。選挙権が与えられても、経済知識なしで投票に行くのは危険な気さえする。この講義では身近なトピックを通して基礎的経済の知識を習得し、国内外の社会のメカニズムや流れを理解できるようになることを目的とする。

到達目標

- ①日本経済の現状を説明できる。
- ②新聞やテレビの経済関連のニュースが難なく理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本経済の流れ（世界との比較のなかで）
- 第3回 経済政策の2大潮流－マーケット or ケインズ
- 第4回 需要と供給（需要曲線の意味）
- 第5回 市場メカニズムと価格（どうして水よりもダイヤモンドのほうが高いんだらう？）
- 第6回 価格の変動（どうして缶コーヒーやペットボトルのお茶は、どれも同じ値段なんだらう？）
- 第7回 国民所得（国の経済力はどう測るんだらう？GDPって何？）
- 第8回 国民所得（あなたが1万円使うとGDPはいくら増える？）
- 第9回 財政（日本の借金は大丈夫？消費税は何%に？）
- 第10回 景気と失業（不景気で学生の就職はどうなる？）
- 第11回 金融（日本銀行は何をすところ？）
- 第12回 経済政策のしくみ（アベノミクスは何をした？）
- 第13回 為替レートのメカニズム（円高、円安ってどうして起こるの？）
- 第14回 世界と日本（日本の貿易は黒字？赤字？）
- 第15回 まとめと確認のためのテスト

評価方法

筆記試験 80%。毎回の授業の最後に提出するコメントカード、その他の提出物 20%。

使用教材

使用教材及び資料は毎回配布する。必修テキストは指定しないが、推薦したいテキスト、雑誌、論文、新聞記事等については、授業内で適宜紹介する。

授業外学習の内容

本講義の理解を深めるためには、新聞やテレビで日々のニュースに触れることが効果的である。テキストを利用した予復習は課さないかわりに、日常的に新聞を読みテレビニュースを視聴すること。

備考

社会学（共通教養科目）

担当者

安達正嗣

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

社会学的なものの見方とは、どういうものか、社会学的にものを考えるときに使用する専門的概念には、どのようなものがあるのかなどといった社会学の基本の理解を目指す。使用教材を中心にしながら、日常の具体的な事例から解説する。

到達目標

初めて社会学を学ぶ学生に対して、社会学の基礎的な知識ならびに考え方を理解させて習得させることが、この講義の到達目標である。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会学への招待
- 第2回 「自分探し」を強いる現代社会
- 第3回 「複数の私」を生む二つの要素
- 第4回 社会学から見た「人間関係」
- 第5回 現代社会の「人間関係」をつくるさまざまな要素
- 第6回 社会とともに変化する「子ども像」
- 第7回 「恋愛観」と「結婚観」
- 第8回 「専業主婦」のゆくえ
- 第9回 「少子高齢社会」の展望
- 第10回 「日本型雇用システム」の変容
- 第11回 新しい働き方
- 第12回 文化の社会学
- 第13回 現代の流行現象
- 第14回 自殺の社会学
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（第1回目の講義で説明します）50%、学期末試験50%です。

使用教材

浅野智彦編著『考える力が身につく社会学入門』中経出版

授業外学習の内容

毎回の内容について、事前に教科書を読んでおくこと。

備考

私語は、厳禁です。

生涯健康論（共通教養科目）

担当者

鈴木忠

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

生涯を幸せて豊かに過ごすための基本は健康である。日本人は世界有数の長寿を誇っているが、自立して生活を送る健康寿命は、平均寿命より約10年も短い。本講義では、健康寿命の延伸のための生涯にわたる健康増進法について理解し、人々の健康寿命延伸に健康支援チームの一員として参加できる基礎能力を身に着けることを目的としている。

到達目標

各回の講義内容欄に< >内に示す語句（キーワード）について理解し、説明できるようになる。

講義内容と講義計画

第1回 健康の定義と健康評価指標

WHOの提唱した健康の定義を知る。集団の健康評価の指標として最もよく使われるのが平均寿命であるが、寿命には、<平均寿命>、<平均余命>、<健康寿命>、<最長寿命>などの呼び方があり、これから重要なのは、健康寿命であることを理解する。

第2回 健康を維持するための構造と働き

健康を維持するための主たる生理機構は、<物質代謝>である。物質代謝に関わる体の構造とその働きについて理解する。

第3回 恒常性維持システムの役割と相互作用

物質代謝に関連する構造がバランスよく正常に機能するように統括する恒常性維持(<ホメオスタシス>)システムは、脳神経系、内分泌系及び免疫系で構成される。その働きと相互作用について理解する。

第4回 食物と健康

物質代謝のスタートは食物からの栄養摂取である。食物には健康に欠かすことのできない<栄養素>を含むものと健康を害する因子を含む食物とがあることを理解する。

第5回 <運動と健康>

運動には、健康維持のための恒常性維持システムを正常に働かせるための運動と筋力を鍛えるための運動がある。ここでは、恒常性維持のための運動とその役割及び自立生活を支え、健康寿命を延ばすための筋力を鍛える運動について理解する。

第6回 <心のケアと健康>

ストレスが、恒常性維持システムのバランスに悪影響を及ぼし、健康を害するメカニズムを理解し、ストレスを解消するための心のケアが健康維持にいかに重要であるかを理解する。

第7回 喫煙による健康障害

たばこが、発がん性だけでなく、血液循環障害や一酸化炭素中毒などの<喫煙と健康障害>のメカニズムについて理解する。<受動喫煙の影響>についても考える。

第8回 生活環境と健康

放射能、排気ガス、温室効果ガス等の<生活環境と健康>についても考える。

第9回 21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)

2000年より、健康寿命の延伸を目指す健康づくり運動がスタートした。①食物・栄養、②運動及び③心の安静を<健康維持の3本柱>とし、これまでの早期発見・早期治療による二次予防及び確実な診断と治療・リハビリによる三次予防に対して、病気の発生そのものを防ぐ一次予防を重視する<予防医学>のスタートである。

第10回 特定健康診断の重要性及びメタボリックシンドローム

特定健康診断の結果の値を、発病予防のための健康管理の指標とできることを理解する。さらに、<定期健康診断>によって、疾患の早期発見あるいは疾患前状態を発見することで、二次予防にも繋がることを理解する。また、<内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)>の怖さを理解し、その予防法について考える。

第 11 回 生活習慣病の危険因子としての糖尿病

<糖尿病>には、I型とII型があり、第 12 回で学習する冠状動脈や脳動脈における血液循環障害発生の危険因子となるのみならず、微小血管循環障害による腎障害、視力障害及び神経障害という<三大合併症>を引き起こす。人工透析が必要となる腎不全及び失明の原因の第 1 位は糖尿病である。危険因子としての糖尿病とその予防法について理解する。

第 12 回 生活習慣病(心疾患・脳卒中)と発症を予防する生活習慣

死亡原因の 2 位及び 3 位の<心疾患(狭心症・心筋梗塞症)>及び<脳卒中>は、<血液循環障害> による。これらの疾患の本態を知り、生活習慣との関係を理解し、その予防のための生活習慣を考える。

第 13 回 生活習慣病(がん)と発症を予防するための生活習慣

日本人の死亡原因の 1 位はがん、2 位は心疾患、3 位は脳卒中であり、いずれも生活習慣に起因する。ここでは、がんという疾患を理解し、がんを発症する生活習慣<(がん発症危険因子)>を知る。また、<がん予防のための生活習慣>及び早期発見・早期治療のための<がん検診>の重要性について理解する。

第 14 回 微生物感染症と感染・発症予防

日本人の死亡原因の第 4 位は肺炎と呼ばれる微生物感染症である。各種保健医療施設においては、入所(入院)者の<院内感染症>発症予防は、最重要課題である。輸血などの医療行為が微生物感染症の発生要因<(医原性感染症)>となる場合があること、感染症発生の予防法について理解する。

第 15 回 地域における健康支援チーム構成員とその役割:まとめ

これまでは、健康管理は個人が自分自身の責任で行うとされてきたが、地域における集団での支えあいに重点を置くとされた。地域における健康支援には、本人、家族を中心に、医療専門職者、診療情報管理士、管理栄養士、福祉専門職者、その他多数の職種者からなる<健康支援チームによるチーム医療>が必要である。どのような職種がどのような役割を果たしてチームを構成して健康を支えようとしているのかを理解する。

評価方法

授業参加度 (予習してきたの発表、質問、質問に対する回答等) : 30 点、レポート : 30 点、期末試験 : 40 点

使用教材

テキストは使用せず、配布資料及び視聴覚資料を使用する。

参考書として、厚生統計協会刊の「国民衛生の動向」を利用する。

授業外学習の内容

・講義は、できるだけ質疑・応答を中心として進めていくのでシラバスの中に示したキーワードについての予習をしてくること。

・グループに分け、各グループごとに課題を与え、発表してもらうので、全員で協力してまとめること。

備考

生涯学習概論（共通教養科目）

担当者

森部英生

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

教育水準の高度化や人々の意識、生活形態の急激な変化にともない、「生涯学習」が進展・定着する中で、「生涯学習」「生涯学習社会」とは何かを踏まえ、公民館・図書館・博物館をはじめとする社会教育施設社会における様々な学びの場での人々の学習について、学生グループの報告を交えてその理論・実際を学ぶ。

到達目標

生涯学習の意義、「生涯学習社会」の意義、社会教育と生涯学習の関係、公民館・図書館・博物館・美術館・青年の家の意味と実際、等のテーマを取り上げ、公教育における生涯学習の意義とその実際の活動について、学生の理解を深めるとともに、生涯学習の実践力を身につけることをめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「生涯教育」と「生涯学習」
- 第3回 「生涯学習社会」とは何か
- 第4回 「学習権」とは何か
- 第5回 社会教育と生涯学習 第1回小テスト予定
- 第6回 公民館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第7回 公民館をめぐる事件
- 第8回 図書館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第9回 図書館をめぐる事件
- 第10回 博物館とはどんな所か（学生グループ報告予定） 第2回小テスト予定
- 第11回 博物館をめぐる事件
- 第12回 美術館とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第13回 美術館をめぐる事件
- 第14回 青年の家とはどんな所か（学生グループ報告予定）
- 第15回 青年の家をめぐる事件 第3回小テスト予定

評価方法

期間中行う3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度に約30%を配分して総合評価する。

使用教材

自作のプリント。

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。報告に当たった学生は、当該テーマについて十分な準備をしておくこと。

備考

人間が人間らしく生きる上で、いつでも・どこでも自由に学ぶことは不可欠です。生涯学習はこうした理念に立つものです。これまで自分が行ったことのある博物館・動物園等の施設を思い返し、また、関係する文献・TV番組・新聞記事等にも目を配って、その意義を確認してほしいと思います。

生命と環境の科学（共通教養科目）

担当者

奥浩之

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

毎回、生命科学と環境科学の一つのトピックスについて、現状と問題・今後の課題など、高校までに学んだ知識をもとに、わかりやすく順を追って説明してゆく。具体的な事項を取り上げることで、漠然とした生命と環境についてのイメージを一新してもらうことを目的としている。生命分子の構造学習を行うので、各自で利用できるパソコンのあることが望ましい。

到達目標

本講義を受講することにより、各自が生命や環境に関する事項についてニュースなどを鵜呑みにするのではなく、様々な文献や資料を参照することで自律的に理解・判断できるようになり、レポートなどの形式でまとめられるようになることを学習目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 生命と環境－地球における元素の循環
- 第2回 生命と環境－温室効果ガスによる地球温暖化
- 第3回 生命と環境－化学進化と生命における元素の役割
- 第4回 生命と生体分子－DNA 二重らせんと X線構造解析
- 第5回 生命と生体分子－タンパク質の立体構造・分子グラフィックス
- 第6回 生命と生体分子－様々なヘム蛋白質・医薬品との相互作用（CYP450）
- 第7回 環境と資源－炭素資源・石油化学産業・医薬品産業
- 第8回 環境と資源－シュールガス、シュールオイル
- 第9回 環境と健康－バイオマス・バイオディーゼル
- 第10回 生命と医薬品－生体材料（血管の接着剤）
- 第11回 生命と医薬品－生体材料（痛くない注射針）
- 第12回 生命と医薬品－日本において開発された画期的なくすり
- 第13回 地球環境と健康－グローバル化、インフルエンザ、新興再興感染症
- 第14回 地球環境と健康－さまざまな感染症の予防ワクチン
- 第15回 地球環境と健康－ワクチン成分と研究開発

評価方法

レポート課題 50%、授業参加度 50%

使用教材

使用しない（講義にて用いるスライドを配布予定）

授業外学習の内容

2回に一度、講義に関連した自主学習としてレポート作成を課題とする予定。

備考

国際関係論（共通教養科目）

担当者

片桐庸夫

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択2単位、理学療法学科 2年前期 選択2単位

講義目標

皆さんが生活する今日の世界とはどんなものかを理解することを目的としている。まず今日の世界の基本となっている戦後の冷戦について理解する。次に冷戦の何が変わって今日の世界が出来ているか理解する。それを通じ国際テロ、民族紛争、領土紛争、宗教対立といった現代世界の特徴と戦後日本の外交や国際貢献をめぐる課題について学ぶ。

到達目標

今日の世界情勢と日本外交や国際貢献問題について基本的に理解し、テレビや新聞のホットな話題やニュースを理解出来るようにすること。

講義内容と講義計画

- 第1回 授業の展開の方法、出席の取り方、試験の方法、成績評価の方法等についてのガイダンスを行う。
- 第2回 「冷戦の特異性」の意味、大規模な戦争後に起こりやすい戦勝同盟国間の対立について理解する。
- 第3回 「呉越同舟」の例えの典型的事例である戦勝同盟国間の対立の例としてのウイーン会議について理解する。
- 第4回 国際コミュニケーションにとって大切な言語、宗教、文化、国家体制といった共通の価値観の意味について理解する。
- 第5回 米ソ間の価値観の欠如、イデオロギー対立、体制間対立について理解する。
- 第6回 米ソ両国間の安全保障観の相違と戦争の性格の変化について理解する。
- 第7回 冷戦の定義、核の下の平和、冷戦後の現代世界の特徴について理解する。
- 第8回 終戦とアメリカの初期対日占領政策の特徴、日本の改革について理解する。
- 第9回 冷戦のアジアへの波及にともなうアメリカの対日占領政策の修正、日本国憲法、天皇制存置、象徴天皇制の関連性について理解する。
- 第10回 ジョージ・ケナンの Five Power Centers 構想、日本の再軍備について学ぶ。
- 第11回 サンフランシスコ講和条約による日本の独立回復、同条約の問題点、日米安保条約の問題点、不公平性などについて理解する。
- 第12回 戦後日本外交の課題である『「戦後」の克服』の意味、日ソ国交正常化、国連加盟、未解決の北方領土問題について理解する。
- 第13回 日米安保改定による日米パートナーシップ関係の意味、日本の経済大国化について理解する。
- 第14回 沖縄返還、日中国交正常化、それらにともなう『「戦後」の克服』について理解する。
- 第15回 中国の台頭と日本外交のゆくえ及び国際貢献の在り方について考える。

評価方法

小テスト結果と授業態度等を総合的に評価する。

使用教材

テキストを用いず、授業中にプリントを配布する。

授業外学習の内容

中国の軍事力増強や南シナ海制海権確立の動き、中国やロシアとの領土問題、沖縄基地移転の問題等についての新聞やテレビのニュース、ドキュメント番組等を見て、日頃から国際問題や日本の課題等についての関心を育てて欲しい。

体育理論（共通教養科目）

担当者

入澤孝一

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

医療従事者として基礎的なスポーツ科学、トレーニング理論を身に付けること、及びスポーツの社会的な役割についての知識を学ぶことにより、人々が健康に、生き生きと生活する社会の形成に貢献する人材を育成する。

到達目標

- ①トレーニングの基礎理論についての知識を習得する
- ②各種体力要素とトレーニングの関係についての知識を習得する
- ③スポーツが果たす社会的、教育的役割について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 日本人の健康・体力について現状を把握しよう
- 第2回 生活習慣病の予防・改善のための運動処方
- 第3回 子どもの身体活動に向けたエクササイズ
- 第4回 スポーツのトレーナビリティ
- 第5回 人の身体の構造と特徴
- 第6回 スポーツと栄養
- 第7回 トレーニングの原則
- 第8回 ウォーミングアップ・クーリングダウン及びオーバートレーニング
- 第9回 巧みさの向上及び粘り強さ（有酸素）の向上
- 第10回 力強さ（筋力）と無酸素性トレーニング
- 第11回 身体のバランス・柔軟性とストレッチング
- 第12回 スポーツ文化・教育・コーチング
- 第13回 競技力向上対策
- 第14回 加齢と体力低下及び発育期の障害と予防
- 第15回 レポート・試験

評価方法

- ①授業毎のレポート課題を評価する。50%（授業内容の理解度及び授業への参加度）
- ②最終授業時に試験を実施する。（50%）

使用教材

毎時間、作成したパワーポイント教材を使用する。

授業外学習の内容

授業開始時に小テストを実施するので、復習してくる事

備考

体育実技（共通教養科目）

担当者

河崎和代

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

体を動かす具体的な体験をとおして理論と実践とを結びつける。

到達目標

- 1 知識・理解の観点：各スポーツ種目の歴史、ルール、マナーを理解する。
- 2 思考・判断の観点：安全に効率よく練習およびゲーム運営を思考・判断できる。
- 3 関心・意欲の観点：種目特性によって異なる身体感覚について関心をもつ。
- 4 態度の観点：積極的に取り組む。また、施設、器具を大切に扱う。
- 5 技能・表現の観点：基本スキルの獲得。相手の力量にあわせ、楽しみながらゲームができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス(体育館)
- 第 2 回 ストレッチとレジスタンストレーニング(体育館)
- 第 3 回 体力テスト
- 第 4 回 体力テストとレジスタンス運動（ゴムチューブ）
- 第 5 回 バドミントン
- 第 6 回 バドミントン
- 第 7 回 バドミントン
- 第 8 回 ドッジボール
- 第 9 回 ソフトバレー
- 第 10 回 ソフトバレー
- 第 11 回 ソフトバレー
- 第 12 回 キンボール
- 第 13 回 バasketボール
- 第 14 回 バasketボール
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業態度・授業への参加度 60%、レポート課題 30%、授業記録の管理 10%

使用教材

自作プリントを適宜配布する。また参考書を適宜紹介する。

授業外学習の内容

からだをしっかりと目覚めさせ、着替えや食後の消化にかかる時間などを確保するためにも、余裕をもって朝早く起きる習慣を身につける。
また継続して運動を実施できるよう課外時間に大学体育施設(フィットネスルームを含む)を積極的に利用する。時間がとれない場合は、日常生活における労働、家事、通学、趣味などの生活活動の中で身体活動量を増やす工夫をする。

備考

1. トレーニングシャツ、パンツ、シューズ(体育館は室内用、テニスコート・フットサルコートは屋外用)を着用す

ること(ジーンズや普段着での受講は不可)。2.原則として見学は認めません。
また実技授業をすすめる上で配慮を必要とする学生は初回のガイダンス当日までに担当教員へ申し出ること。3.
貴重品の管理は各自で行うこと。4.授業で実施するスポーツ種目の器具は大学で用意しますが、テニスやバドミ
ントンのラケットなど個人で所有する器具があれば、積極的に持参してください。5.天候により施設変更する
ことがあります。教務課掲示板で確認してください。

キャリア形成論（共通教養科目）

担当者

小泉英明

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

社会の仕組みはもとより、経済、雇用など私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変わり、仕事の質や内容までも大きく変化しています。本講座では、社会（企業・組織）が大学生に求める「能力」について理解を深め、社会で実際に役立つ人材となるよう支援します。さらに様々な事例紹介によって社会・職場適応力を養い、近い将来、社会人として適切なスタートを切ることができるよう“自身”の強化プラン策定と目標管理を促し、将来のキャリア形成につなげられるよう支援することも目標としています。

到達目標

- ①社会に通用する就業観、勤労観を持つ
- ②自己を正しく理解し、適切なキャリアデザインを描くことができるよう、基礎力と社会適応力を身につける
- ③コミュニケーション能力、論理的思考力、創造的思考力、問題解決能力など、社会から必要とされる力を身につける
- ④効果的な就職活動を遂行できるよう、自己変革のための目標管理を行う

講義内容と講義計画

- 第1回 キャリアとは何？キャリア形成のために必要なこと
- 第2回 先行きの予測が困難な時代／社会が求める人材
- 第3回 セルフ・ディベロップメントⅠ（自己の理解）
- 第4回 コミュニケーション力
- 第5回 実践コミュニケーション力〔演習〕
- 第6回 気づく力
- 第7回 考える力Ⅰ（ロジカル・シンキングとクリティカル・シンキング）
- 第8回 考える力Ⅱ（クリエイティブ・シンキング）
- 第9回 創造力を伸ばすには〔演習〕
- 第10回 問題解決能力
- 第11回 働く意味／就業力と仕事力
- 第12回 社会における人間関係
- 第13回 セルフ・ディベロップメントⅡ（目標設定／キャリア・マニフェスト）
- 第14回 セルフ・ディベロップメントⅢ（将来のキャリア形成に向けて）
- 第15回 ストレス・マネジメント／まとめ

評価方法

最終レポート(60%)、各授業時における提出物(30%)、受講態度(10%)

使用教材

適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

配布プリントをもとに、毎回、復習をすること。配布物はしっかりファイルし、毎回持参すること。授業内外の課題は必ず提出すること。

備考

社会の出来事を理解できるよう、新聞等のニュースに目を通して受講すること。

哲学（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

「他者とどう関わっていけばよいか」「生きることに意味はあるのか」「絶対に正しいことはあるのか」。普段は漠然と理解しているように感じることに、改めて疑問を持ち研究するのが哲学である。本講義では身近な題材をもとに医療・福祉・健康分野に関わるものとして考えておきたいトピックを取り上げる。哲学者たちの議論や統計なども手引きとして、論理的に考えていくための基礎力を身につける。

到達目標

各トピックの基本的な問題点を理解し、様々に議論されてきた内容について知識を得る。また、現代的な視点から自己の主張を持ち、それを表現する力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自分と他者（1）「人に認められたい」のは本能？
- 第3回 自分と他者（2）「本当の自分」はあるのか
- 第4回 自分と他者（3）人と人の関係性
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 平等と共生（1）誰もが信じられる正しさはあるか
- 第7回 平等と共生（2）環境は人の心にどう影響するのか
- 第8回 自由はあるのか—正しい自己決定のために
- 第9回 心と身体（1）人間である条件とは理性か
- 第10回 心と身体（2）心と体の関係性—脳死を考える
- 第11回 エンハンスメント（1）変化する「病」
- 第12回 エンハンスメント（2）「弱さ」を否定する社会
- 第13回 「空気」を意識する
- 第14回 責任（1）責任の範囲はどこまで？
- 第15回 責任（2）「何もしなかった」ことに責任は問われるか

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中にプリントを配布。

授業外学習の内容

復習としてノート・資料を読み直し、ミニ・レポートを作成すること。

備考

本講義では知識の習得だけでなく、各自が「哲学する」ために、ミニ・レポートを課しているため、主体的に取り組んでほしい。

倫理学（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

現在、医療の場では生と死のあり方について、価値観の違いによる様々な葛藤やコンフリクトがある。本講義では、そうした対立が生じる理由・意味を倫理的視点から捉え、理解を深めると同時に、現代の医療を巡る多様な問題について考え、判断する力を養う。

到達目標

医療に関連する倫理的諸課題について正確な知識を習得し、根拠をもって判断し、また論理的に表現できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 看護倫理の四原則
- 第3回 意志と自己決定 (1)インフォームド・コンセントとアドボカシー
- 第4回 意志と自己決定 (2)自由な決定の範囲とは
- 第5回 意志と自己決定 (3)治療の差し控え
- 第6回 「善」の基準 (1)「よさ」は利益で決まるのか
- 第7回 「善」の基準 (2)社会的な公平性
- 第8回 脳死と移植医療
- 第9回 生殖の倫理 (1)出生前診断：子どもを選ぶ権利はあるか
- 第10回 生殖の倫理 (2)「子どもをもつ権利」と「子どもの権利」
- 第11回 安楽死 (1)日本の判例とラングの法整備
- 第12回 安楽死 (2)新生児・胎児への安楽死と優生思想
- 第13回 個人の意志と社会
- 第14回 合意形成——よりよい決定のために
- 第15回 「死」の意味づけ

評価方法

定期試験（60%）、ミニ・レポート（40%）に、講義への参加態度等を加えて総合的に評価する。

使用教材

講義中に適宜プリントを配布。

授業外学習の内容

講義ノート、配布資料を十分に復習したうえで、ミニ・レポートを作成する。

備考

本講義は倫理的なものの見方、考え方を身につけることを目的にしている。講義内容を知識として理解するだけでなく、内容への意見や疑問を持ち、自分ならどう判断し、どう決断するかを考えながら講義にのぞんでほしい。

心理学（共通教養科目）

担当者

内田祥子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

人間の心理的諸機能に関する理論・研究について学び、自己理解・患者理解に必要な基礎的知識の習得を目指す。

到達目標

- ・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について説明できる。
- ・人間の行動の基礎過程について説明できる。
- ・人間の発達と心理との関係について説明できる。
- ・社会的環境が人の心理に対して及ぼす影響について説明できる。
- ・心理的支援の方法と実際について説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理学とは
- 第3回 環境を認知する心の働き (1) 知覚
- 第4回 環境を認知する心の働き (2) 学習
- 第5回 環境を認知する心の働き (3) 記憶
- 第6回 環境を認知する心の働き (4) 言語・思考
- 第7回 環境を認知する心の働き (5) 情動・動機づけ
- 第8回 社会の中の人間 (1) 人格
- 第9回 社会の中の人間 (2) 自己
- 第10回 社会の中の人間 (3) 社会
- 第11回 生涯発達のしくみ アイデンティティの生涯発達
- 第12回 脳科学と心理学
- 第13回 発達臨床・心理臨床 (1) 発達臨床
- 第14回 発達臨床・心理臨床 (2) 心理臨床
- 第15回 まとめ

評価方法

宿題 30%、学期末テスト 70%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テスト・レポートの得点に関わらず、単位を付与しない。

使用教材

「心理学・入門」 サトウタツヤ・渡邊芳之著 (有斐閣)

授業外学習の内容

毎回、復習課題を宿題として課す。授業内容をしっかりと振り返り回答すること。また、テキストの次回該当箇所を必ず予習して授業に臨むこと。

備考

文学と人間（共通教養科目）

担当者

斎藤順二

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

現代人の基礎教養として、日本の名作文学を朗読 CD とビデオで味わうことで、文章表現による心のコミュニケーションを図ることができる。

到達目標

視聴覚教材を活用して「文学と人間」への洞察を深めることで、歴史の諸相における人間と人間生活の理解に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』
- 第2回 森鷗外『舞姫』『高瀬舟』
- 第3回 幸田露伴『五重塔』、樋口一葉『たけくらべ』
- 第4回 尾崎紅葉『金色夜叉』、徳富蘆花『不如帰』
- 第5回 泉鏡花『高野聖』、島崎藤村『破戒』
- 第6回 夏目漱石『坊っちゃん』『草枕』
- 第7回 伊藤左千夫『野菊の墓』、田山花袋『田舎教師』
- 第8回 学習の整理と展望（まとめのレポート①）
- 第9回 森鷗外『雁』、夏目漱石『こころ』
- 第10回 芥川龍之介『羅生門』『鼻』『杜子春』『地獄変』
- 第11回 有島武郎『或る女』、武者小路実篤『友情』
- 第12回 川端康成『伊豆の踊子』、小林多喜二『蟹工船』
- 第13回 林芙美子『放浪記』、谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、中島敦『山月記』
- 第15回 学習の整理と展望（まとめのレポート②）

評価方法

まとめのレポート2回分を各50点で加算し、それに授業参加度を加味して総合評価する。

使用教材

小田切進『日本の名作』（中央公論新社）定価（本体720円＋税）

授業外学習の内容

授業では、視聴覚教材を活用して作品の梗概を理解させ、人物相関図の板書とテキストの読解から作品鑑賞を深める。これをきっかけに、さらに各自が興味・関心を抱いて原作を読み、発展させた読書につなげること。

備考

芸術論（共通教養科目）

担当者

石原綱成

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

芸術とは人間の内面の表出です。すなわち人間の心を映し出す「鏡」といっても良いでしょう。その表出されたもの、すなわち芸術作品がいかなる思想に基づいて現われたかを知ることが、人間性そのものを知ることになります。講義は、西洋近代における芸術概念の成立、そして20世紀における芸術概念の変容を概観することを通して、芸術の起源と役割をめぐる問題について考察します。また様々な地域の視覚芸術を比較検討することで、私たち「現代人」の芸術思想を浮き彫りにして見ましょう。

到達目標

芸術概念及び芸術に関連するさまざまな概念の成立・受容・変容という観点から、特に西洋近代以降におけるメディアとしての芸術の歴史を展望することによって、芸術論及び芸術学についての理解を深めることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 芸術の起源①ギリシャ・ローマ
- 第3回 芸術と宗教②ヨーロッパ中世とキリスト教
- 第4回 芸術論のと神々宗教芸術概観
- 第5回 キリスト教芸術の特色①旧約聖書と芸術
- 第6回 キリスト教芸術の特色②新約聖書と芸術
- 第7回 芸術思想をめぐる①ルネサンスの芸術思想
- 第8回 芸術思想をめぐる②バウハウスの芸術思想
- 第9回 カトの芸術思想と感性学『判断力批判』概観
- 第10回 芸術観の変容と近代哲学の関係
- 第11回 仏教芸術をめぐる①仏の世界
- 第12回 仏教芸術をめぐる②極楽と地獄
- 第13回 現代芸術の美学①遠近法への懐疑
- 第14回 現代芸術の美学②中心の喪失
- 第15回 総復習と総括

評価方法

授業の参加状況と授業中のレポート、学期末試験を総合的に判断して評価する。

使用教材

特になし

授業外学習の内容

- ・ 次回の授業のプリントを配布するので、専門用語等事前に予習しておくこと。
- ・ 今までの授業の理解度を確認するために小テストを行うのでよく復習しておくこと。

備考

興味・関心を持って積極的に参加して欲しい。質問は大歓迎

ボランティア・市民活動論（共通教養科目）

担当者

金井敏

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

ボランティア・市民活動は、自主的な貢献活動として福祉分野に限らず環境や情報、国際協力まで幅広く取り組まれ、今日の社会に不可欠な存在となっている。この講義では、具体的なボランティア・市民活動の考え方や実践方法を学び、学生が自ら実践することができる力を養成する。

到達目標

ボランティア・市民活動の実践例を理解するとともに、ボランティア・市民活動支援センターを活用し活動に参加し、活動ニーズを体得できる

講義内容と講義計画

- 第1回 ボランティア・市民活動～新しい世界への誘い
- 第2回 ボランティアの力を活かす仕組み～ボランティアセンターの役割
- 第3回 子どもの明日をサポートする～子ども劇場の取り組み
- 第4回 人々はどのようにボランティアに取り組んだか～欧米と日本の歴史
- 第5回 ボランティアとNPO～学生でも創れるNPO法人～
- 第6回 障害スポーツ・レクリエーションのすすめ
- 第7回 小中高校の福祉教育・ボランティア学習はこれでいいか
- 第8回 バリアフリー社会と心のバリアフリー
- 第9回 新しい支え合いの必要性～20年後のあなたとへ
- 第10回 動物は人間のパートナー～動物愛護協会の取り組み
- 第11回 被災地に届け！災害支援ボランティア活動
- 第12回 分かちあう寄付の文化で花咲く貢献社会（共同募金・地域通貨）
- 第13回 地域支えあいのボランティア～ふれあい・いきいきサロン～
- 第14回 地域支えあいのボランティア～民生委員・児童委員の活躍～
- 第15回 ボランティア・市民活動から学べたこと

評価方法

- ・学期末に課すレポートによる評価（60点相当）
- ・ボランティア実践＝実践から得た成果など学習内容の報告書による評価（25点相当）
- ・授業のリアクションペーパーによる評価（15点相当）
- ・授業開講数の2/3以上の出席について、評価対象とする。
- ・15分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・私語などのため授業を妨げる場合は、退出およびマイナス評価をする場合がある。

使用教材

テキストは使用しない。レジュメ・関係資料は授業にて配布する。

授業外学習の内容

- ・上記のボランティア実践に取り組むこと。
- ・次回のテーマに沿ったボランティア・市民活動について予習しておくこと。

備考

- ・ボランティア・市民活動は、社会に関心をもつ学生が実際の社会と関わりを持つことができるとともに、自分自身の可能性にチャレンジすることができる、とても良い機会です。
- ・ボランティア実践では、社会が求めているニーズに応えることを通じて、人々の問題を把握するとともに、その解決策を考えることもできます。このような体験は、将来の就職活動でも大いに活かすことができます。VSCを活用して参加すること。
- ・考えて行動する学生を目指して、一緒に学びましょう！

人権論（共通教養科目）

担当者

森部英生

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

人権ないし基本的人権は、制度的・最終的には、憲法を頂点として構築されている人権法制によって保障される。この授業では、この点に着目し、憲法に定められている諸々の人権条項を概説するほか、国際的な人権文書にも言及し、同時に、単にそれら条文の開設に留まることなく、それら法条に関連する裁判事件を取り上げながら人権感覚を磨くことにする。

到達目標

もっぱら法的な側面から人権を眺めるとともに、日常生活における種々の差別や人権侵害の問題を、実例ないし裁判事例を通して学び、人権感覚を鋭くして、社会における人権尊重とその現実化をめざす。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的人権の沿革
- 第3回 明治憲法における人権保障
- 第4回 日本国憲法における人権保障
- 第5回 人権の主体
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 請願権と国家賠償法
- 第9回 思想及び良心の自由
- 第10回 信教の自由
- 第11回 表現の自由
- 第12回 学問の自由
- 第13回 両性の平等
- 第14回 生存権
- 第15回 まとめ

評価方法

3回の小テストに約70%、授業に対する貢献度等に約30%を配分し、これらを総合して評価する

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、5回目ごとの小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

この授業は、憲法に定める種々の人権条項を概観するものですが、単に条文を解説するだけでなく、それぞれの条文にまつわる裁判事件(人権裁判)を多く引用していきます。特に保育者・教育者をめざす学生諸君に有益だろうと考えます。豊かな人権間隔を養うことをめざして授業に臨んで下さい。

人間関係論（共通教養科目）

担当者

宮内洋

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

「人間関係論」とはホッパ実験によって得られた発見をもとに、経営組織の諸状況が人間関係によって規定され、その間の因果関係を体系化した理論である。当然のことながら、これらのことを講じるが、本科目においては、人間発達学部が保育者・教育者を養成する場であるということも鑑みて、子ども同士、保育者・教育者と子ども、保育者・教育者と保護者の関係についても焦点を当てる。また、子どもの相互のかかわりと関係作りなどについての理解を深めるなど、人間関係の発達の側面についても講じる。

到達目標

「人間関係論」の基礎的な知識を学ぶとともに、日常生活における人間関係に関する心理学・社会学・教育学の各領域の基礎的な知見を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「人間関係論」の成立
- 第3回 職場と人間関係
- 第4回 社会的ジレンマ
- 第5回 乳幼児期の人間関係 (1)
- 第6回 乳幼児期の人間関係 (2)
- 第7回 乳幼児期の人間関係 (3)
- 第8回 児童期の人間関係
- 第9回 青年期の人間関係
- 第10回 恋愛関係論 (1)
- 第11回 恋愛関係論 (2)
- 第12回 保育・教育現場の人間関係
- 第13回 差別と偏見
- 第14回 日本社会における人間関係:「空気を読む」ことについて
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。なお、授業を妨害し、他の受講者の学習を妨げる者は受講を認めない。

使用教材

教科書は特に指定しません。必要に応じて、資料を配付します。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。本科目では、いくつかの課題に取り組んでいただく予定ですので、授業に対する積極的な態度が望まれます。

ジェンダー論（共通教養科目）

担当者

前田由美子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

性別による社会の制度化を歴史的・文化的・社会的視点からとらえ直し、その制度化のもたらした問題を人権の問題として深く理解する。

到達目標

性別に関して存在する偏った社会の慣習や考え方によって妨げられている能力の発揮や、不自由な人生選択の実態を知り、その克服の方策を考えることで、自らの人生設計と社会創造に役立てることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 講義全体の説明
- 第2回 ジェンダーという概念
- 第3回 生き物としての性とその多様性
- 第4回 性的指向 セクシュアリティ
- 第5回 性役割と性規範
- 第6回 性的同一性（ジェンダー・アイデンティティ）
- 第7回 性別と経済社会
- 第8回 母親と子どもの関係
- 第9回 父親と子どもの関係
- 第10回 労働と性別秩序
- 第11回 過労問題 ワーク・ライフ・バランス
- 第12回 男性問題
- 第13回 セクシュアル・ハラスメント
- 第14回 ドメスティック・バイオレンス
- 第15回 まとめ

評価方法

講義日ごとに、ミニレポートを提出。約25%ずつで4日間。

使用教材

プリント、映像資料、文献資料など

授業外学習の内容

配布された授業内容に関連する文献資料などをよく読み、課題にそってまとめること。

備考

共生の倫理（共通教養科目）

担当者

瓜巢一美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

福祉論、国際理解教育などを基礎にして、多民族、多文化共生社会を身近なところから考える。

到達目標

多文的、分断的な社会生活状況の中で、学習を通して、すべての人間が共に生まれ、育ちあい、学びあい、働きあい、暮らしていることの認識を深め、実践する共生を自覚する。

講義内容と講義計画

- 第1回 学習（研究）の方針・文献紹介・評価等について
- 第2回 共生の倫理 1) 共生の概念 2) 共生と倫理
- 第3回 多文化社会と共生の広がり
- 第4回 社会生活と共生の課題
- 第5回 都市化における多文化社会生成
- 第6回 都市の生活における課題（多文化社会の現状）
- 第7回 地域と多文化社会（事例を通して）
- 第8回 教育に共生
- 第9回 障害者との共生の倫理
- 第10回 障害者との施設生活
- 第11回 高齢者との施設生活
- 第12回 共生のあり方・必要（家族・地域・職場）
- 第13回 多民族、多文化等の共生にむけて
- 第14回 学習のふりかえり・研究のあり方
- 第15回 学習のふりかえり

評価方法

筆記試験 60%、授業への参加 10%、小レポート 30%（テストの範囲は原則として事前に口頭で伝えたい）

使用教材

参考文献を指示し、小レポートのテーマとすることもある。講義の要点をメモにし、その要点を中心にレポートする。

授業外学習の内容

前回の授業に提起された課題を学習しておくこと。図書館や現地踏査などで学習を深めておく。

備考

チーム医療アプローチ論（共通教養科目）

担当者

各学科教員

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

福祉・医療系の専門職育成を担う大学として、チーム医療を推進する上で各学科の学生が各専門職の役割・活動を理解する。

到達目標

1. チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について理解できる。
2. 各専門職の役割と活動について理解できる。
3. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性について
第2回 チーム医療における看護師・保健師の役割と活動
第3回 チーム医療における理学療法士の役割と活動
第4回 チーム医療における薬剤師の役割と活動
第5回 チーム医療における管理栄養士の役割と活動
第6回 チーム医療における社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の役割と活動
第7回 チーム医療における保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の役割と活動
第8回 チーム医療における診療情報管理士の役割と活動

評価方法

評価方法：授業参加への積極性（40点）、レポート（60点）

- ・ レポート他職種の役割と活動を理解した上で、チーム医療を促進するために自分が目指す専門職としての役割と課題についてまとめる。
- ・ 各学科の単位認定者が各学科の学生のレポートを採点する。

使用教材

授業時に配布する資料

授業外学習の内容

自身が専攻する専門職の役割や活動およびチーム医療について事前に、自己学習を行うこと。

備考

健康・福祉・医療・教育のスペシャリストを目指している学生の皆さんは将来、人々の健康を維持・増進する役割を担います。各専門職が力を存分に発揮して協働して福祉・医療・教育を実践するチーム医療を推進することが求められます。他学科の学生と交流をしながら多職種の活動と役割を学習しましょう。

キーワード: 専門職、チーム医療、チームアプローチ

国際医療事情（共通教養科目）

担当者

クリストファー・ターン、町田修三

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

学生の国際化促進とグローバル人材の養成を目的として設置された科目である。特に本学学生は医療系を専攻する者が多いため、海外の医療に関する様々な事項を経験的に学ぶことに重点を置いている。具体的な内容としては、海外諸国の健康・医療教育、健康・医療の実態、医療制度、病医院や医師・コメディカル等の供給体制、病医院や医療施設の世界比較等について学ぶ。国際化を促進するため、学生には英語で日本の文化や医療の説明をしたり、医療に関する基礎的なディスカッションをしたりすることを取り入れる。また、本講義では、学生が実際に海外に赴き実体験として国際医療事情を見聞することを強く推奨する。

到達目標

- ・ 諸外国の医療教育を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療の実態を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の医療制度を理解し、日本との違いを説明できる。
- ・ 諸外国の病医院について学び、日本との違いを説明できる。
- ・ 日本の医療教育や医療事情について、英語で解説ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 医療の国際化とは
- 第3回 日本の医療教育、医療制度、医療事情
- 第4回 日本の医療教育、医療制度、医療事情を英語で説明してみよう
- 第5回 先進国（アメリカ、イギリス、ドイツ）の医療教育
- 第6回 先進国の医療事情Ⅰ
- 第7回 先進国の医療事情Ⅱ
- 第8回 先進国の病院
- 第9回 その他の先進国（北欧、カナダ、オーストラリアなど）の医療事情Ⅰ
- 第10回 その他の先進国の医療事情Ⅱ
- 第11回 中進国（台湾、シンガポール、中国など）、途上国（ベトナム、インドネシア、タイなど）の医療教育
- 第12回 中進国、途上国の医療事情Ⅰ
- 第13回 中進国、途上国の医療事情Ⅱ
- 第14回 学生プレゼンテーション
- 第15回 学生プレゼンテーションとまとめ

評価方法

最終レポート（50%）、提出物（20%）、発表、討論など授業参加度（30%）。
海外研修参加者は、事前・事後研修および発表のパフォーマンス（30%）、研修レポート（30%）、研修中のパフォーマンス（40%）

使用教材

特に指定はない。各自自分のリサーチ目的に沿った文献、教材を探すこと。

授業外学習の内容

本講義では学生主体のリサーチと発表やディスカッションを多く取り入れる。毎回十分な準備をしてくること。海外研修に参加する者は、受身ではなく積極的な参加意欲を常に意識すること。

備考

Introduction to Healthcare Sciences（共通教養科目）

担当者

小澤瀨司、町田修三、クリストファー・ターン、村上孝、今井純、長谷川恵子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

学生の国際化推進とグローバル人材の育成を目的に設置された講義科目であり、授業は原則英語で行う。日本では医療分野の国際化はまだ遅れているが、世界的には急速に拡大しつつある。本講義では、国際的な医療人養成のため、世界共通語である英語を用いて、医療に関する基礎的な事項を易しく解説していく。複数の教員がオムニバス形式で担当するが、学生の理解度を確認しながら平易な英語で解説するので、受講に際して特に高度な英語力は要求しない。英語による授業を学生がしっかりと理解し、医療コミュニケーション能力を高めることで、医療教育の国際化を先取りするような講義へと発展させることを目指す。

到達目標

- ・医療に関する基礎的な内容に関して、英語での説明を理解できる。
- ・理解した内容について、第三者に説明できる。
- ・医療に関するトピックに関して、英語での基礎的なプレゼンテーションやディスカッションができる。
- ・医療に関するトピックについて、外国の学生と話をすることができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction of the course
- 第2回 Medical globalization and Japan's healthcare system
- 第3回 Healthcare system of foreign countries
- 第4回 U.S. healthcare in the media I
- 第5回 U.S. healthcare in the media II
- 第6回 Using Medline Plus to obtain medical information in English I
- 第7回 Using Medline Plus to obtain medical information in English II
- 第8回 Immunity and diseases I
- 第9回 Immunity and diseases II
- 第10回 Immunity and diseases III
- 第11回 Living environment and skin diseases
- 第12回 Genes and cancer : basic understanding of the disease
- 第13回 Mental health
- 第14回 Mental health and social skills
- 第15回 Summary and concluding remarks

評価方法

担当各教員による評価を総合して決定する。各教員は、毎回の授業参加度や講義終了時に課す提出物または小レポートにより、それぞれの持ち点に応じて学生を評価する。

使用教材

担当教員が授業中に配布する。

授業外学習の内容

教材は毎回次週のものをもつて配布するので、理解度を担保するためにも必ず予習しておくこと。分からない単語は調べておくこと。

英語 I A (共通教養科目)

担当者

クリス・ターン

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

In this course, students will create a portfolio, a collection of their work made during the course. Students will make several projects (either in groups and individually) related to nursing and then add their projects to their portfolios. Students will assess their own work, and they will be assessed by their classmates and also by the teacher. Projects include making a Name Card / Personal Collage, Rules of Nursing Poster, Parts & Organs of Body, What is Nursing? etc.

到達目標

To acquire basic communication and presentation skills in English.

講義内容と講義計画

- 第1回 Who am I Collage? (1)
- 第2回 Who am I Collage? (2)
- 第3回 Nursing Vocabulary - Daily Schedule of a Nurse (1)
- 第4回 Nursing Vocabulary - Daily Schedule of a Nurse (2)
- 第5回 Nursing Vocabulary - Organs & Body Parts (1)
- 第6回 Nursing Vocabulary - Organs & Body Parts (2)
- 第7回 Nursing Vocabulary - Taking a Patient History (1)
- 第8回 Nursing Vocabulary - Taking a Patient History (2)
- 第9回 Nursing Vocabulary - Uniform & Medical Instruments
- 第10回 Nursing Vocabulary - The Nurse's Workplace
- 第11回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (1)
- 第12回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (2)
- 第13回 Nursing Procedures - What do Nurses do? Demonstration Speech (3)
- 第14回 Portfolio Display & Assessment
- 第15回 Portfolio Display & Assessment

評価方法

"授業参加度 (10%)、小テスト/課題遂行度 (30%)、試験 (60%)

尚、授業回数数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。"

使用教材

プリントを配布する

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと。

備考

辞書は必携。教職必修科目

英語 I B (共通教養科目)

担当者

出雲春明

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Olympic Cities ①
- 第3回 Unit 1 Olympic Cities ②
- 第4回 Unit 1 Olympic Cities ③
- 第5回 Unit 2 Internet Communities ①
- 第6回 Unit 2 Internet Communities ②
- 第7回 Unit 2 Internet Communities ③
- 第8回 Unit 3 Console Gaming ①
- 第9回 Unit 3 Console Gaming ②
- 第10回 Unit 3 Console Gaming ③
- 第11回 Unit 4 Teleworking ①
- 第12回 Unit 4 Teleworking ②
- 第13回 Unit 4 Teleworking ③
- 第14回 Unit 5 Graffiti ①
- 第15回 Unit 5 Graffiti ②

評価方法

授業参加度 (10%)、小テスト (30%)、期末試験 (60%)

使用教材

アンドルー E. ベネット『Reading Pass 1 Second Edition』、南雲堂、2015年。

授業外学習の内容

テキスト予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

辞書は必携。最低限の予習として不明な単語は事前に調べておくこと。

英語 I C (共通教養科目)

担当者

岡田 和子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

第1回	体の部位と診療科目の英語	問診票の英語 (1)
第2回	痛みに関する英語表現～PQRST 質問	問診票の英語 (2)
第3回	外来での英会話～診療前	問診票の英語 (3)
第4回	外来での英会話～診療後	問診票の英語 (4)
第5回	医療面接での英会話～主訴・現病歴	問診票の英語 (5)
第6回	医療面接での英会話～既往歴・家族歴・社会歴問	問診票の英語 (6)
第7回	身体に関する英語表現	問診票の英語 (7)
第8回	症状に関する英語表現	問診票の英語 (8)
第9回	検査に関する英語表現	問診票の英語 (9)
第10回	介助で使う英語表現	医療英会話 (1)
第11回	インフォオームド・コンセントに必要な英語	医療英会話 (2)
第12回	医療英会話 (3)	
第13回	医療英会話 (4)	
第14回	医療英会話 (5)	
第15回	まとめ	

評価方法

平常点 (出席状況・授業参加度・課題遂行度) と期末試験の得点を総合的に評価する。授業回数の 3 分の 1 以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

看護に役立つメディカル英語表現のプリントを作成、配布

授業外学習の内容

テキスト予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

オフィスアワー 火・水・木曜
うる覚えは禁物です。単位を落とします。

英語ⅡA（共通教養科目）

担当者

出雲春明

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ①
- 第3回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ②
- 第4回 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? ③
- 第5回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ①
- 第6回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ②
- 第7回 Chapter 2 Mika's Homestay in London ③
- 第8回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ①
- 第9回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ②
- 第10回 Chapter 3 It's Not Always Black and White ③
- 第11回 Chapter 4 Helping Others ①
- 第12回 Chapter 4 Helping Others ②
- 第13回 Chapter 4 Helping Others ③
- 第14回 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives ①
- 第15回 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives ②

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト（30%）、期末試験（60%）

使用教材

Linda Lee & Erik Gundersen, Select Readings Pre-Intermediate Second Edition, Oxford University Press, 2011.

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

備考

辞書は必携。最低限の予習として不明な単語は調べておくこと。

英語ⅡB（共通教養科目）

担当者

武藤一也

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

幅広い現代的トピックをあつかったテキストにふれ、大学生レベルの英文を読むための、基礎的な語彙を獲得する。また、一般的な英文読解のためのリーディング・スキルを獲得するとともに、リスニング・ライティング等の総合的な英語運用能力を高める。

到達目標

大学生初～中級レベルのリーディング・スキルと語彙力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Chapter 1
- 第3回 Chapter 1
- 第4回 Chapter 2
- 第5回 Chapter 2
- 第6回 Chapter 3
- 第7回 Chapter 3
- 第8回 Chapter 4
- 第9回 Chapter 4
- 第10回 Chapter 5
- 第11回 Chapter 5
- 第12回 Chapter 6
- 第13回 Chapter 6
- 第14回 Chapter 7
- 第15回 Chapter 7

評価方法

毎回の授業内の小テストの合計で評価する。

使用教材

Andrew E. Bennett, Reading Pass 1, 南雲堂

授業外学習の内容

テキスト予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行うこと。

質問等は授業後に

質問等は授業後に

英語ⅡC（共通教養科目）

担当者

柳澤順一

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、CALL システムとビデオ教材を用いながら、場面に応じた実用表現を習得し、国際社会に必須のリスニング・スキル、コミュニケーション・スキルを向上させることを目的とする。

到達目標

大学生に必要なとされるリスニング・スキル、コミュニケーション・スキル獲得のための講義を行う。

講義内容と講義計画

- 第1回 Course Introduction; Video Watching 1
- 第2回 E-learning Training; Video Watching 2
- 第3回 Chapter 1: Where Do I Get the Bus?
- 第4回 Chapter 2: Do You Have a Reservation, Ma'am?
- 第5回 Chapter 3: Could You Repeat That?
- 第6回 Review of Chapters 1-3; Video Watching 3
- 第7回 Chapter 4: I'll Take the Wrangler Convertible
- 第8回 Chapter 5: Would You Like Soup or Salad?
- 第9回 Chapter 6: Where's the Fitting Room?
- 第10回 Review of Chapters 4-6; Video Watching 4
- 第11回 Chapter 7: Would You Mind Taking My Picture?
- 第12回 Chapter 8: Good to See You!
- 第13回 Chapter 9: I Enjoyed My Stay
- 第14回 Review of Chapters 7-9; Video Watching 5
- 第15回 Completing E-learning Portfolio; Preparation for the Final Exam

評価方法

出席 10%、平常点 40%（毎回の吹き込み・ディクテーション、プリント提出など）、定期試験 50%

使用教材

"Viva! San Francisco – Survival English Video, Ohyagi, H. & Kiggell, T., Macmillan Language House
"

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

授業中にテキスト対応の動画（WMV）、音声（MP3）およびテキスト・ファイルを学生用端末に配布するので、それを保存の上、自宅またはPCルームでしっかり復習をしてください。特に予習は必要としません。

英語Ⅲ A（共通教養科目）

担当者

飛田ルミ

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

この講義では、看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用い、医者・看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識等を英語で学習する。医療・看護に関する英語表現力、語彙力、リスニング能力を身につけるとともに、基礎的な医療現場での会話表現を習得することが、この講義の目的である。

到達目標

基本的な看護英語を身につける

講義内容と講義計画

第1回 ガイダンス Unit 1 First Visit to a Hospital
第2回 Unit 1 First Visit to a Hospital Unit 2 How to Fill in a Registration Form
第3回 Unit 2 How to Fill in a Registration Form Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities
プレゼンテーション
第4回 Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診（1）
プレゼンテーション
第5回 Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診（1） Unit 5 Medical Check Up 1 プレゼンテーション
第6回 Unit 5 Medical Check Up 1 Unit 6 Medical Check Up 2 プレゼンテーション
第7回 Unit 6 Medical Check Up 2 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis プレゼンテーション
第8回 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms プレゼンテーション
第9回 Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's
Symptoms プレゼンテーション
第10回 Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms Unit 10 Explaining Blood Test Results
プレゼンテーション
第11回 Unit 10 Explaining Blood Test Results Unit 11 How to Take Medicine プレゼンテーション
第12回 Unit 11 How to Take Medicine Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy プレゼンテーション
第13回 Unit 12 Mrs. Johnson Feels Dizzy Unit 13 An MRI Test MRI プレゼンテーション
第14回 Unit 13 An MRI Test MRI 総括 プレゼンテーション
第15回 期末試験

評価方法

期末試験 60% 平常点 40%（出席率、発表課題遂行度、授業参加度など）

使用教材

樋口晶彦看他 「看護英語への総合的アプローチ」 First Aid! English for Nursing 金星堂

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

英語ⅢB（共通教養科目）

担当者

武藤一也

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語の4技能（「読む」・「聞く」・「書く」・「話す」）の基礎を完成。

講義内容と講義計画

第1回 インTRODクシヨン
第2回 Unit 1
第3回 Unit 1
第4回 Unit 2
第5回 Unit 2
第6回 Unit 3
第7回 Unit 3
第8回 Unit 4
第9回 Unit 4
第10回 Unit 5
第11回 Unit 5
第12回 Unit 6
第13回 Unit 6
第14回 Unit 7
第15回 Unit 7

評価方法

毎回の授業内の小テストの合計で評価する。

使用教材

樋口晶彦 John Tremarco, First Aid!: English for Nursing, 金星堂

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

質問等は授業後に

英語ⅢC（共通教養科目）

担当者

中村博生

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

この講義では、看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用い、医者・看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識等を英語で学習する。医療・看護に関する英語表現力、語彙力、リスニング能力を身につけるとともに、基礎的な医療現場での会話表現を習得することが、この講義の目的である。

到達目標

基本的な看護英語を身につける

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、Unit 1 First Visit to a Hospital 来院 ①
- 第2回 Unit 1 First Visit to a Hospital 来院 ②
- 第3回 Unit 2 How to Fill in a Registration Form 初診受付 ①
- 第4回 Unit 2 How to Fill in a Registration Form 初診受付 ②
- 第5回 Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities 生活習慣を聞く ①
- 第6回 Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities 生活習慣を聞く ②
- 第7回 Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診 (1) ①
- 第8回 Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診 (1) ②
- 第9回 Unit 5 Medical Check Up 1 脈拍、血圧、体重の測定 ①
- 第10回 Unit 5 Medical Check Up 1 脈拍、血圧、体重の測定 ②
- 第11回 Unit 6 Medical Check Up 2 採血、採尿 ①
- 第12回 Unit 6 Medical Check Up 2 採血、採尿 ②
- 第13回 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis 診断 (1) ①
- 第14回 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis 診断 (1) ②
- 第15回 Review

評価方法

授業参加度（10%）、小テスト・課題遂行度（30%）、試験（60%）

なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

樋口晶彦／John Tremarco（2013）『First Aid!: English for Nursing』（金星堂）

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携

英語Ⅳ A（共通教養科目）

担当者

岡田和子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

今や事実上の国際標準語とも言える英語は、多くの人々の母語というだけでなく、英語圏以外の人々とのコミュニケーションの手段として、またインターネット上の共通言語としても必須である。こうした現状を踏まえ、本講義では、異文化理解にも役立つビデオ教材を用いて、学生の英語力（「読む」・「聞く」・「話す」能力）を総合的に向上させることを目的とする。

到達目標

英語による日常的コミュニケーション能力を身につける

講義内容と講義計画

- 第1回 chapter10 空港でチケットを確認し、搭乗
- 第2回 chapter 1 桑港到着
- 第3回 ★coffee break サンフランシスコってこんなところ
- 第4回 chapter 2 ホテルにチェックイン
- 第5回 chapter 3 道を訪ねる
- 第6回 chapter 5 レストランで食事
- 第7回 chapter 6 洋服を買う
- 第8回 chapter 7 写真を撮ってもらう
- 第9回 chapter 9 ホテルをチェックアウト
- 第10回 ★coffee break 外国のクリスマスってどんなもの？
- 第11回 chapter 18 郵便局で荷物を発送
- 第12回 chapter 19 外国で薬屋さんへ!?
- 第13回 option 医療関係の表現は？ (1)
- 第14回 option 医療関係の表現は？ (2)
- 第15回 まとめ

評価方法

平常点（出席状況・授業参加度・課題遂行度）と期末試験の得点を総合的に評価する。授業回数の3分の1以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)

授業外学習の内容

備考

英語ⅣB（共通教養科目）

担当者

真下裕子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修1単位

講義目標

この講義では、看護・医療の現場において必要とされる英語に焦点を絞ったテキストを用い、医者・看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識等を英語で学習する。医療・看護に関する英語表現力、語彙力、リスニング能力を身につけるとともに、基礎的な医療現場での会話表現を習得することが、この講義の目的である。

到達目標

基礎的な看護英語を身につける

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、Unit 1 First Visit to a Hospital 来院 ①
- 第2回 Unit 1 First Visit to a Hospital 来院 ②
- 第3回 Unit 2 How to Fill in a Registration Form 初診受付 ①
- 第4回 Unit 2 How to Fill in a Registration Form 初診受付 ②
- 第5回 Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities 生活習慣を聞く ①
- 第6回 Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities 生活習慣を聞く ②
- 第7回 Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診 (1) ①
- 第8回 Unit 4 Mr. Brown's Symptoms 問診 (1) ②
- 第9回 Unit 5 Medical Check Up 1 脈拍、血圧、体重の測定 ①
- 第10回 Unit 5 Medical Check Up 1 脈拍、血圧、体重の測定 ②
- 第11回 Unit 6 Medical Check Up 2 採血、採尿 ①
- 第12回 Unit 6 Medical Check Up 2 採血、採尿 ②
- 第13回 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis 診断 (1) ①
- 第14回 Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis 診断 (1) ②
- 第15回 Review

評価方法

"授業参加度・小テスト・課題遂行度（40%）、試験（60%）

なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。"

使用教材

First Aid! - English for Nursing (樋口晶彦/John Tremarco 金星堂)

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書、ノートは必携

英語ⅣC（共通教養科目）

担当者

アンドリュー・カズンズ

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

This class's goal is to help students to enjoy basic conversational English for travel, work etc. Lessons consist of both written and spoken exercises. I don't generally give the students homework, but I advise them to work though the extra exercises given at the back of the textbook.

到達目標

To acquire basic conversational skills in English.

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction, Unit 1 Please Call Me Beth.
- 第2回 Unit 2 What Do you Do?
- 第3回 Unit 3 How Much Is It?
- 第4回 Unit 4 I Really Like Hip-Hop.
- 第5回 Unit 5 I Come from a Big Family.
- 第6回 Unit 6 How Often Do You Exercise?
- 第7回 Unit 7 We Had a Great Time!
- 第8回 Unit 8 What's Your Neighborhood Like?
- 第9回 Unit 9 What Does She Look Like?
- 第10回 Unit 10 Have You Ever Ridden a Camel?
- 第11回 Unit 11 It's a Very Exciting Place!
- 第12回 Unit 12 It Really Works!
- 第13回 Unit 13 May I Take Your Order?
- 第14回 Unit 14 The Biggest and the Best!
- 第15回 Unit 15 I'm Going to a Soccer Match.

評価方法

Assessment will be via a written 60 minute exam on the 15th lesson, which is based on material students will have studied in units 1-12 of the text book.

使用教材

Jack C. Richard, Interchange 4th Edition Level 1, Cambridge UP.

授業外学習の内容

不明な単語は事前に調べておくこと

備考

辞書は必携

Integrated English I (共通教養科目)

担当者

クリストファー・ターン

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択1単位

講義目標

本講義では、海外英語研修参加希望者を対象に、海外での生活における様々な場面を想定した英会話練習を行う。また、海外英語研修の事前準備についての説明も行う。但し、海外英語研修参加希望者以外も履修可。

到達目標

英語による日常会話レベルのコミュニケーション能力を獲得する。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 What is communication?
- 第 2 回 Cognitive Psychology: Get to know yourself
- 第 3 回 Social skills
- 第 4 回 The power of imagination and innovation
- 第 5 回 Learning to control a conversation
- 第 6 回 Listening strategies
- 第 7 回 Basic English: Self introduction and first steps for communicating in English
- 第 8 回 Creating your own English database
- 第 9 回 Meet a foreigner
- 第10 回 Speech basics: Talking to an audience
- 第11 回 Presentation 1 (power point)
- 第12 回 Presentation 2 (power point)
- 第13 回 Make your own textbook 1
- 第14 回 Make your own textbook 2
- 第15 回 Conclusion

評価方法

授業内パフォーマンス 90%、提出物 10%

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

毎回プレゼンテーションをしてもらうので、準備をしたうえで授業に臨むこと。

備考

Integrated English II (共通教養科目)

担当者

真下裕子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

実践問題演習を通して、TOEICテストの全貌と特徴、傾向と対策をおさえるとともに、スコアアップのための受験のストラテジーも習得する。

到達目標

TOEICテスト500点以上を目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 Introduction(TOEICテストの概略説明と学習法)
- 第2回 Part 1
- 第3回 Part 2
- 第4回 Part 3
- 第5回 Part 4
- 第6回 Part 5
- 第7回 Part 6
- 第8回 Part 7
- 第9回 Part 1,2
- 第10回 Part 3,4
- 第11回 Part 5,6
- 第12回 Part 7
- 第13回 模擬テスト(リスニング)
- 第14回 模擬テスト(リーディング)
- 第15回 模擬テスト解答と解説

評価方法

授業参加度(10%)、小テスト/課題遂行度(30%)、模擬テスト(60%)。なお、授業回数の3分の1以上欠席すると試験の受験資格を失うので十分注意すること。

使用教材

開講時に指示する。

授業外学習の内容

テキストの予定範囲で扱う語の意味を事前に確認しておくこと。また、テキストの内容についても、教員の指示に従って予習を行い、授業で学んだことの復習を徹底すること。

備考

必ず辞書とノートを持参すること。

ドイツ語（共通教養科目）

担当者

大石桂子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

日常生活でよく登場する話題を題材に、ドイツ語で自己表現できるようになる。会話練習と文法学習の両面から、理解力（読む、聞く）と表現力（書く、話す）を養い、基礎を定着させる。また、講義中のドイツ文化、風景、歴史などの紹介を通して、ドイツ語圏の魅力に触れる。

到達目標

初級の学習内容——挨拶表現、数詞、動詞の人称変化（現在形）、冠詞、過去の表現など、会話および文法の基礎を理解し、活用できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 挨拶と発音練習、ドイツ語を使う国々の紹介
- 第2回 ドイツ語の abc
- 第3回 Lektion 1 人と知り合う:名前、出身、住所をたずねる
- 第4回 動詞の人称変化 (1)、疑問文
- 第5回 Lektion 2 人を誘う:友人を紹介する、数、電話番号
- 第6回 動詞の人称変化 (2)、ドイツ語の語順など
- 第7回 Lektion 3 道の尋ね方・答え方:位置・方向を表す語
- 第8回 名詞の性、定冠詞と不定冠詞など
- 第9回 Lektion 4 買い物:値段、気に入った?
- 第10回 名詞と冠詞の3格、前置詞など
- 第11回 Lektion 5 週末や休暇の予定:天候、一日の行動
- 第12回 分離動詞、話法の助動詞など
- 第13回 Lektion 6 過去のできごと:時を表す表現
- 第14回 過去分詞、現在完了
- 第15回 まとめ

評価方法

定期試験(60%)、小テスト(40%)に授業への積極性などを加味する。

使用教材

『アプファールト<ノイ>』三修社。また、講義中に補助プリントを配布する。

授業外学習の内容

テキスト、配布プリントを用いて復習し、自習課題などを行う。

備考

受講希望者は必ず初回ガイダンスに出席すること。(※テキストはガイダンス後に購入)
なお、本講義では基礎力養成のため、反復練習を重視する。自宅での復習も欠かさず、学習内容を自分のものにしてほしい。

フランス語（共通教養科目）

担当者

カディオオンボ・アナスタシア

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

フランス語に興味を持ってもらう

到達目標

初級文法を用いて基本的な会話を行ない、読み書きができる

講義内容と講義計画

- 第1回 アルファベットとつづり字記号、発音
- 第2回 リエゾンとアンシュヌマン
- 第3回 名詞（性）と冠詞
- 第4回 母音の発音
- 第5回 子音の発音
- 第6回 あいさつ表現
- 第7回 依頼の表現
- 第8回 be 動詞（être）
- 第9回 have（avoir）動詞
- 第10回 第1群規則動詞（-er 動詞）
- 第11回 否定文
- 第12回 時刻・年齢の表現
- 第13回 第2群規則動詞（-ir 動詞）
- 第14回 形容詞①
- 第15回 形容詞②

評価方法

筆記試験、授業参加度、ノート提出

使用教材

フランスの小学校で使われている本

授業外学習の内容

時々、印刷したものを配布します

備考

ポルトガル語（共通教養科目）

担当者

伊勢島・セリア明美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

ポルトガル語の基礎文法を習得することを目標とします。

到達目標

初歩の会話ができるようになると共にブラジル文化を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 Meu nome é Maria. (アルファベット、挨拶、自己紹介のしかた)
- 第2回 Ela não é japonesa. (出身地等を伝える表現、否定文、疑問文、前置詞 de)
- 第3回 Meu pai é médico. (職業等の言い方、家族、所有形容詞)
- 第4回 Sua mãe é alta? (形状を表す表現、形容詞①、形容詞の変化)
- 第5回 Quantos anos você tem? (年齢等の表現、数詞①、名詞の性と数、動詞 ter)
- 第6回 O Japão é mais frio que o Brasil. (比較の表現、形容詞②、定冠詞)
- 第7回 Você gosta de música? (好みを伝える、動詞 gostar、動詞 preferir)
- 第8回 Ela quer descansar. (願望の表現、不定冠詞、動詞 querer)
- 第9回 Meu celular está na bolsa. (存在を表す表現、動詞 estar、前置詞 em)
- 第10回 Eu vou ao banco. (行き先を伝える、動詞 ir、前置詞 a、前置詞 de)
- 第11回 Você fala português? (時間の表現、数詞②、-ar 動詞)
- 第12回 Eu corro todas os dias. (時の表現①、-er 動詞、前置詞 com)
- 第13回 Quando eles partem? (曜日、-ir 動詞、前置詞 em)
- 第14回 O que você fez ontem? (時の表現②、月の名前、完全過去形)
- 第15回 まとめ

評価方法

ミニ会話の発表 (50%)、小テスト (50%)

使用教材

プリントを配布します。

授業外学習の内容

前回授業内容に係る会話の発表を実施しますので、復習をしておいて下さい。

備考

“頭”と“心”の柔軟性をもって学習に挑んで頂ければと思います。

中国語（共通教養科目）

担当者

渡邊賢

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

中国語を学ぶ上で不可欠である発音とその表記と、また最も基礎的な構文を身に付ける。同時に中国文化の全般に関する興味を喚起したい。

到達目標

15回という限られた時間で最も基礎的かつ不可欠な事項を習得し、その後、継続して自力学習が可能な能力を育成することを目指す。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス：授業の展開の仕方、中国およびその言語に関する概略的な説。
- 第2回 発音の基礎Ⅰ：ピンイン字母、単母音、四声などを学習する。
- 第3回 発音の基礎Ⅱ：複合母音、「声（子音）」の唇音・舌尖音・舌根音などを学習する。
- 第4回 発音の基礎Ⅲ：鼻母音、「声（子音）」の舌面音・捲舌音・舌歯音などを学習する。
- 第5回 発音の基礎Ⅳ：「軽声」および四声の組み合わせの学習。発音の基礎の総復習。
- 第6回 教科書基本編レッスン1・レッスン2：簡単なあいさつの学習。
- 第7回 教科書基本編レッスン3・レッスン4：名前の聞き方・答え方、人称代名詞などの学習
- 第8回 教科書基本編レッスン5・レッスン6：指示代名詞、「是」を用いた判断文などの学習
- 第9回 教科書基本編レッスン7・レッスン8：中国語の主述構造（主謂構造）などについての学習。
- 第10回 教科書基本編レッスン9・レッスン10：疑問代詞、数詞などの学習。
- 第11回 教科書基本編レッスン11・レッスン12：数量や時刻を尋ねる疑問代詞などについての学習。
- 第12回 発音と語法の総復習Ⅰ
- 第13回 発音と語法の総復習Ⅱ
- 第14回 発音と語法の総復習Ⅲ
- 第15回 まとめ

評価方法

授業時毎回の小試験を50%、学期末筆記試験の成績を50%とする。

使用教材

山田眞一『医療系学生のための初級中国語』白帝社

授業外学習の内容

机に向かって学習するには及ばない。通学時などわずかな余暇を利用して、10分程度で構わぬので、必ず毎日、口や舌を動かして毎回の授業の内容を消化することが望ましい。また習慣的学習を身に着けたい。

備考

中国語の一語は、日本語の子音にあたる「声」と母音にあたる「韻」と、および高低のトーンである「調」とから構成され、この三者が正確に発音されなければ、相手に伝わる「コトバ」にはなり得ない。したがって授業は、最も基礎的な構文の徹底した反復学習によって中国語の発音ができる口を作ることに力点を置いて展開する。外国語の発音の習得は、困難なことでは決してないが、習慣的な学習の蓄積と、ある程度の忍耐が肝要である。履修者にはこの点を心得てほしい。

ハングル語（共通教養科目）

担当者

河正一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本授業は、はじめて韓国語を勉強する学生を対象にし、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きができることはもとより、基本文型を身に付けさせて簡単な日常会話ができることを目的とする。取り分け、初級レベルの韓国語運用能力を身につける。

到達目標

正確な発音、正確な文字表記を習得する。

韓国語の基本語彙・表現を習得する。

基本的な韓国語の4技能の「聞く」「話す」「読む」「書く」能力を向上させる。

講義内容と講義計画

第1回 韓国語について（概論）

第2回 母音、子音

第3回 激音、濃音

第4回 パッチム

第5回 二重母音

第6回 発音の変化

第7回 私は韓アルムです。

第8回 それは何ですか。

第9回 アルムさんはお兄さんがいますか。

第10回 食堂はどこにありますか。

第11回 週末は主にどう過ごしますか。

第12回 1時限目は何時からですか。

第13回 お姉さんと故郷へ帰ります。

第14回 韓国料理は少し辛くありませんか。

第15回 まとめ

評価方法

宿題 30%、小テスト 20%、中間・期末試験 50%

使用教材

李淑炫（2011）『チェミナ韓国語—自然に身につく会話と文法 韓国語初級テキスト』白帝社

授業外学習の内容

必ず予習・復習を行うこと。

授業では、毎回小テストを行う。

授業が始まる前に前回の宿題を提出する。

備考

質問等がある場合は hajeong007@gmail.com までに連絡すること。メールを送る際は「件名」に「高崎健康福祉大学ハングル語：名前」を必ず記入すること。

コンピュータ入門Ⅰ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本講義では、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

入門Ⅰでは特に、受講者が、コンピュータが扱う数、コンピュータでのデータ表現、計算の基本となる論理演算や論理回路などを学ぶことを通じて、コンピュータの動作の本質・背景を理解することができるようになることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 情報システム、コンピュータシステムとは、コンピュータの歴史
- 第2回 コンピュータシステムの特徴、コンピュータの種類
- 第3回 情報処理の手順、フローチャート
- 第4回 コンピュータが扱うデータ、情報の単位、ビット、バイト、文字コード（標準コード）
- 第5回 数の表現（10進数、2進数、8進数、16進数）、小数の表現
- 第6回 基数変換（10進数 \leftrightarrow 2進数・8進数・16進数）
- 第7回 その他の基数変換（2進数 \leftrightarrow 8進数・16進数、小数の基数変換）
- 第8回 固定小数点数と浮動小数点数
- 第9回 四則演算、補数（1の補数と2の補数）
- 第10回 負数の表現、補数による減算
- 第11回 論理演算（AND,OR,NOT,EOR,NAND,NOR）、論理記号、ベン図、真理値表
- 第12回 論理回路、MIL記号
- 第13回 加算回路、乗算回路、除算回路
- 第14回 コンピュータシステムの基本構成、中央処理装置の機能、データと命令
- 第15回 前期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出：90%、授業への参加度：10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。

授業外学習の内容

テキストの内容を事前に読んでおく。授業で配布した練習問題を解く。

備考

J検（文部科学省後援）の資格取得を奨励する。
講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ入門Ⅱ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

本講義では、入門Ⅰに引き続き、受講者が、J検 情報活用試験の1級～3級レベルの内容が理解できるようになることを目的とする。

到達目標

入門Ⅱでは特に、コンピュータとその周辺を理解するために、受講者が、コンピュータのハードウェア及び各種の情報関連機器などに関して、基礎的な知識を身につけることを目標とする。

講義内容と講義計画

- 第1回 パソコンの仕組み、入出力装置、記憶装置、演算装置、制御装置、CPU
- 第2回 CPUの仕組み、メモリの種類と特徴、問題演習
- 第3回 記憶媒体の種類と用途、磁気ディスク容量の計算、問題演習
- 第4回 ハードディスクの仕組みと活用、IDE、SCSI、データのバックアップ
- 第5回 インターフェース、バス、周辺機器との接続ポート、スロット、各種規格
- 第6回 ディスプレイの仕組みと種類、光の3原色、画像データ容量の計算
- 第7回 プリンタの仕組みと種類、色の3原色、用紙、プロッタ、イメージセッタ
- 第8回 各種入力装置、ポインティングデバイス、キーボード、スキャナ、OMR、OCR
- 第9回 ソフトウェアの種類、システムソフト、応用ソフト、OSの機能、システム開発
- 第10回 これまでのまとめと総合問題演習
- 第11回 ファイルの概念、ディレクトリ、FAT、各種データ形式、パソコンの保守管理
- 第12回 ネットワークアーキテクチャ（OSI）、ネットワークプロトコル
- 第13回 インターネット（歴史、ARPANET、TCP/IP、DNS、SMTP、POP）
- 第14回 ネットワークにおけるセキュリティ、プライバシー保護、著作権
- 第15回 後期のまとめ

評価方法

筆記試験及び課題の提出：90%、授業への参加度：10%
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

J検 情報活用試験の1級～3級レベルのテキストを使用する。

授業外学習の内容

テキストの内容を事前に読んでおく。授業で配布した練習問題を解く。

備考

J検（文部科学省後援）の資格取得を奨励する。
講義の内容・進度は状況に応じて一部変更・省略等することがある。

コンピュータ実習 I (共通教養科目)

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択 1 単位、理学療法学科 1年前期 選択 1 単位

講義目標

本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習 I においては、コンピュータの基本操作を学習するとともに、入力装置として不可欠なキーボードを自在に操作できるようタッチタイピングを学び、さらに、ワープロソフトやインターネットの活用能力を養う。

到達目標

主として、受講者が、コンピュータの基本的な操作ができるようになり、マイクロソフトの文書作成ソフト「Word」を用い、簡単な文書を作成できるようになる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 ガイダンス、コンピュータの基本操作 (PC の起動・ログオン・シャットダウン等)
- 第 2 回 Windows の基本操作
- 第 3 回 電子資料の参照方法・課題の電子提出の方法、練習課題
- 第 4 回 本学メールシステムの基本的な使い方
- 第 5 回 インターネットによる情報検索の基礎
- 第 6 回 タイピング(タッチメソッド)の基礎、タイピング練習
- 第 7 回 日本語入力の練習
- 第 8 回 Word 基本操作 1 (起動と終了、日本語入力システム、文章入力、文書の保存 等)
- 第 9 回 Word 基本操作 2 (文章入力続き、文書の印刷 等)
- 第 10 回 Word の活用 1 (複写・移動、クリップアートの利用 等)
- 第 11 回 Word の活用 2 (編集機能、表の作成 等)
- 第 12 回 まとめと演習課題
- 第 13 回 Word の応用 1 (並べ替え、検索と置換、段組、罫線 等)
- 第 14 回 Word の応用 2 (ワードアート、図形描画、テキストボックス)
- 第 15 回 総合演習課題

評価方法

課題の提出状況・出来栄え、授業への参加態度等で総合的に評価する。
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

「30 時間でマスター Office 2010」(実教出版)。
その他、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業時間外の時間も利用して課題を進めていくこと。
普段からコンピュータに接する時間を持つこと。

備考

実習の進み具合に応じて、内容は一部省略・変更等することがある。

コンピュータ実習Ⅱ（共通教養科目）

担当者

木幡直樹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位、理学療法学科 1年後期 選択1単位

講義目標

本科目は、初心者がパソコンを用いた基礎的な情報処理技術を身につけるための実習科目である。実習Ⅱにおいては、主に表計算ソフトの機能や用途を理解し、演習を通じて、その基本的な使い方を学ぶ。

到達目標

主として、受講者がマイクロソフトの表計算ソフト「Excel」の基本を理解し、簡単な表の作成・初歩的な集計処理・表のデータからのグラフ作成ができるようになる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス、Excel 基本操作（起動と終了、データの入力 等）
- 第2回 Excel 入門（簡単な表の作成、合計の計算、オートフィル 等）
- 第3回 ワークシートの活用1（表の編集、平均の計算、計算式の複写と相対参照）
- 第4回 ワークシートの活用2（絶対参照、最大・最小値、データ数のカウント、四捨五入、条件判定）
- 第5回 まとめの課題1
- 第6回 グラフ1（棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ）
- 第7回 グラフ2（3-D グラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ）
- 第8回 グラフ3（レーダーチャートグラフ、XY グラフ、絵グラフ）
- 第9回 まとめの課題2
- 第10回 データベース1（データの並べ替え、データの検索・置換）
- 第11回 データベース2（データ抽出、オートフィルタ、データ集計、クロス集計）
- 第12回 まとめの課題3
- 第13回 Excel 応用1（順位付け関数、検索用関数）
- 第14回 Excel 応用2（文字列操作関数、データベース関数、Word への埋め込み）
- 第15回 まとめの課題4

評価方法

課題の提出状況・出来栄え、授業への参加態度等で総合的に評価する。
詳細は講義時にアナウンスする。

使用教材

「30時間でマスターOffice2010」（実教出版）。
その他、必要に応じて資料を配布する。

授業外学習の内容

授業時間外の時間も利用して課題を進めていくこと。
普段からコンピュータに接する時間を持つこと。

備考

実習の進み具合に応じて、内容は一部省略・変更等することがある。

論理学（専門教養科目）

担当者

米田和美

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 2年前期 選択1単位

講義目標

筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。

到達目標

論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事の筋道をたてて正しく考える。）

- 1) 読む、書くを中心に文章の書き方を身につける。
「一文一義」の文が書けるようになる。
- 2) 聞く、話すを中心に言葉の運用能力の向上を図る。

講義内容と講義計画

第1回 「引用」

第2回 「悪文①」

第3回 「資料文の読み方」

第4回 「悪文②」

第5回 「主張と理由」

第6回 「悪文③」

第7回 テスト

内容

1、論理的な思考

2、文の七原則

3、事実の読み方（いつ、どこで、誰が、何を、どうしたのか）

4、主張と理由

5、研究論文を批判的に検討する。

評価方法

授業中課題 提出物

使用教材

使用しない

授業外学習の内容

予習復習を行うこと。

備考

人間発達論（専門教養科目）

担当者

角野善司

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 必修2単位

講義目標

本講義は人間の一生涯を受胎から死まで視野に入れて人間発達の理論を学ぶことを目的とする。人間の発達をライフサイクルにそって眺め、各発達段階における発達課題や発達危機の解決、また人格的活力の育成等を柱とする発達過程について学ぶ。

到達目標

主要な発達理論について説明できる。生涯発達および各発達段階の概要と課題を説明できる。老化が及ぼす心理的影響について説明できる。発達障害が及ぼす心理的影響について説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 発達の基本的視点と諸理論

主要な発達理論を概観し、発達観がどのように変遷してきたかを学ぶことで、発達とは何かについての考えを深める。

第2回 胎児期・乳児期の発達 (1) 概要

第3回 胎児期・乳児期の発達 (2) トピック: 愛着(アタッチメント)

第4回 幼児期の発達 (1) 概要

第5回 幼児期の発達 (2) トピック: 反抗期

第6回 児童期の発達 (1) 概要

第7回 児童期の発達 (2) トピック: ギャング・エイジ

第8回 青年期の発達 (1) 概要

第9回 青年期の発達 (2) トピック: 心理的離乳

第10回 成人期の発達 (1) 概要

第11回 成人期の発達 (2) トピック: 子育て

第12回 老年期の発達 (1) 概要

第13回 老年期の発達 (2) トピック: 自我の統合

第2回から第13回では、各発達段階の概要を学んだうえで、トピックとして取り上げられたその段階における主要な発達課題についての理解を深める。

第14回 発達の障害 各種の発達障害について学び、障害の観点から人間発達について考える。

第15回 発達検査 主要な発達検査をいくつか取り上げ、その実際について学ぶ。

評価方法

宿題 45% (復習課題 15%、小レポート 30%)、学期末テスト 55%。宿題の得点が一定水準に達しなければ、学期末テストの得点に関わらず、単位を付与しない。

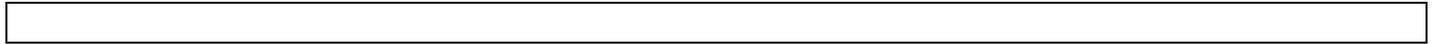
使用教材

「ガイドライン生涯発達心理学 第2版」二宮克美ほか ナカニシヤ出版 2012年 2000円+税

授業外学習の内容

毎回、復習課題と小レポートを宿題として課す。授業内容をしっかりと振り返り回答すること。宿題の提出はC-Learningによる。また、テキストの次回該当箇所を必ず予習して授業に臨むこと。

備考



人間行動学（専門教養科目）

担当者

上原徹、佐藤大仁

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 選択2単位、理学療法学科 1年後期 選択2単位

講義目標

学生が、行動科学の基礎と応用を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動や、支援者である自らの行動との相互作用を理解することができる。

到達目標

学生が、医療などの対人支援において、ケアを受ける人の心理や行動を理解し、適切な対人的交流のための知識と技術、姿勢を身につけ、他職種と機能的に連携する視点をもてるようになること。

講義内容と講義計画

- 第1回 青年期の心理と性格
- 第2回 対人行動
- 第3回 集 団
- 第4回 異文化と自己
- 第5回 ヒューマンファクター 労働の心理学
- 第6回 きずなの発達
- 第7回 自己の形成と発達
- 第8回 現代女性のライフサイクルとライフコース
- 第9回 医療における人間関係
- 第10回 健 康
- 第11回 学習と学習支援
- 第12回 知 覚
- 第13回 記 憶
- 第14回 思 考
- 第15回 疲労・メンタルヘルスと現代の職場

評価方法

レポートを中心とし、授業中の態度を参考に、総合的に評価する。

使用教材

福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」米谷、米澤、尾入、神藤編著

授業外学習の内容

教科書の講義に関係する部分を読むこと。

備考

臨床の第一線で勤務している医師を分担講師として招いているので、真摯な態度で授業に臨むこと。授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（評価に影響する）。

化学（専門教養科目）

担当者

鳥澤保廣

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

本講義では、看護を支える基礎としての化学、(病態)生化学の知識を、できるだけかみくだいて、大学一年次の学生が理解しやすいような形で提供する。保健医療学部の学生が将来直面する看護や、理学療法の仕事に役立つ化学知識、医薬品知識もできるだけ組み込んだ構成とし、役に立つ化学の講義をする。

到達目標

看護学科、理学療法学科の学生が、医療と関連する化学の基礎知識を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 毒になる元素、薬になる元素
- 第2回 栄養は有機物、無機物?
- 第3回 地球は水で守られた惑星
- 第4回 胃の中は強酸性
- 第5回 %濃度、mol濃度、規定度に関する計算
- 第6回 ピロリ菌が行う中和反応
- 第7回 微生物の大きさと抗菌薬
- 第8回 酸化還元反応の定義、さまざまな電池
- 第9回 身近な酸化・還元反応
- 第10回 体の中の酸化還元反応:活性酸素四兄弟
- 第11回 酸化ストレスによる発癌、動脈硬化の化学
- 第12回 健康を守る化学:栄養とクスリ(1)
- 第13回 健康を守る化学:栄養とクスリ(2)
- 第14回 補充とまとめ (1)(医療と化学:その1)
- 第15回 補充とまとめ (2)(医療と化学:その2)最終レポート提出

評価方法

毎回の提出レポートによる出欠確認と、理解度による。

使用教材

看護・医療系のための くすりと治療の基礎知識 東京化学同人

授業外学習の内容

次の講義予定内容や関連する記事など、さらに医療につながる話題などを主体的に学ぶ姿勢を示すこと。

備考

統計学（専門教養科目）

担当者

福島博

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

医療に使う基本的な統計学の基礎をまなぶ。

到達目標

平均、メジアン、分散、標準偏差、相関係数等の基本的統計量の意味を理解すると共に、相関と回帰、検定の基礎について理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 統計入門
- 第2回 平均、メジアン、分散等について
- 第3回 相関と回帰
- 第4回 実際のデータ分布と確率分布（離散分布）
- 第5回 正規分布
- 第6回 検定の考え方
- 第7回 正規母集団の検定
- 第8回 χ^2 -検定、独立性の検定

評価方法

期末試験

使用教材

はじめての統計15講、小寺平治著、講談社

授業外学習の内容

備考

生物学（専門教養科目）

担当者

今井純、坂井隆浩

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択2単位、理学療法学科 1年前期 選択2単位

講義目標

生物として「健康」であるため、細胞はその恒常性を維持するように機能している。そこで、生物の基本単位である細胞の構造と機能を学習し、細胞社会の統合体としての個体が恒常性を維持する仕組みについての基本的知識を習得する。

到達目標

- ・細胞の構造や細胞での物質代謝を説明できる
- ・細胞内外の情報伝達機構を説明できる
- ・遺伝や遺伝子について説明できる
- ・発生現象を配偶子形成から個体発生まで説明できる
- ・免疫反応を分類し説明できる

講義内容と講義計画

- 第1回 生物学とはどのような学問か
- 第2回 生命とはなにか、生物とはどのようなものか
- 第3回 細胞とはどのようなものか
- 第4回 体をつくる分子にはどのようなものがあるか
- 第5回 体の中で物質はどのように変化するか
- 第6回 遺伝子と遺伝はどのように関連しているか
- 第7回 ヒトの体はどのようにできているか
- 第8回 エネルギーはどのように獲得されるか
- 第9回 ヒトはどのように運動するか
- 第10回 体の恒常性はどのように維持されるか
- 第11回 ヒトは病原体とどのようにたたかうか
- 第12回 ヒトはどのように次の世代を残すか
- 第13回 ヒトはどのように進化してきたか
- 第14回 ヒトをとりまく環境はどのようになっているか
- 第15回 ヒトはどのような生き物か

評価方法

定期試験により合否を判定する。合格者の成績評価は、授業への参加度や貢献度も考慮する。詳しくは初回講義時に説明する。

使用教材

教科書（ヒトを理解するための生物学、八杉貞雄、裳華房）と他に適宜プリントを配布する。

授業外学習の内容

次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

生活科学概論（専門教養科目）

担当者

内田幸子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位、理学療法学科 1年前期 選択1単位

講義目標

医療従事者を目指す学生にとって生活環境の整備を学ぶことは、ライフステージの構築のためにも必要だと考え、ヒトとしての日常的な生活行為にかかわる衣生活、食生活、住生活の三側面の基本的事項の習得を目的とする。

到達目標

医療従事者として必要な基本的な生活科学知識を把握できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 生活基盤としての衣食住
- 第2回 衣の生活科学（ユニバーサルデザインと医療）
- 第3回 衣の生活科学（快適な衣環境）
- 第4回 食の生活科学（食生活と栄養管理）
- 第5回 食の生活科学（食生活と生活習慣病）
- 第6回 住の生活科学（快適な住環境整備）
- 第7回 住の生活科学（環境と生活）
- 第8回 まとめ

評価方法

授業参加度、学期末試験を総合的に評価していくが、評価方法の詳細な基準は初回時に提示する。

使用教材

授業時にプリントを配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだことを復習すること。小レポートも課します。

備考

メールアドレス uchida@takasaki-u.ac.jp

国際保健医療論（専門教養科目）

担当者

望月 経子 李 孟蓉

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択2単位、理学療法学科 2年後期 選択2単位

講義目標

世界における健康格差の実態を知り、医療従事者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、国際保健医療の活動の場を地球的視野で認識する。保健医療分野での国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 国際保健医療協力の概念を理解する。
2. 保健医療分野での国際協力の必要性和意義を理解する。
3. 世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を理解する。
4. 異文化を理解し、異文化適応のプロセスを理解する。
5. 在留外国人への健康支援を考察する。

講義内容と講義計画

- 第1回 国際保健医療協力の概念
- 第2回 グローバル化の中での健康問題と国際保健医療協力の歴史（1）（日本）
- 第3回 グローバル化の中での健康問題と国際保健医療協力の歴史（2）（世界）
- 第4回 保健医療関連の国際機関の取り組みと日本における国際協力
- 第5回 世界の保健医療事情
- 第6回 異文化の理解
- 第7回 国際保健医療協力の実際（1）世界各地で活躍する保健医療関係者の活動紹介①
- 第8回 国際保健医療協力の実際（1）世界各地で活躍する保健医療関係者の活動紹介②
- 第9回 国際保健医療協力の実際（2）青年海外協力隊の活動①
- 第10回 国際保健医療協力の実際（2）青年海外協力隊の活動②
- 第11回 国際保健医療活動の実際（3）専門家の活動
- 第12回 国際NGOの活動
- 第13回 災害援助
- 第14回 在日外国人と多文化共生
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート（70%）、授業参加度（30%）

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業資料は毎回使用します。授業の後にミニレポートを課します。授業を踏まえて記述してもらいますので、それまでの授業内容も復習して考えをまとめてください。

備考

授業の中でグループワーク／ディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

生化学（看護基盤科目群）

担当者

佐藤幸市

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修1単位、理学療法学科 1年前期 必修1単位

講義目標

生命の働きと営みを細胞よりも小さな分子レベルで理解できるようになることを目的とする。

到達目標

分子レベルで疾病を考えられることを目指す。

講義内容と講義計画

第1回 第1章 生命の保持と生化学の基本

第2回 第2章 酵素と第3章 糖質代謝

第3回 第4章 脂質代謝、第5章 アミノ酸、タンパク質代謝

第4回 第6章 ヌクレオチド代謝、第7章 遺伝情報とその発見（7-1、7-2）

第5回 第7章 遺伝情報とその発現の後半として7-3 バイオテクノロジーと医学への応用と遺伝病ならびに第8章 ビタミン

第6回 第9章 ホルモンと第10章 水と無機物（10-1 水）

第7回 第10章 水と無機物（10-2 体内の無機物質）と第11章 臓器の生化学

第8回 第12章 疾患の生化学とまとめ

評価方法

学期末テストなど総合的に評価する。

使用教材

よくわかる専門基礎講座 生化学 金原出版

授業外学習の内容

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。

備考

解剖生理学 I (看護基盤科目群)

担当者

桑原敦志

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 2 単位

講義目標

解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。生命の成り立ちをきちんと理解することによって、人が病気になったときに起こりうることを予測でき、よりよい看護に結びつけることが出来る。

到達目標

人体の構造と働きを理解し、人が生命活動をどのように行っているか理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 解剖学用語を学び、ホメオスタシスの維持について理解する。
- 第 2 回 人体の発生について学ぶ。
- 第 3 回 細胞の基本構造と細胞内小器官の働きを学ぶ。
- 第 4 回 細胞が集まって組織を形成し器官となって働くことを学ぶ。
- 第 5 回 細胞の機能で受動輸送と能動輸送について学ぶ。
- 第 6 回 細胞分裂と遺伝情報について学ぶ。
- 第 7 回 人体を構成する 4 種の組織：表面を覆う上皮組織、支える支持組織、動かす筋組織、他の細胞をコントロールする神経組織について理解する。①解剖
- 第 8 回 人体を構成する 4 種の組織：表面を覆う上皮組織、支える支持組織、動かす筋組織、他の細胞をコントロールする神経組織について理解する。②生理機能
- 第 9 回 人体・臓器・器官の表面を境界し、覆い、保護し、潤す膜の性状と機能について理解する。①解剖
- 第 10 回 人体・臓器・器官の表面を境界し、覆い、保護し、潤す膜の性状と機能について理解する。②生理機能
- 第 11 回 皮膚の構造と機能を理解する。①解剖
- 第 12 回 皮膚の構造と機能を理解する。②生理機能
- 第 13 回 体を支える骨の構造と機能について理解する。①解剖
- 第 14 回 体を支える骨の構造と機能について理解する。②生理機能
- 第 15 回 骨と骨の結びつきである関節の構造と働きについて理解する。①解剖
- 第 16 回 骨と骨の結びつきである関節の構造と働きについて理解する。②生理機能
- 第 17 回 体にある筋の種類と機能について理解する。①解剖
- 第 18 回 体にある筋の種類と機能について理解する。②生理機能
- 第 19 回 神経の命令によって動かすことのできる骨格筋の種類と動きを理解する。①解剖
- 第 20 回 神経の命令によって動かすことのできる骨格筋の種類と動きを理解する。②生理機能
- 第 21 回 神経系の 3 つの機能、感覚・統合・運動について理解する。①解剖
- 第 22 回 神経系の 3 つの機能、感覚・統合・運動について理解する。②生理機能
- 第 23 回 ニューロンの構造と機能を理解し、情報伝達のしくみを学ぶ。①解剖
- 第 24 回 ニューロンの構造と機能を理解し、情報伝達のしくみを学ぶ。②生理機能
- 第 25 回 大脳および延髄の構造と機能を理解し、中枢神経の特徴を学ぶ。①解剖
- 第 26 回 大脳および延髄の構造と機能を理解し、中枢神経の特徴を学ぶ。②解剖整理
- 第 27 回 末梢神経の構造と機能を理解する。交感神経、副交感神経、脳神経などを学ぶ。①解剖
- 第 28 回 末梢神経の構造と機能を理解する。交感神経、副交感神経、脳神経などを学ぶ。②生理機能
- 第 29 回 感覚器としての眼の構造と機能、視野欠損や色覚異常を理解する。
- 第 30 回 まとめ

評価方法

期末試験で評価する。

使用教材

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学、MC メディカ出版、配布資料、他

授業外学習の内容

学習内容が非常に多く、毎回の授業の復習が欠かせない。教科書のイラストや配布された資料を精読すること。

備考

教職必修科目

解剖生理学Ⅱ（看護基盤科目群）

担当者

桑原敦志

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

解剖学は人体の構造がどうなっているか、生理学はどのように機能して生命活動を営んでいるかを学ぶ。解剖生理学Ⅱでは、身体の内環境維持のために必要な体のしくみと、生殖について理解できることが目標である。

到達目標

人体の構造と働きを理解し、人が生命活動をどのように行っているか理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 免疫系:自己と非自己の認識、生体の防御機構について理解する。
- 第2回 免疫系:自然免疫と獲得免疫、体液性免疫について理解する。
- 第3回 免疫系:細胞性免疫、自己免疫疾患、アレルギーについて理解する。
- 第4回 泌尿器系:腎臓の構造と機能について理解する。
- 第5回 泌尿器系:水・電解質代謝、酸塩基平衡について理解する。
- 第6回 泌尿器系:尿管、膀胱、尿道の構造と機能、排尿のしくみについて理解する。
- 第7回 内分泌系:ホルモン分泌器官である視床下部、下垂体の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。
- 第8回 内分泌系:ホルモン分泌器官である甲状腺、上皮小体、膵臓の構造と機能、分泌されるホルモンの働きについて理解する。
- 第9回 内分泌系:ホルモン分泌器官である副腎皮質、副腎髄質、性腺の構造と機能、腎臓や消化管、血管から分泌されるホルモンの働きについて理解する。
- 第10回 生殖器系:生殖と生殖器の概念、女性生殖器の構造と機能について理解する。
- 第11回 生殖器系:性周期、月経周期とホルモンとの関連について理解する。
- 第12回 生殖器系:妊娠、受精のメカニズム、分娩のメカニズムについて理解する。
- 第13回 生殖器系:男性生殖器の構造と機能、精子形成について理解する。
- 第14回 胎児の発育と胎児循環について理解する。
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験で評価する。

使用教材

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学、MCメディカ出版、配布資料、他

授業外学習の内容

学習内容が非常に多く、毎回の授業の復習が欠かせない。教科書のイラストや配布された資料を精読すること。

備考

教職必修科目

栄養学 I (看護基盤科目群)

担当者

渡邊美鈴

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修1単位、理学療法学科 1年後期 必修1単位

講義目標

生体は発育、成長し、生命を維持し、健全な生命活動を営むために食物を摂取し、栄養素を取り込んでいる。栄養とは何か、摂取食物の栄養成分はどのように代謝され、エネルギーや対構成成分として利用されるか。栄養状態の評価、判定について学ぶ。

到達目標

生命維持のための栄養素の働きについて、理解できる。

講義内容と講義計画

第1回 臨床栄養学を学ぶ、目的が理解できる。

臨床栄養学の役割、日本の栄養サポートチームの現状について(ビデオ)。

第2回 栄養の基礎概念を理解する①。

三大栄養素の栄養的特徴:生理作用、欠乏症、過剰症について理解する。

第3回 栄養の基礎概念を理解する②。

食物繊維、ビタミン、ミネラル、水分の栄養的特徴:消化吸収、体内代謝、欠乏症、過剰症について理解する。

第4回 食品の持つエネルギーとエネルギーの測定方法、運動と栄養 回復期リハビリテーション病棟での栄養管理の実際を理解する。

生体のエネルギー代謝の仕組みとエネルギー消費量の求め方、運動の強度と三大栄養素の体内代謝、日常の運動、スポーツ時の消費エネルギーの関連を理解し、栄養管理の重要性を理解する。

第5回 嚥下障害・経口摂取できない場合の栄養補給方法。

摂食・嚥下の正常なプロセスを理解し、障害時の栄養補給方法(経静脈栄養、経腸栄養、経口栄養管理)を理解する。

第6回 日本人の食事摂取基準(2015年度版)を理解する。

健康増進のための食生活指針を理解し、具体的な栄養指導方法を理解する。

日本の食文化と現在の食生活の特徴が理解できる。

第7回 栄養アセスメントの意義と役割を理解する。

SGAによる栄養評価を理解する(CD-R)

第8回 栄養アセスメントの意義と役割を理解する。

ODAによる栄養評価を理解する(CD-R)

評価方法

総合試験 90%、授業参加度 10%

使用教材

ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学

授業外学習の内容

次回授業内容を予習し、内容を把握する。

備考

教職必修科目

栄養学Ⅱ（看護基盤科目群）

担当者

渡邊美鈴

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位、理学療法学科 1年後期 選択 1単位

講義目標

生涯にわたり、健康を維持するためには、ライフステージごとの適正な食生活が大切である。ライフステージ別の栄養の特性及び傷病者の栄養の特長について学ぶ。

到達目標

人生各期、傷病者の栄養摂取の特徴が理解できる。

講義内容と講義計画

第1回 人生各期の健康生活と栄養について理解する。
乳児期、学童期、青年期、成人期、妊娠、授乳期、高齢期。
成分別栄養管理を理解する。

第2回 療養生活と栄養①。
検査のための食事、治療による回復を促すための栄養管理について理解する。
消化器系疾患の病態と栄養管理について理解する。

第3回 療養生活と栄養②
癌患者の症例検討（CD-R）

第4回 療養生活と栄養③
肝臓病患者の症例検討（CD-R）

第5回 療養生活と栄養④
クローン病患者の症例検討（CD-R）

第6回 療養生活と栄養⑤
内分泌、代謝疾患の病態と栄養管理について理解する。
褥瘡の栄養管理について理解する。

第7回 療養生活と栄養⑥
循環器系疾患の病態と栄養管理について理解する。
腎疾患の病態と栄養管理について理解する。

第8回 療養生活と栄養⑦
COPD患者の症例検討（CD-R）

評価方法

総合試験 90%、授業参加度 10%

使用教材

ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学

授業外学習の内容

次回授業内容を予習し、内容を把握しておくこと。

備考

教職必修科目

臨床心理学（看護基盤科目群）

担当者

千葉千恵美

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 選択1単位、理学療法学科 2年前期 選択2単位

講義目標

臨床心理学の基礎理論を学ぶことにより、対人援助の基本的視点の一助を得る。面接の技法、心理検査法、さまざまな心理療法などを概観する。また適宜グループワークやロールプレイを取り入れながら、人と人との関わりや援助のあり方について体験的に学んでいく。

到達目標

臨床場面で関わる患者、その家族にむけて寄り添い、状況に応じた実践できる力を身につけることにする。

講義内容と講義計画

- 第1回:オリエンテーション
- 第2回:医療領域の臨床心理学の理解
- 第3回:医療領域の臨床心理学の役割
- 第4回:心理面接(面接の方法)
- 第5回:面接の留意点
- 第6回:カウンセリング・心理療法
- 第7回:行動療法・集団心理療法(グループワークの意義)
- 第8回:ロールプレイ(成人)
- 第9回:ロールプレイ(思春期・青年期)
- 第10回:ロールプレイ(高齢期)
- 第11回:家族療法
- 第12回:家族療法の実際
- 第13回:終末医療のカウンセリング
- 第14回:箱庭療法(体験授業)
- 第15回:まとめ

評価方法

その日の授業の感想、提出物、試験を総合的に評価する。

使用教材

小林重雄監修「医療臨床心理学」コレール社 2004
使用教材：事例に伴うプリント資料

授業外学習の内容

前講義で行った事例検討事柄についての予習をしておく

備考

リスクマネジメント（看護基盤科目群）

担当者

野本悦子、下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 必修1単位

講義目標

安全な医療現場の確保は医療従事者にとっての重要な責務であることを理解し、個人および組織においてどのような対策が求められるかについて理解することを目的とする。

到達目標

1. リスクマネジメントの考え方の基本が理解できる。
2. 患者安全に必要な視点について理解できる。
3. さまざまなリスクマネジメント手法と再発防止策について理解できる。
4. 感染予防、危機管理の基本について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 患者安全とは、リスクマネジメントの考え方
- 第2回 ヒューマンエラーとは
- 第3回 看護業務と医療事故・法的責任
- 第4回 危機管理・院内感染
- 第5回 事故防止対策
- 第6回 原因分析手法
- 第7回 原因分析手法
- 第8回 まとめ

評価方法

参加度（授業・演習）40%、課題レポート評価60%

使用教材

ナーシング・グラフィカ「医療安全」メディカ出版最新版

授業外学習の内容

医療事故の新聞記事等から課題を出題し、レポートするので、予習・復習の習慣を身につけること

備考

疫学（看護基盤科目群）

担当者

宮崎有紀子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修2単位

講義目標

人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼす要因や条件を包括的に探る方策として、疫学的思考及び方法を理解する。また、疫学研究の事例を通して、疫学的研究成果の保健・看護活動への実際的応用について学ぶ。

到達目標

- 1.疫学の考え方や方法について理解できる。
- 2.リスクの考え方、およびリスクを表す指標について理解できる。
- 3.因果関係を示す方法について理解できる。
- 4.スクリーニングの意義と妥当性・信頼性について理解できる。
- 5.疫学研究を閲覧し、理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 疫学の概要
- 第2回 記述疫学
- 第3回 記述疫学と疫学的仮説の設定
- 第4回 疾病頻度の測定
- 第5回 コホート研究1
- 第6回 コホート研究2
- 第7回 症例対照研究
- 第8回 介入研究
- 第9回 交絡、バイアス、因果関係の推定
- 第10回 正常と異常、スクリーニング1
- 第11回 スクリーニング2
- 第12回 演習①
- 第13回 演習②
- 第14回 演習③
- 第15回 まとめ

評価方法

試験 80%、提出物 20%

使用教材

はじめて学ぶやさしい疫学（日本疫学会 監修、南江堂）
国民衛生の動向（厚生統計協会）

授業外学習の内容

教科書などを使って復習をしてください。授業中にわからなかったことはそのままにせず、質問して理解するようにしてください。

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。

なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。

yukiko@takasaki-u.ac.jp

教職必修科目

社会調査特論（看護基盤科目群）

担当者

安達正嗣

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位、理学療法学科 2年後期 選択1単位

講義目標

保健医療分野における実証研究の手法として、社会調査は重要である。疫学研究にも活用可能な手法が多い。そこで本講義では、社会調査における量的な調査の方法を学び、その基礎を理解させる。

到達目標

資料の収集方法、調査票の作成と実際、データ分析などの基本的能力を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 社会調査の概要
- 第2回 情報資源の発掘調査
- 第3回 社会調査の基本
- 第4回 調査票の作成
- 第5回 調査の実際
- 第6回 データ分析
- 第7回 調査研究の報告
- 第8回 まとめ

評価方法

第2回に小テストをおこない、第3回以降は毎回、レポートの提出があります（50%）
最終のレポート（50%）

使用教材

配布資料などを使用して講義をおこなうので、教科書は指定しない。

授業外学習の内容

事前に前回の配布資料などを復習しておくこと。

備考

公衆衛生学（看護基盤科目群）

担当者

亀尾聡美

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修2単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

公衆衛生学は健康な集団に対して予防医学的なアプローチを行うところに特徴がある。公衆衛生学の歴史を踏まえながら、このような公衆衛生学の特徴、社会・環境と健康の関連を示し、現在の公衆衛生学的なものの方や考え方を身につけることが目標である。

到達目標

公衆衛生学に関する基本的な概念、関連する法律・法制度、基本的な用語、社会・環境と健康の関連、および、現在のわが国の公衆衛生活動を理解し説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 公衆衛生学概論 1: 公衆衛生学の概念・健康の概念
- 第2回 公衆衛生学概論 2: 公衆衛生学の歴史
- 第3回 環境保健: 環境と健康
- 第4回 環境保健: 公害と環境基準
- 第5回 生活の中の環境衛生
- 第6回 食品衛生: 食品と健康
- 第7回 食品の安全とリスク分析
- 第8回 保健統計
- 第9回 疾病統計
- 第10回 母子保健
- 第11回 学校保健
- 第12回 産業保健
- 第13回 成人・高齢者保健
- 第14回 地域保健と保健行政
- 第15回 まとめ

評価方法

講義時に数回行うミニレポートの結果と期末試験の結果を総合的に評価する。
評価方法の詳細については、第1回目の講義の際に説明する。

使用教材

「衛生・公衆衛生学」(アイ・ケイコーポレーション)

授業外学習の内容

講義に関連する報道や新聞記事など実際の社会における公衆衛生学的な内容に関心を持つこと。関連する法律に目を通してみる。

備考

参考書:「国民衛生の動向」(厚生労働統計協会)
教職必修科目

保健医療福祉行政論（看護基盤科目群）

担当者

田島貞子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修2単位、理学療法学科 2年後期 選択2単位

講義目標

地域看護における保健・医療・福祉活動を深く理解するため、保健・医療・福祉活動に関わる多面的な法的基盤や財政の状況を知る。あわせて、地域における活動の現状と今後の課題を考える機会とする。

到達目標

国・都道府県及び市町村で実施している保健・医療・福祉施策について学ぶと共に、それぞれの役割を理解し、説明できる。また、医療の専門職として、それぞれの事業へどのような関わりができるかを考え、説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保健医療福祉行政の概要、保健医療福祉行政論の変遷
- 第2回 保健医療福祉の財政、地域保健法
- 第3回 健康増進対策、生活習慣病対策(特定健診・特定保健指導)
- 第4回 感染症対策(1)感染症法、予防接種
- 第5回 感染症対策(2)エイズ対策、結核対策
- 第6回 難病対策、がん対策
- 第7回 母子保健・母子福祉対策
- 第8回 医療対策(医療法全般)
- 第9回 医療対策(医療計画について)
- 第10回 ビデオで学ぶ社会保障制度
- 第11回 高齢者・障害者対策、精神保健福祉対策
- 第12回 医療保険制度
- 第13回 生活保護制度、社会福祉制度
- 第14回 薬事対策・生活環境保全対策
- 第15回 まとめ

評価方法

期末試験（90%）及び、毎回の授業終了時に提出する質問・感想・意見等（10%）により総合的に評価する。

使用教材

国民衛生の動向最新版

毎回、講義に関連する資料を配布する。

授業外学習の内容

初日に指定した教科書の講義内容に該当するページを示すので、事前に読んでくること。

備考

メールアドレス tajima@takasaki-u.ac.jp

医療情報システム論（看護基盤科目群）

担当者

一戸真子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

医療情報システムの全体像をつかみ、医療機関における医療情報システムに重要な考え方を学び、具体的な基幹システムや部門システムについて問題点も含めて理解を深めることを目的とする。地域医療連携に必要なネットワークについても理解する。看護記録も含め、院内における看護情報のIT化についても理解を深める。

到達目標

1. 医療情報の量や質について理解し、システム化とはどのようなことか理解できる。
2. プライバシーを含めた患者にとっての医療情報について理解できる。
3. 病院情報システムについて理解できる。
4. 地域医療ネットワークについて理解できる。
5. 看護師をとりまくIT化について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 システム化によるメリット・デメリット、医療情報の量と質
- 第2回 患者にとって必要な情報と安全
- 第3回 オーダーシステム・電子カルテシステム、クリニカルパス
- 第4回 医事会計システム・検査系システム・医用画像システム
- 第5回 看護部門システム・栄養システム・物流システム・リスク管理システム
- 第6回 プライバシーとセキュリティ／地域医療ネットワーク／情報倫理
- 第7回 看護記録とIT化、情報の共有とチーム医療
- 第8回 まとめ

評価方法

積極的参加状況および授業内レポート40%、期末試験60%で評価する

使用教材

「医療情報システム入門 改訂新版」社会保険研究所 保健医療福祉情報システム工業会編

授業外学習の内容

指定した教科書について、事前に読んで予習しておくこと。

備考

電子カルテやクリニカルパスをはじめとし、病院内外にはさまざまな医療情報が増え、IT化が進んでいるので、ぜひ積極的に興味を持っていただきたい。

薬理学（看護基盤科目群）

担当者

伊藤政明

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、及び体内での運命に関する基本的知識を修得する。

到達目標

基本的な疾患についての代表的な治療薬を挙げ、その作用機序ならびに副作用を説明できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 薬物治療の目ざすもの
- 第2回 薬はどのように作用するのか
- 第3回 薬はどのように体内をめぐるのか
- 第4回 薬効に影響する因子・薬物の有害作用はなぜおこるのか・薬害問題
- 第5回 抗感染症薬
- 第6回 抗がん薬・免疫治療薬
- 第7回 抗アレルギー薬・抗炎症薬
- 第8回 末梢神経系に作用する薬
- 第9回 中枢神経系に作用する薬 (1)
- 第10回 中枢神経系に作用する薬 (2)
- 第11回 心臓・血管系に作用する薬 (1)
- 第12回 心臓・血管系に作用する薬 (2)
- 第13回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬
- 第14回 物質代謝に作用する薬
- 第15回 まとめ

評価方法

受講態度および期末試験の結果から総合的に評価する。

使用教材

系統看護学講座専門基礎分野「薬理学」第13版
吉岡充弘他編 医学書院 2014年 2,484円
テキストを中心に講義を行う。適宜補足資料を配布する。

授業外学習の内容

授業で学んだことをよく復習しておくこと。

備考

教職必修科目

微生物学（看護基盤科目群）

担当者

桑原敦志

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

人類は微生物感染に対していつの時代も克服してきた。微生物の研究を行い、感染症対策をすることで感染発症を防いできた。しかし、現代においては、交通手段の発達とともに病原微生物はかつて人類が経験したことのない速さで世界中に拡散していく。医療従事者は微生物に対する知識を学び、感染症の予防、治療に活かしていく必要がある。

到達目標

医療従事者として必要な感染症とその予防や治療の知識を身に着ける。

講義内容と講義計画

第1回 〈微生物学の概要〉

ヒトと微生物の関わりやウイルスと細菌の違いなど、微生物学で何を学ぶのかを簡潔に解説する。

第2回 〈細菌〉

コッホの近代細菌学から細菌の構造、常在細菌などを解説する。

第3回 〈真菌・原虫・ウイルス〉

病原体となる真菌、原虫・ウイルスについて大きさを細菌と比較しながら解説する。

第4回 〈感染と感染症〉

病原体の感染様式と、症状の現れる発症を病原体別に解説する。

第5回 <感染に対する生体防御機構 1>

感染を防止する生体の免疫に関して解説する。風邪をひいた時の免疫動員を具体的に述べる。

第6回 〈感染に対する生体防御機構 2>

免疫の基本事項を確認し、予防接種やアレルギーについて解説する。

第7回 〈感染源・感染経路からみた感染症〉

空気感染、飛沫感染、接触感染など感染経路別に注意すべき病原体を解説する。

第8回 〈感染症の予防〉

滅菌法や消毒法、標準予防策など感染症の予防に必要な知識を解説する。

第9回 〈感染症の検査と診断〉

感染症をおこしている病原体が何か特定するための様々な検査法と診断法を解説する。

第10回 〈感染症の治療〉

抗菌薬や抗ウイルス薬などを解説する。薬剤耐性についても解説する。

第11回 〈ヒト免疫不全ウイルス〉

ヒト免疫不全ウイルスに関しての知識を解説する。

第12回 〈消化器感染症・尿路感染症〉

食中毒やウイルス性腸炎、膀胱炎など身近な疾患を例に挙げて解説する。

第13回 〈呼吸器感染症〉

市中・院内肺炎や結核、インフルエンザなどの知識を解説する。

第14回 〈院内感染対策・予防接種〉

手洗いの重要性や標準予防策、感染経路別予防策、予防接種の知識について解説する。

第15回 〈まとめ〉

微生物学で学んだ知識が医療現場で活かせるように整理する。

評価方法

期末テストにより評価する。

使用教材

テキスト:系統看護学講座「微生物学」(医学書院)2200円

授業ではプリントを用います。パワーポイントを掲示して解説します。

授業外学習の内容

授業内容をプリントにしてあるので、必ず復習をしておくこと。授業内容とかかわりのある教科書の記載事項がわかるようにしておくこと。

備考

教職必修科目

病理学（看護基盤科目群）

担当者

福田利夫、関麻衣、岩科雅範

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修1単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

病理学は、解剖学とともに、近現代医学の根幹である。病理学によって確立された医学上の諸概念を知悉しておくことは、初学者から専門職医療人に至るまで、医療に携わるものにとっては避けて通れないであろう。この講義では、これまで学んだ、解剖学、組織学、生化学、生理学の知識を確認しながら、「からだのかたちの変化としての病気」をみてゆく、そして、疾病の病因論、病理形態学の基礎知識を学習し、今後の勉学の礎を形成することが目標である。

到達目標

- 1.病理学の基礎的な概念、用語を理解し、人に説明できる。
- 2.各臓器で、経験する頻度が高く、重要な疾患の概要を説明できる。

講義内容と講義計画

第1回 病理学概論

病理学の歴史、基礎医学としての重要性。病理学総論と各論の考え方とその意義。病理学と臨床医学との連携（病理診断、細胞診断、病理解剖）。臨床における病理学の知識の重要性

第2回 病理総論(1) 腫瘍

腫瘍とは何か、良性腫瘍と悪性腫瘍の特徴、腫瘍の原因、腫瘍の人体における病態(早期癌、進行癌、転移)腫瘍の診断(血清マーカー、画像、生検)などを取り上げる。

第3回 病理総論(2) 炎症

炎症を学ぶ。古典的 4 徴候からはじめ、炎症の組織形態、炎症担当細胞の種類、炎症の転帰また、創傷治癒の機転をみてゆく。

第4回 病理総論(3) 循環障害

ヒトの体液分布とその異常、止血のメカニズム、出血、うっ血、充血、浮腫、腔水症、血栓塞栓、梗塞、ショック、DICについて学ぶ。

第5回 病理総論(4) 感染症、免疫異常

感染症の概論と、多臓器不全、全身性炎症性症候群など臨床上重要な病態を説明する。免疫異常による疾患を説明するため、免疫担当細胞の種類、正常な免疫応答について学ぶ。そして、免疫学異常のパターンとそれによって惹き起こされる代表的疾患(過敏症:喘息、じんま疹、薬剤アレルギー、自己免疫性疾患、移植片の拒絶反応など)、AIDSを中心とした免疫不全について解説する。

第6回 病理総論(5) 代謝障害・生活習慣病・遺伝性疾患

糖尿病などの代謝に関わる病態、及び代表的な遺伝性疾患、染色体異常をとりあげる。

7-15 回の各論では、臓器ごとに、各臓器の解剖学的な特徴を述べ、そこに発生する頻度が高く、重要な疾患について、写真や図をみながら解説する。

第7回 各論 脳・神経系

頭蓋内圧元進症状態と脳ヘルニア、血管障害(頭蓋内出血、脳梗塞、蛛膜下出血)。脳炎・髄膜炎といった感染症。おもな脳腫瘍、神経変性疾患。

第8回 各論 消化器

口腔、食道から肛門にいたる消化管を主座とする疾患について。

第9回 各論 肝、胆、膵臓

肝炎、肝硬変、肝腫瘍。胆石・胆嚢炎。膵炎、膵癌など。

第10回 各論 運動器

関節の構造。骨折の治癒機転。変形性関節症。椎間板ヘルニア。おもな関節炎。リウマチ。痛風。おもな骨軟部腫瘍。

第11回各論 乳腺、内分泌器

乳腺疾患。甲状腺、副腎など内分泌臓器の疾患やホルモン過剰、低下による病気。

第12回各論 腎泌尿器・婦人科

腎炎、腎腫瘍。尿路結石、尿路腫瘍、尿路の炎症。前立腺、睪丸の疾患。女性生殖器(卵巣、子宮、外陰部)の疾患、妊娠に関わる疾患。

第13回各論 呼吸器疾患 (1) 非腫瘍性疾患

肺の解剖学の復習から始め、呼吸器系に生じる炎症性疾患の特徴を病理学的な観点から学ぶ。

第14回各論 呼吸器疾患 (2) 腫瘍性疾患

肺がんを主体にその病理組織学的な特徴を学ぶ。

第15回各論 造血器疾患

白血病。悪性リンパ腫。貧血の分類など造血器リンパ組織の疾患。

評価方法

期末におこなうによる試験の成績 70%

毎回講義中におこなう小テストの成績 30%

合計 70 点以上を可とする。

使用教材

使用教材 系統看護講座 専門基礎 病理学 坂本ら編著 医学書院 2011 年

授業外学習の内容

備考

授業終了後、教科書の関連する箇所を読み、復習する。

授業前後に、解剖・生理学の関連する箇所を予復習する。

そのほか、成人看護論の分野の教科書などを参考にするとよい。

また、新聞、インターネット等を活用し、関連する情報の取得につとめ、知識を確認、更新してゆくとよい。

とにかく、全身の感覚を活用して、病理の世界に親しんでほしいものである。

リハビリテーション概論（看護基盤科目群）

担当者

浅香満

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

リハビリテーション全般について理解し、その中のリハビリテーション看護について知識・技術を習得し、チーム医療の中での役割を理解する。

到達目標

リハビリテーション看護について説明でき、その役割が言える

講義内容と講義計画

- 第1回 リハビリテーション看護について
- 第2回 リハビリテーションの対象、流れについて
- 第3回 リハビリテーション看護における評価法
- 第4回 リハビリテーション看護の基礎知識
- 第5回 脳血管障害患者のリハビリテーション看護
- 第6回 整形外科疾患のリハビリテーション看護
- 第7回 呼吸器疾患患者のリハビリテーション看護
- 第8回 嚥下障害患者のリハビリテーション看護

評価方法

レポート 50% 筆記試験 50%

使用教材

氏家幸子監修『リハビリテーション患者の看護』廣川書店 2,500円

授業外学習の内容

解剖生理学の復習をしてくること。

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。

なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。

asaka@takasaki-u.ac.jp

臨床医学 I (内科学・外科学) (看護基盤科目群)

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修2単位、理学療法学科 1年後期 必修2単位

講義目標

脳・神経系、呼吸器系、循環器系、血液・造血器系、消化器系、腎・泌尿器疾患について、その成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を説明できるようにする。

到達目標

テキストに付属している整理ノートの内容が説明できるようにする。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 臨床医学入門
- 第 2 回 脳・神経系疾患 (1)序論
- 第 3 回 脳・神経系疾患 (2)中枢神経系疾患
- 第 4 回 脳・神経系疾患 (3)末梢神経系疾患
- 第 5 回 脳・神経系疾患 (4)筋肉疾患、その他
- 第 6 回 呼吸器疾患 (1)序論
- 第 7 回 呼吸器疾患 (2)気管支・肺胞疾患
- 第 8 回 呼吸器疾患 (3)感染症疾患
- 第 9 回 呼吸器疾患 (4)肺癌、その他
- 第 10 回 循環器疾患 (1)序論、解剖
- 第 11 回 循環器疾患 (2)虚血性心疾患
- 第 12 回 循環器疾患 (3)不整脈
- 第 13 回 循環器疾患 (4)弁膜症、その他
- 第 14 回 まとめ
- 第 15 回 血液・造血器疾患 (1)赤血球系疾患
- 第 16 回 血液・造血器疾患 (2)白血球系疾患
- 第 17 回 血液・造血器疾患 (3)血小板系疾患、凝固異常型疾患、その他
- 第 18 回 血液・造血器疾患 (3)血小板系疾患、凝固異常型疾患、その他
- 第 19 回 消化管疾患 上部消化管疾患(1)
- 第 20 回 消化管疾患 上部消化管疾患(2)
- 第 21 回 消化管疾患 下部消化管疾患(1)
- 第 22 回 消化管疾患 下部消化管疾患(2)
- 第 23 回 肝・胆・膵疾患 (1)肝臓疾患
- 第 24 回 肝・胆・膵疾患 (2)肝臓疾患
- 第 25 回 肝・胆・膵疾患 胆道疾患
- 第 26 回 肝・胆・膵疾患 膵臓疾患、その他
- 第 27 回 腎・泌尿器 (1)序論
- 第 28 回 腎・泌尿器 (2)腎臓疾患
- 第 29 回 腎・泌尿器 (3)尿路系疾患
- 第 30 回 臨床医学 I まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度により総合評価する。

使用教材

臨床病態学：総論、1、2、3（ヌーヴェルヒロカワ）

※自主学習や卒業後も使える内容なので、自主的に用いること

授業外学習の内容

授業に出てくる臨床症状について、各自予習・復習をすること。

備考

臨床医学Ⅱ（内科学・外科学）（看護基盤科目群）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

内分泌・代謝系、感染症、免疫・アレルギー系、泌尿器系、歯科・口腔器系疾患について、その成因、病態生理、臨床症状、検査所見、診断、治療、予後の概要を説明できるようにする。

到達目標

実践現場に生かせる基礎知識を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 内分泌疾患 (1)視床下部、下垂体系
- 第2回 内分泌疾患 (2)甲状腺、副甲状腺
- 第3回 内分泌疾患 (3)副腎
- 第4回 内分泌疾患 (4)性腺、その他
- 第5回 代謝 (1)糖尿病
- 第6回 代謝 (2)脂質代謝異常、その他
- 第7回 感染症 (1)ウィルス性、細菌性疾患
- 第8回 感染症 (2)真菌、原虫、寄生虫疾患
- 第9回 感染症 (3)子どもの感染性疾患
- 第10回 免疫・アレルギー疾患 (1)アレルギー疾患
- 第11回 免疫・アレルギー疾患 (2)膠原病(1)
- 第12回 免疫・アレルギー疾患 (3)膠原病(2)、その他
- 第13回 泌尿・生殖器疾患 生殖器疾患
- 第14回 歯科・口腔系疾患 う蝕、歯周病
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度により総合評価する。

使用教材

臨床病態学：総論、1、2、3（ヌーヴェルヒロカワ）

※自主学习や卒業後も使える内容なので、自主的に用いること

授業外学習の内容

授業に出てくる臨床症状について、各自予習・復習をすること。

備考

臨床医学Ⅲ（老年医学）（看護基盤科目群）

担当者

田中聡一

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

加齢に伴う人体の構造と機能の変化、老年者に特有の症候と問題、老年者のフィジカルアセスメントのコツ、老年者疾患の特徴を説明できるようにする。

到達目標

老年者にかかわる際に注意すべき基礎知識を病態生理の視点から習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 老年者の生理的特徴(1)
- 第2回 老年者の生理的特徴(2)
- 第3回 意識障害、せん妄
- 第4回 熱中症、脱水症
- 第5回 睡眠障害
- 第6回 排尿障害、便秘
- 第7回 認知症(1)
- 第8回 認知症(2)
- 第9回 認知症(3)
- 第10回 老年者の運動器疾患(1)骨、関節、脊椎
- 第11回 老年者の運動器疾患(2)ロコモティブ症候群
- 第12回 老年者の皮膚疾患
- 第13回 老年者の感覚器疾患
- 第14回 老年者と薬
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験，授業参加度状況，学習態度による総合評価

使用教材

系統看護講座老年看護病態・疾患論医学書院

授業外学習の内容

すでに臨床医学Ⅰ・Ⅱで学習してあるものがあるので、臨床医学Ⅰ・Ⅱの予習復習も行うこと。

備考

今まで学んできたことを参照に、老年者特有の疾患・病態・治療・対応について学習すること。この授業では、老年者に絞った内容にするので、一般事項については自己学習すること。

授業外学習の内容：授業でわからないものはすでに臨床医学Ⅰ、Ⅱで学習してあるものが多いので、臨床医学Ⅰ、Ⅱの予習復習も行うこと。

臨床医学Ⅳ（小児医学）（看護基盤科目群）

担当者

鈴木隆

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 3年前期 選択1単位

講義目標

健康障害をもつ子どもと家族の生活・療養援助と基礎となる医学的知識の習得を目的とし、病因をふまえた疾病の理解と診断に必要な検査、主な治療について理解する。

到達目標

- ①小児に特有な疾患と病態を理解する
- ②診断に必要な所見・検査を理解する
- ③主な治療法について理解する
- ④健康障害をもつ子どもとその家族の生活・療養援助について学ぶ

講義内容と講義計画

- 第1回 人はなぜ病気になるのか、子どもの疾患の特徴、染色体異常:ダウン症候群
- 第2回 代謝・内分泌疾患:先天代謝異常、糖尿病、下垂体疾患、甲状腺疾患
- 第3回 アレルギー・免疫疾患:食物アレルギー、喘息、免疫不全、若年性特発性関節炎
- 第4回 感染症1:ウイルス感染症 インフルエンザ、ムンプス、水痘、風疹
- 第5回 感染症2:細菌感染症 肺炎球菌、ヒブ、溶連菌、ブドウ球菌
- 第6回 呼吸器疾患:喉頭炎、気管支炎、肺炎
- 第7回 循環器疾患:先天性心疾患、心筋疾患、不整脈、川崎病
- 第8回 消化器疾患:先天異常、胃腸炎、肝炎、腸重積、虫垂炎、炎症性腸炎
- 第9回 感染症3（話題の感染症）:HIV、テングー熱、エボラ出血熱、トリインフルエンザ
- 第10回 血液・悪性新生物:紫斑病、貧血、白血病、悪性腫瘍
- 第11回 腎泌尿器疾患・皮膚疾患:尿路奇形、腎炎、ネフローゼ、母斑、湿疹
- 第12回 新生児期の疾患・精神疾患:低出生体重児、てんかん、脳性まひ、脳炎
- 第13回 耳鼻咽喉疾患・精神疾患・眼疾患:中耳炎、副鼻腔炎、発達障害、結膜炎
- 第14回 運動器疾患・事故:先天性股関節脱臼、頭部外傷、誤飲、溺水、熱傷
- 第15回 総まとめ

評価方法

レポート 25点、期末試験 75点

使用教材

小児看護学（2）医学書院

授業外学習の内容

講義の時に資料を配り、また重点項目を挙げておくので、復習をしっかりと行うこと

備考

臨床医学Ⅴ（女性医学）（看護基盤科目群）

担当者

竹中恒久

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 選択1単位

講義目標

周産期にある女性の経過を理解し、異常な状態や疾患について知識を習得する。
また、女性生殖器におこる疾患についても理解する。

到達目標

女性医学に関する病名を聞いた時にその疾患の概略をイメージできる。

講義内容と講義計画

- 第1回 妊娠の生理 ① 妊娠の成立、胎児の発育と生理
- 第2回 妊娠の生理 ② 妊婦と胎児のアセスメント
- 第3回 分娩の生理 ① 分娩の要素
- 第4回 分娩の生理 ② 産褥の生理 分娩の経過、産褥期の身体的変化
- 第5回 妊娠の異常 ① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症
- 第6回 妊娠の異常 ② 妊娠疾患、多胎妊娠、流産、早産、異所性妊娠
- 第7回 分娩の異常 ① 産道の異常、娩出力の異常、胎位の異常
- 第8回 分娩の異常 ② 前置胎盤、常位胎盤早期剥離
- 第9回 分娩の異常 ③ 分娩時損傷、産科処置と産科手術
- 第10回 産褥の異常、新生児の異常 子宮復古不全、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児
- 第11回 出生前診断と不妊治療 出生前診断、不妊症の診断・治療
- 第12回 女性生殖器の構造と疾患 ① 女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理
- 第13回 女性生殖器の構造と疾患 ② 診察・検査と治療・処置
- 第14回 女性生殖器の構造と疾患 ③ 疾患の理解 ①
- 第15回 女性生殖器の構造と疾患 ④ 疾患の理解 ②

評価方法

筆記試験

使用教材

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院

授業外学習の内容

この領域は復習が重要と思います。復習をきちんとされることを希望します。

備考

臨床医学Ⅵ（精神医学）（看護基盤科目群）

担当者

上原徹

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位、理学療法学科 2年前期 必修1単位

講義目標

学生が、医療専門職である精神保健福祉士（看護師、理学療法士）として必要となる、精神医学に関する基本的な知識を身につける。精神医療全般についての初級知識を習得し、その視点を生かした援助方法とは何かを、自ら考えるきっかけをつかむこと

到達目標

学生が、精神疾患や心理社会的問題の概要を理解すること。学生が、こころの健康を保つための基本に触れ、それを援助するために必要な知識を整理すること。精神医療の導入・入門編として、支援者を目指すうえで知っておくべき事項を、わかりやすいテキストを通して学習する。

講義内容と講義計画

- 第1回 精神医学や精神医療のイントロダクション
- 第2回 他者を理解するための基本
- 第3回 家族と地域に関する事柄
- 第4回 支援者になるためのヒント
- 第5回 精神の痛みや病気は何をもたらすか
- 第6回 統合失調症とは？
- 第7回 うつ病や躁うつ病とは？
- 第8回 認知症とは？
- 第9回 アルコールや物質依存とは？
- 第10回 神経症とは？
- 第11回 児童青年期の病とは？
- 第12回 支援に役立つテクニックやスキル
- 第13回 精神保健福祉関係機関について
- 第14回 精神科の治療法について
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験をもとに評価を行うが、授業態度も参考にする。

使用教材

援助者必携 はじめての精神科（第2版） 著：春日 武彦 医学書院

授業外学習の内容

特に関心あるテーマについて、自主的に調査研究する。

備考

授業中の不必要な私語は厳に慎むこと（厳しく評価に影響する）。複数の学科学生が合同で受講するので、騒いだりせず、真摯な態度で臨むこと。教職必修科目

心の健康（看護基盤科目群）

担当者

上原徹

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択 1単位

講義目標

学生が、心の健康の基礎を学ぶことで、臨床や対人支援の場面におけるクライアントの行動を理解し、メンタルヘルスについて考察することができる。

到達目標

学生が、医療支援を受ける人の心理や行動を理解し、対人援助のための姿勢を身につけ、他職種と機能的に連携するための基本を学ぶこと。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 こころの健康とは
- 第 2 回 ライフサイクルとメンタルヘルス 生誕から青年
- 第 3 回 ライフサイクルとメンタルヘルス 成人から老年
- 第 4 回 こころの SOS ① 様々なトラブルや心理的問題
- 第 5 回 こころの SOS ② 精神疾患について
- 第 6 回 こころのアセスメント 心理検査概論
- 第 7 回 心のサポート 心理社会的アプローチ
- 第 8 回 まとめ

評価方法

レポートを中心とし、授業中の態度を参考に、総合的に評価する。

使用教材

なし（上映スライドと配布資料）

授業外学習の内容

参考書の関連部分を熟読する

備考

授業中の不必要な私語は厳しく減点する。教職必修科目。参考書として、1年後期「人間行動学」で用いる、福村出版「行動科学への招待〔改訂版〕現代心理学のアプローチ」を使用すること。

リラクゼーション概論（看護基盤科目群）

担当者

小野寺由美子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 選択1単位

講義目標

心身の健康の維持・増進のための一方法であるリラクゼーションについて講義と体験を通して学ぶ。具体的には、ストレスによって生じた「筋肉の緊張」をほぐし、リラクゼーションを体験する。また、「自分の中にある緊張」をリラクゼーションでほぐす体験を通して身体と精神の関係を理解するとともに、自己洞察を深めて感受性を高めることで、対象者との人間関係の形成に役立てることをねらいとする。

到達目標

講義内容と講義計画

- 第1回 ストレスと身体症状の関係
- 第2回 リラクゼーションの種類と効果
- 第3回 心と身体の関係
- 第4回 身体の緊張のほぐし方
- 第5回 身体への関わり方と他者との関係
- 第6回 リラクゼーション技法の習得①
- 第7回 リラクゼーション技法の習得②
- 第8回 まとめ

評価方法

レポート課題 90%、授業参加度や貢献度 10%

使用教材

配布資料あり。

授業外学習の内容

備考

ヨガマットまたはバスタオルを持参すること

看護学原論（看護専門科目群）

担当者

縄秀志

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

看護実践とは何か、看護学とは何かへの問いに対して、多角的視点から学び、看護における対象の理解および看護専門職としての課題と方向性を探求する。また、看護学を構築する上での方向性と課題を探求する。

到達目標

1. 看護実践におけるケアリングについて理解できる。
2. 健康・生活・QOLについて理解できる。
3. 看護の専門性および専門職として役割について理解できる。
4. 自分なりに看護・看護学について考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション(学ぶということ)、看護実践と看護学
- 第2回 看護とは？
- 第3回 看護の定義、看護専門職、看護の対象、看護理論－ナイチンゲール
- 第4回 ナラティブ・レッスン①
- 第5回 ナラティブ・レッスン②ヘンダーソンのニード論
- 第6回 ナラティブ・レッスン③病いの体験
- 第7回 ナラティブ・レッスン④看護実践の体験
- 第8回 ナラティブ・レッスン⑤援助関係
- 第9回 看護理論－ワトソン、ベナー
- 第10回 生活、QOL
- 第11回 看護介入について考える（講義）
- 第12回 看護過程について考える（講義）
- 第13回 看護研究について考える（講義）
- 第14回 看護、看護の専門性について再考する（グループワーク）
- 第15回 レポート作成

評価方法

講義中のワーク 30%、レポート 70%
遅刻、欠席、事前準備不足 1回につき－5点

使用教材

教材：配布資料

使用教科書：松木光子編、看護学概論、第5版、2010年、ヌーヴェルヒロカワ

授業外学習の内容

事前課題を個人で必ず取り組み授業に臨んで下さい。提示された資料を読み、感じたことや考えたことを記述し、他者に伝え・他者の意見を聞き考えを深めるワークが多くあります。

備考

看護専門職になることを目指して入学してきた皆さんが最初に看護(看護学)について学ぶ講義です。看護の独自性・専門性と魅力について大きな発見がたくさんあると思います。自分で感じることを、考えることを、言葉にするこ

とが重要となります。
nawa@takasaki-u.ac.jp

人間関係形成論（看護専門科目群）

担当者

池田優子、野本悦子、下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

人は一人では生きられない。他者と何らかの形で関わりながら、その中でつまずき・成長する。特に対人援助職である看護師を目指す者にとって、人間関係を円滑にできる能力は不可欠である。ここでは、体験学習を通して、人間関係を円滑に進める技術について理解し、人間関係を形成していく方法を学ぶ。

到達目標

1. 「人間関係とは何か」を知り、自己理解と他者理解を深める。
2. 人間関係の基本であるコミュニケーションの方法を学ぶ。
3. 他者との円滑な人間関係の形成の方法を学ぶ。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 人間関係を学ぶ意味
- 第2回 自己理解 who am I 自己の性格行動特性
- 第3回 「こんにちはよろしく」「私の夢」「他己紹介」
- 第4回 「私の好きなもの」「私のあこがれるもの」 違いを豊かさに
- 第5回 「クルーザー」価値の違い
- 第6回 自己概念と「ジョハリの窓」「自己イメージと他者イメージ」「動物イメージ」
- 第7回 「今までに出会った人々」
- 第8回 コミュニケーションとは 一方向と双方向のコミュニケーション
- 第9回 日常の人間関係で困った場面
- 第10回 アサーティブの4つの柱 アサーティブトレーニング
- 第11回 ストレスマネジメントと「感情のコントロール」
- 第12回 リーダーシップとフォロワーシップ
- 第13回 正解のあるコンセンサス学習 「協力ゲーム」
- 第14回 正解のあるコンセンサス学習 「匠の里」
- 第15回 支え合う 伝え合う 分かち合う 人間関係を作る

評価方法

1. 毎回の感想レポートの提出と授業・演習への参加度で 40%。
2. 学んだスキル会話場面に関する考察レポートの提出で 60%とします。

使用教材

「人間関係トレーニングー私を育てる教育への人間学的アプローチ」津村俊充・山口真人編ナカニシヤ出版

授業外学習の内容

2人組 1人組になってコミュニケーション演習を行うので、演習後ふりかえりを行い、課題となるところについて練習しておくこと。6回目に、自分が日常で困った場面について、イメージできるよう描き、コミュニケーション上の課題を明らかにして提出する。

備考

メールアドレス yikeda@takasaki-u.ac.jp

フィジカルアセスメント（看護専門科目群）

担当者

鈴木忠

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

対象の身体的な健康状態を観察・評価することをフィジカルアセスメントという。問診に加え頭から爪先まで、身体の一部や器官系ごとに、視診、触診、打診、聴診の4つの技術を使用して実施する。この講義では、専門職として必要なフィジカルアセスメントに関する基礎的知識を理解し説明できるようにする。さらに、身体的な健康状態を実際に観察・評価できるようにする。

到達目標

正しく身体状況を評価するために、情報収集するためのフィジカルアセスメントの知識と技術を習得できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 フィジカルアセスメント入門
- 第2回 バイタルサイン (1)呼吸、脈拍、体温
- 第3回 バイタルサイン (2)血圧測定
- 第4回 顔面の診察
- 第5回 頭頸部の診察
- 第6回 胸部の診察 (1)呼吸器系
- 第7回 胸部の診察 (2)循環器系
- 第8回 腹部の診察 (1)視診、聴診、打診
- 第9回 腹部の診察 (2)触診
- 第10回 神経系の診察 (1)意識レベル、脳神経系
- 第11回 神経系の診察 (2)体幹、四肢
- 第12回 演習 (1)顔面、神経系
- 第13回 演習 (2)頭頸部、胸部
- 第14回 演習 (3)腹部
- 第15回 まとめ

評価方法

レポート、授業参加度状況、学習態度および試験による総合評価

使用教材

写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント…生活者の視点から学ぶ身体診察法…

授業外学習の内容

学習した手技・知識は必ず復習しておくこと

備考

学年進行授業、将来の看護業務の基礎知識になるので、緊張感を持って授業に臨むこと。演習時間以外の授業中でも2人1組になって実演する場面があるので、スムーズに実演できるよう心がけること。

基礎看護技術 I (看護専門科目群)

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 2 単位

講義目標

人間の基本的ニーズを充足させるために、看護技術の原理・原則を学習し、基本的援助方法と態度を身につける。また、対象者の健康状態に応じた生活行動を援助するために、基礎看護学の知識を学び、科学的根拠を基とした看護援助方法の基礎看護技術を習得する。

到達目標

看護技術における安全・安楽・コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。
日常生活援助技術の基本を習得できる。
対象の状況に合わせた日常生活援助の方法を考えることができる。
看護学生としての倫理的態度について理解できる。

講義内容と講義計画

第 1 回 オリエンテーション

看護技術における安全・安楽・自立/看護技術におけるエビデンス(講義)

第 2 回 感染予防技術-スタンダードプリコーション(講義)・手洗い(演習)

第 3 回 環境調整技術-病床環境の調整-環境を整える技術/ベッドメイキング(講義)

第 4 回 環境調整技術-病床環境の調整-ベッドメイキング(演習)

第 5 回 環境調整技術-病床環境の調整-ベッドメイキング(演習)

第 6 回 活動・休息援助技術-ボティメカニクス/体位・体位変換(講義)

第 7 回 活動・休息援助技術-安楽な体位・体位変換、移動(演習)

第 8 回 活動・休息援助技術-安楽な体位・体位変換、移動(演習)

第 9 回 活動・休息援助技術-移乗・移送(講義)

第 10 回 活動・休息援助技術-移乗・移送(車椅子)

第 11 回 活動・休息援助技術-移乗・移送(車椅子)

第 12 回 環境調整技術-リネン交換(講義・演習)

第 13 回 環境調整技術-リネン交換(演習)

第 14 回 環境調整技術-リネン交換(演習)

第 15 回 清潔・衣生活援助技術-更衣・身だしなみ(講義)

第 16 回 清潔・衣生活援助技術-寝衣交換(演習)

第 17 回 清潔・衣生活援助技術-寝衣交換(演習)

第 18 回 清潔・衣生活援助技術-全身清拭(講義)

第 19 回 清潔・衣生活援助技術-全身清拭(演習)

第 20 回 清潔・衣生活援助技術-全身清拭(演習)

第 21 回 清潔・衣生活援助技術-全身清拭(演習)

第 22 回 清潔・衣生活援助技術-全身清拭(演習)

第 23 回 スキルアップ演習①-全身清拭

第 24 回 スキルアップ演習①-全身清拭

第 25 回 スキルアップ演習①-全身清拭

第 26 回 スキルアップ演習②-全身清拭

第 27 回 スキルアップ演習②-全身清拭

第 28 回 スキルアップ演習②-全身清拭

第 29 回 看護技術チェック 全身清拭

第 30 回 看護技術チェック 全身清拭

- 第 31 回 看護技術チェック 全身清拭
- 第 32 回 清潔援助技術-洗髪(講義)
- 第 33 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 34 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 35 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 36 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 37 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 38 回 清潔援助技術-洗髪(演習)
- 第 39 回 排泄・清潔援助技術-排泄に関する援助(講義)
- 第 40 回 排泄・清潔援助技術-排泄の援助方法・陰部洗浄(演習)
- 第 41 回 排泄・清潔援助技術-排泄の援助方法・陰部洗浄(演習)
- 第 42 回 食事の援助技術-食事に関する援助／口腔ケア(講義)
- 第 43 回 日常生活技術に関する事例検討(グループワーク)
- 第 44 回 日常生活技術に関する事例検討(グループワーク)
- 第 45 回 まとめ

評価方法

筆記試験(40%)、看護技術チェック(60%)による総合評価(欠席は 1 回につき -3 点、30 分未満の遅刻は 1 回につき -2 点、30 分以上の遅刻は欠席扱いとする)

*看護技術チェックにおいては 100 点満点中 60 点以上を合格とする。合格点に達しない場合は、再評価を受ける。ただし、再評価で合格点に達しない場合は、再評価での素点を評価対象の得点とする。

*事前課題レポートおよび演習のまとめレポートの取り組みへの評価として、1 項目につき 2 点を最終成績に加点する。

使用教材

使用教材：配布資料

使用教科書：香春知永他編，看護学テキスト NiCE 基礎看護技術(改訂第 2 版)，南江堂，2014(定価 4,200 円＋税)

授業外学習の内容

・指定された技術項目の事前課題に取り組み、映像を視聴してイメージ化した上で講義に出席する。

備考

・講義に欠席した場合は、該当する演習に参加することはできない。

・欠席した講義・演習については、担当教員に申し出た後、補講または自己学習を行う。

キーワード:看護技術、安全・安楽、エビデンス、コミュニケーション

担当教員のメールアドレス

nawa@takasaki-u.ac.jp

takeda@takasaki-u.ac.jp

基礎看護技術Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修2単位

講義目標

健康障害のある対象の援助方法を理解し、科学的根拠を基とした診断・治療・処置を伴う看護援助技術を習得する。

到達目標

看護技術における安全、安楽、コミュニケーション、エビデンスの重要性が理解できる。

治療的援助技術の基本を習得できる。

対象の状況に合わせた治療的援助の方法を考えることができる。

看護学生としての倫理的態度について理解できる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション、感染予防技術-スタンダードプリコーション・無菌操作(講義)

第2回 感染予防技術-スタンダードプリコーション・無菌操作(演習)

第3回 感染予防技術-スタンダードプリコーション・無菌操作(演習)

第4回 症状・生体機能管理技術-バイタルサイン測定法(講義)

第5回 症状・生体機能管理技術-バイタルサイン測定法<体温・脈拍・呼吸・血圧>(演習)

第6回 症状・生体機能管理技術-バイタルサイン測定法<体温・脈拍・呼吸・血圧>(演習)

第7回 症状・生体機能管理技術-バイタルサイン測定法<体温・脈拍・呼吸・血圧>(演習)

第8回 事例検討-事例A(脳梗塞)・事例B(心不全)のバイタルサイン測定-

第9回 事例検討-事例A(脳梗塞)・事例B(心不全)のバイタルサイン測定-

第10回 事例検討-事例A(脳梗塞)・事例B(心不全)のバイタルサイン測定-

第11回 事例検討-事例A(脳梗塞)・事例B(心不全)のバイタルサイン測定-

第12回 排泄援助技術-浣腸(講義)

第13回 排泄援助技術-グリセリン浣腸/腰部温罨法(演習)

第14回 排泄援助技術-グリセリン浣腸/腰部温罨法(演習)

第15回 排泄援助技術-グリセリン浣腸/腰部温罨法(演習)

第16回 看護技術チェック バイタルサイン測定法

第17回 看護技術チェック バイタルサイン測定法

第18回 与薬の技術-筋肉注射・皮下注射(講義)

第19回 与薬の技術-筋肉注射・皮下注射(演習)

第20回 与薬の技術-筋肉注射・皮下注射(演習)

第21回 与薬の技術-筋肉注射・皮下注射(演習)

第22回 検査に関する技術-尿検査・血液検査(講義)

第23回 検査に関する技術-静脈血採血(演習)

第24回 検査に関する技術-静脈血採血(演習)

第25回 与薬の技術-点滴静脈内注射(講義)

第26回 与薬の技術-点滴静脈内注射①(演習)

第27回 与薬の技術-点滴静脈内注射①(演習)

第28回 与薬の技術-点滴静脈内注射①(演習)

第29回 与薬の技術-内服・外用薬の投与(講義)

第30回 与薬の技術-点滴静脈内注射②(演習)

第31回 与薬の技術-点滴静脈内注射②(演習)

第32回 与薬の技術-点滴静脈内注射②(演習)

- 第 33 回 呼吸を整える技術-吸引・吸入・酸素療法(講義)
- 第 34 回 呼吸を整える技術-呼吸音聴取／酸素療法／口腔・鼻腔内吸引(演習)
- 第 35 回 呼吸を整える技術-呼吸音聴取／酸素療法／口腔・鼻腔内吸引(演習)
- 第 36 回 看護技術チェック 点滴静脈内注射
- 第 37 回 看護技術チェック 点滴静脈内注射
- 第 38 回 看護技術チェック 点滴静脈内注射
- 第 39 回 排泄援助技術-導尿法(講義)
- 第 40 回 排泄援助技術-一時的導尿法(演習)
- 第 41 回 排泄援助技術-一時的導尿法(演習)
- 第 42 回 排泄援助技術-一時的導尿法(演習)
- 第 43 回 安楽に関する技術-罨法<温罨法・冷罨法・足浴>(講義)
- 第 44 回 安楽に関する技術-罨法<足浴>(演習)
- 第 45 回 安楽に関する技術-罨法<足浴>(演習)

評価方法

筆記試験(40%)、看護技術チェック(60%)による総合評価(欠席は 1 回につき -3 点、30 分未満の遅刻は 1 回につき -2 点、30 分以上の遅刻は欠席扱いとする)

*看護技術チェックにおいては 100 点満点中 60 点以上を合格とする。合格点に達しない場合は、再評価を受ける。ただし、再評価で合格点に達しない場合は、再評価での素点を評価対象の得点とする。

*事前課題レポートおよび演習のまとめレポートの取り組みへの評価として、1 項目につき 2 点を最終成績に加点する。

使用教材

使用教材：配布資料

使用教科書：香春知永他編，看護学テキスト NiCE 基礎看護技術(改訂第 2 版)，南江堂，2014(定価 4,200 円＋税)

授業外学習の内容

・指定された技術項目の事前課題に取り組み、映像を視聴してイメージ化した上で講義に出席する。

備考

・講義に欠席した場合は、該当する演習に参加することはできない。

・欠席した講義・演習については、担当教員に申し出た後、補講または自己学習を行う。

キーワード：看護技術、安全・安楽、エビデンス、コミュニケーション

担当教員のメールアドレス

nawa@takasaki-u.ac.jp

takeda@takasaki-u.ac.jp

教職必修科目

看護学方法論 I (看護専門科目群)

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

看護実践の基礎的方法論を学び、看護の対象の健康問題・健康課題を解決するために看護過程を用いて看護を展開する一連のステップを学ぶ。

到達目標

対象の健康課題・健康問題を解決するための方法論である看護過程について理解できる。

- ・事例を用いてアセスメントが理解できる。
- ・事例を用いて関連図を描くことが理解できる。
- ・事例を用いて看護診断が理解できる。
- ・事例を用いて優先順位の決定が理解できる。
- ・事例を用いて看護計画の立案が理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、看護過程とは
- 第 2 回 機能的健康パターン (講義)
- 第 3 回 アセスメントの実際/事例の排泄パターン (講義)
- 第 4 回 看護診断/事例の排泄パターン (講義)
- 第 5 回 事例①のアセスメント・看護診断/栄養 - 代謝パターン(グループワーク/解説)
- 第 6 回 事例①のアセスメント・看護診断/活動 - 運動パターン(グループワーク/解説)
- 第 7 回 事例①のアセスメント・看護診断/睡眠 - 休息パターン(グループワーク/解説)
- 第 8 回 事例①のアセスメント・看護診断/認知 - 知覚パターン(グループワーク/解説)
- 第 9 回 事例①のアセスメント・看護診断/健康知覚 - 健康管理パターン(グループワーク/解説)
- 第 10 回事例①のアセスメント・看護診断/コーピング - ストレス耐性パターン(グループワーク/解説)
- 第 11 回事例①のアセスメント・看護診断/自己知覚 - 自己概念パターン(グループワーク/解説)
- 第 12 回事例①のアセスメント・看護診断/役割 - 関係パターン(グループワーク/解説)
- 第 13 回事例①のアセスメント・看護診断/セクシャリティ - 生殖パターン(グループワーク/解説)
- 第 14 回事例①のアセスメント・看護診断/価値 - 信念パターン(グループワーク/解説)
- 第 15 回 関連図(講義)

評価方法

筆記試験(70点)、授業参加度(30点)による総合評価(遅刻は1回につき-2点、欠席は1回につき-5点)

*グループワークへの参加や個人ワークの取り組みが不十分な場合は欠席とみなす。

使用教材

使用教材：配布資料

使用教科書：

- ① マージョリー・ゴードン, ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン(第2版), 照林社, 2009(定価 2,600円+税)
- ② 江口正信編, 検査値早分かりガイド(新訂版第2版), 医学芸術社, 2014(定価 3,000円+税)

授業外学習の内容

・毎回のグループワークに向けて、必ずその課題について個人で取り組んだ上で参加する。

備考

看護を実践するための方法論としての看護過程について学びます。看護過程は、学内の実習のみならず専門職として働く上でも必要となる方法論です。論理的思考力、批判的思考力、倫理的思考力を鍛えることとなります。

キーワード:看護過程、アセスメント、看護診断、関連図、看護計画

担当教員のメールアドレス

nawa@takasaki-u.ac.jp

takeda@takasaki-u.ac.jp

看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

看護学方法論Ⅰに引き続き、看護の対象の健康問題や健康課題に対して、知識とクリティカルシンキング、技能およびケアリングを基盤とした看護過程を用いて看護を展開する方法を学ぶ。

到達目標

事例を用いて対象の健康課題・健康問題を解決するための看護過程が展開できる。

- ・事例を用いてアセスメントができる。
- ・事例を用いて関連図を描くことができる。
- ・事例を用いて看護診断ができる。
- ・事例を用いて優先順位の決定ができる。
- ・事例を用いて看護のゴール・期待される成果が設定できる。
- ・事例を用いて看護計画の立案ができる。
- ・事例を用いて実施・評価ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 事例①の関連図(グループワーク/解説)
- 第2回 看護のゴールと期待される成果(講義・個人ワーク)
- 第3回 優先順位の決定(講義・個人ワーク)
- 第4回 看護計画 ー事例① #1の看護計画：EPー (講義・個人ワーク)
- 第5回 看護計画 ー事例① #1の看護計画：TPー (講義・個人ワーク)
- 第6回 看護計画 ー事例① #1の看護計画：OPー (講義・個人ワーク)
- 第7回 看護計画 ー事例① #2の看護計画 (グループワーク)
- 第8回 ミニテスト/実施・評価(講義)
- 第9回 事例②のアセスメント・看護診断(グループワーク/解説)
- 第10回事例②のアセスメント・看護診断(グループワーク/解説)
- 第11回事例②の関連図(グループワーク/解説)
- 第12回事例②の看護のゴールと期待される成果(グループワーク/解説)
- 第13回事例②の優先順位の決定(グループワーク/解説)
- 第14回事例②の看護計画(グループワーク)
- 第15回事例②の看護計画 (グループ発表&ディスカッション)

評価方法

筆記試験 70点(ミニテスト 40点および期末試験 60点の合計 100点のうち 70%)、授業参加度(30点)による総合評価(遅刻は1回につき-2点、欠席は1回につき-5点)

*グループワークへの参加や個人ワークの取り組みが不十分な場合は欠席とみなす。

使用教材

使用教材：看護学方法論Ⅰで使用した教材および配布資料

使用教科書：

- ①マージョリー・ゴードン，ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン(第2版)，照林社，2009(定価 2,600円＋税)
- ②江口正信編，検査値早分かりガイド(新訂版第2版)，医学芸術社，2014(定価 3,000円＋税)

授業外学習の内容

・毎回のグループワークに向けて、必ずその課題について個人で取り組んだ上で参加する。

備考

看護を実践するための方法論としての看護過程について学びます。看護過程は、学内の実習のみならず専門職として働く上でも必要となる方法論です。論理的思考力、批判的思考力、倫理的思考力を鍛えることとなります。

キーワード:看護過程、アセスメント、看護診断、関連図、看護計画

担当教員のメールアドレス

nawa@takasaki-u.ac.jp

takeda@takasaki-u.ac.jp

看護倫理学 I (看護専門科目群)

担当者

倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 必修 1単位

講義目標

西洋と日本における倫理観の違いおよび、看護倫理の歴史的発展についての理解を深めながら看護倫理の基本的知識を学ぶ。また、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求し、学生としての倫理観、医療現場における看護職者としての倫理的責任と、チームケアにおける看護職者の役割について学習する。

到達目標

- ①看護倫理の基本的知識を習得できる。
- ②学生としての倫理的態度が理解できる。
- ③医療現場における看護職者としての倫理的責任を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 看護倫理の基礎的知識(倫理とは・看護倫理とは)
- 第 2 回 価値について (医療における価値とは)
- 第 3 回 歴史的変遷 (徳の倫理・原則の倫理)
- 第 4 回 原則の倫理(倫理的判断基準としての原則とその限界)
- 第 5 回 インフォームド・コンセントと自律
- 第 6 回 倫理的課題と看護実践 1(ケース検討)
- 第 7 回 倫理的課題と看護実践 2(ケース検討)
- 第 8 回 倫理的課題と看護実践 3 (ケース検討)・まとめ

評価方法

レポート 50%、授業参加度・態度等 50% により総合的に評価します。3 回目以降については毎回、授業内容に関する簡単なレポートを提出していただき、それを出席票として扱います。

使用教材

使用しない。

授業外学習の内容

次回授業で検討するテキスト内容、あるいはケース概要資料を提示された場合は、事前に読み、自分なりの考えをもって授業に臨むこと。

備考

参考文献：医療倫理学ABC (メヂカルフレンド社)、看護倫理 (南江堂)
質問はいつでも受け付けます。(メール可) ※ただし、メールの場合は学科・氏名を必ず記載のこと。
E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp

基礎看護学実習 I (看護専門科目群)

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

患者(家族)とのコミュニケーションや看護ケアへの参加を通して、患者(家族)を理解し、コミュニケーションおよび看護ケアの重要性について考える。また、入院加療している患者(家族)を取り巻く病床環境および人的環境について理解を深める。

到達目標

1. 患者・家族とのコミュニケーションがとれる。患者(家族)とのコミュニケーションを通して、患者(家族)の気持ちおよびニーズを理解する。
2. 患者(家族)との関わりを通して援助関係を形成するためのコミュニケーションの重要性について考察できる。
3. 看護ケアへの参加を通して看護ケアにおける安全・安楽・個別性について考察できる。
4. 患者の療養環境について理解できる。
5. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

講義内容と講義計画

実習内容(病院実習 2日間、学内実習 3日間、計 5日間の実習)

1. 患者(家族)とのコミュニケーションを通して、自分の問いと反応を知り、患者(家族)の気持ち(苦痛、気がかり、心配、期待、希望など)を理解する。
2. 患者に必要な日常生活援助および診断・治療に関連する看護援助について考えたうえでケアに参加し、看護ケアにおける安全・安楽・効率性・個別性について考察する。
3. 患者(家族)との関わりを通して、援助関係を形成するためのコミュニケーションの重要性および看護の役割について考える。
4. 患者を取り巻く病床環境および人的環境(家族、医療従事者、同室者など)について考える。
5. 看護者としての基本的な態度(倫理的態度)を身につける。

これらの目標を達成するために、病院実習では、患者(家族)との関わりをナラティブレコードに記述すること、参加した日常生活援助について観察ノートに記述すること、カンファレンス等を通して自分の考えや思いを考察する。

学内実習では、看護体験を基にコミュニケーションや看護ケアについて言語化し、考察を深め、達成できたことと今後の課題・方向性についてレポートにまとめる。

評価方法

実習中の看護実践内容(52点)、倫理的態度・学習態度(36点)、まとめのレポート(12点)をもとに評価表に添って評価する。

使用教材

実習要項

授業外学習の内容

毎日の実習内容を指定された記録用紙にまとめ、翌日の実習計画を具体的にして実習に臨む。

備考

初めて実習病院で闘病している患者様やご家族に関わる実習です。患者様やご家族との関わりを大切に、看護の喜びや難しさを感じながら、今後に向けての自分の学習課題を見いだしてください。

キーワード:コミュニケーション、ケアリング、援助関係、信頼関係、看護援助、看護ケア、倫理的態度

基礎看護学実習Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

縄秀志、武田貴美子、今野康子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修3単位

講義目標

コミュニケーションや日常生活援助等の看護ケアを通してケアリングを体験し、ケアリングを基盤として入院加療している患者（家族）の反応、健康問題・健康課題および病いの体験について理解する。さらに、患者（家族）の健康問題・健康課題について看護過程を用いて看護を実践する。

到達目標

- 1.患者(家族)の症状や生活における反応や病気に対する思い(心配・気がかり・期待・希望)に関心を向ける。
- 2.患者の病態や臨床所見(徴候や検査データ)と患者の反応や思いを関連付けて理解する。
- 3.コミュニケーションや日常生活援助等の看護ケアを通してケアリングを体験し、患者(家族)の病の体験を理解する。
- 4.実施した看護ケアに対する安全・安楽・個別性について考察し、看護技術のレベルアップを図る。
- 5.健康問題・健康課題に対する看護ケアを、看護過程を用いて展開する。
- 6.看護者としての基本的な態度(倫理的態度)を身につける。

講義内容と講義計画

実習内容(5日間の学内実習、7日間の病棟実習、病棟実習後3日間の学内実習)

- 1.患者(家族)の反応、心配や気がかり(病気、症状、生活等)に関心を向ける。
- 2.患者の病態、症状および臨床所見(徴候や検査データ)を理解する。
- 3.患者(家族)への関心をもとに、コミュニケーションや日常生活援助等の看護ケアを行い、ケアリングの体験を通して患者(家族)の健康問題・健康課題および病いの体験を理解する。
- 4.患者に必要な日常生活援助技術について、実施したケアを安全・安楽・個別性から考察し、看護技術のレベルアップを図る。
- 5.健康問題・健康課題について看護過程を用いて看護を実践する。
- 6.看護者としての基本的な態度(倫理的態度)を身につける。

評価方法

実習中の看護実践内容(70点)、倫理的態度・学習態度(20点)、まとめのレポート(10点)をもとに評価表に添って評価する。

使用教材

- ①実習要項
- ②実習に関連する授業のテキストおよび資料
- ③看護ケア学習プログラムの資料

授業外学習の内容

- ①実習要項
- ②実習に関連する授業のテキストおよび資料
- ③看護ケア学習プログラムの資料

備考

闘病している入院患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する実習としては初めての長期実習です。みなさん、とても緊張していると思いますが、患者様やご家族の「良い看護師さんになってね。」と言う思いを真摯に

受け止め、全力で取り組んでください。患者様やご家族との信頼関係が構築され、看護ケアが実践できた時には、喜びと充実感でいっぱいになる体験をしたいと思います。また、今後の学習の課題も見いだすことも大きな学びです。

キーワード:コミュニケーション、日常生活援助技術、看護過程、ケアリング、病いの体験

教職必修科目

成人看護学概論（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

成人期にあり疾病がある対象の特徴を理解し、健康問題及び健康回復を支える看護の概要について学習する。また、それらの理解に必要な概念や理論について学ぶ。

到達目標

1. 成人期の特徴を理解し、様々な健康レベルにある対象の特徴と看護の基本を学習する。
2. 成人期にある対象の健康増進や疾病からの回復、疾病との共存を支援するために必要となる基礎的な理論や概念が理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 第1章 成人看護学の特性 I.成人看護学の対象と援助の概要
第2回 第1章 成人看護学の特性 II.成人期の特徴
第3回 第1章 成人看護学の特性 III.成人期にある人の健康問題
第4回 第2章 健康レベルにおける対象の特徴と看護の基本 I.急性期にある対象の特徴と看護の基本
第5回 第2章 健康レベルにおける対象の特徴と看護の基本 II.回復期にある対象の特徴と看護の基本
第6回 第2章 健康レベルにおける対象の特徴と看護の基本 III.慢性期にある対象の特徴と看護の基本〔1〕
第7回 第2章 健康レベルにおける対象の特徴と看護の基本 III.慢性期にある対象の特徴と看護の基本〔2〕
第8回 第2章 健康レベルにおける対象の特徴と看護の基本 IV.終末期にある対象の特徴と看護の基本
第9回 第3章 成人看護学に活用される理論 I.ストレス・コーピング理論 II.危機理論
第10回 第3章 成人看護学に活用される理論 III.セルフケア理論
第11回 第3章 成人看護学に活用される理論 IV.アンドラゴジー
第12回 第5章 成人看護学における看護過程の概要
第13回 第5章 成人看護学における看護過程の展開方法
第14回 第4章 成人看護学における看護倫理
第15回 まとめ 第1回から第14回までの学習内容の要点を体系的に整理する。

評価方法

筆記試験 70%, レポート・授業参加度 30%

使用教材

【テキスト】大西和子,成人看護学概論,NOUVELLE HIROKAWA,2010 2,310円

【テキストの使用法】授業中にポイントや事例に関して活用する。各自、授業外の学習でも関連部分を読み活用すること。

授業外学習の内容

- 1.第1回の授業で第2回から第12回までの学習内容に関して、事前学習のテーマを各回2つ提示する。テーマについてグループメンバーで文献をもとに資料を構造的に作成すること。
- 2.授業で紹介する参考文献を読み、各自で概念や理論などの理解に努めること。
- 3.授業でテキストの関連部分を紹介する。各自でテキストを活用し復習しておくこと。

備考

【担当教員のメールアドレス】 yoshikumi@takasaki-u.ac.jp

成人看護学方法論 I - A (看護専門科目群)

担当者

石田順子、砂賀道子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

周手術期にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について理解し、その特徴をふまえた看護実践を行うための基礎知識について学習する。また健康状態が急激に変化し、危機的状態にある人の回復過程について知識を深め、具体的な看護方法および看護の役割について学習する。

到達目標

周手術期にある人とその家族の身体的、心理・社会的特徴について理解し、その特徴をふまえた看護実践を行うための基礎知識について学習する。また健康状態が急激に変化し、危機的状態にある人の回復過程について知識を深め、具体的な看護方法および看護の役割について学習する。

講義内容と講義計画

第1回 周手術期看護とは？

周手術期にある人とその家族の特徴について

第2回 手術前期の看護

手術前の患者の基本的看護技術

第3回 手術期の看護

手術中の患者の基本的看護技術

第4回 手術後期の看護①

手術侵襲への生体反応と侵襲からの回復過程の看護

第5回 手術後期の看護②

術後合併症と術後の回復を促進するケア

第6回 統制機能（脳神経機能）の再確立－開頭腫瘍摘出術

第7回 呼吸機能の再確立－肺葉切除術

第8回 循環機能の再確立－冠動脈バイパス術

第9回 摂食機能の再確立－胃切除術

第10回 消化機能の再確立－胆嚢切除術

第11回 排泄機能の再確立－①低位前方切除術

第12回 排泄機能の再確立－②経尿道的前立腺切除術

第13回 運動機能の再確立－人工股関節置換術

第14回 生殖機能の再確立①－乳房切除術

第15回 生殖機能の再確立②－子宮摘出術、まとめ

評価方法

筆記テスト 80%、授業参加度（マメテスト） 20%

使用教材

林直子、佐藤まゆみ編集、成人看護学急性期看護 I 概論・周手術期看護、南江堂

授業外学習の内容

- 1.成人看護学概論の復習をしておくこと
- 2.指定された教科書を授業の予定に沿って前もって読んでおくこと

備考

メールアドレス（研究室に不在時は連絡を下さい）

石田 順子 : jishida@takasaki-u.ac.jp

砂賀 道子 : sunaga@takasaki-u.ac.jp

成人看護学方法論 I - B (看護専門科目群)

担当者

石田順子、砂賀道子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

我が国の救急医療の現状を理解し、救急看護の役割、救急患者のアセスメント法、救急外来および集中治療室における看護について学習する。また、急性期にある人の危機的状況や症状に応じた看護方法を学習し、適切な看護実践ができる。

到達目標

1. 救急看護の現状および役割について学習し、救急に特徴的な看護について理解できる。
2. 急性期にある対象の看護過程を通して、急性期に起こりやすい看護問題の特徴が理解できる。
3. 急性期および救急看護における基本的な看護技術が習得できる。

講義内容と講義計画

- 第1回：急性期看護と救急看護の概要 一次救命・二次救命・トリアージ
第2回：救急外来・集中治療下での看護 救急外来での看護と集中治療室（ICU）での看護
第3回：救急看護の特徴 人工呼吸器を装着する人の看護
第4回：救急看護の実際 フライトナースの役割と救急看護
第5回：＜演習＞周手術期に必要な看護技術①
第6回：＜演習＞周手術期に必要な看護技術②
第7回：＜演習＞急性期における看護過程① 事例紹介 疾患のミニ講義
第8回：＜演習＞急性期における看護過程② 情報収集とアセスメントについて
第9回：＜演習＞急性期における看護過程③ 関連図について
第10回：＜演習＞急性期における看護過程④ 看護診断について
第11回：＜演習＞急性期における看護過程⑤ 問題リストと看護計画について
第12回：＜演習＞急性期における看護過程⑥ 看護のまとめ 評価 サマリーについて
第13回：＜演習＞ 救急看護に必要な看護技術①
第14回：＜演習＞ 救急看護に必要な看護技術②
第15回 まとめ

評価方法

筆記テスト 60%、看護過程および演習参加度 40%

使用教材

1. 佐藤まゆみ、林直子編集、成人看護学急性期看護Ⅱ 救急看護、南江堂
2. リンダJ.カルペニート＝モイエ著、新道幸恵監訳、竹花富子訳、看護診断ハンドブック、医学書院

授業外学習の内容

1. 成人看護学方法論 I-A の復習をしながら参加すること
2. 指定された教科書を授業の予定に沿って前もって読んでおくこと
3. 看護学方法論Ⅱの復習しながら参加すること
4. 看護過程の演習については自分で計画を立てて積極的に自己学習をすること

備考

メールアドレス（研究室に不在時は連絡を下さい）

石田 順子 : jishida@takasaki-u.ac.jp
砂賀 道子 : sunaga@takasaki-u.ac.jp

成人看護学方法論Ⅱ-A（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子・福島直子・鈴木恵理

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修1単位

講義目標

慢性疾患がある対象の QOL の向上に向け、慢性疾患を抱えながら療養生活を送っている成人期の対象の特徴を理解し、機能障害により生じやすい影響をふまえセルフケアを促進する看護を学習する。また緩和ケアを必要とする対象の特徴を理解し、看護を学習する。

到達目標

1. 慢性疾患を抱えながら療養生活を送っている対象の特徴について理解できる。
2. 機能障害により生じやすい影響もふまえ、対象のセルフケアを促進するための看護が理解できる。
3. 治療を受けながら緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護が理解できる。

講義内容と講義計画

第1回	第1章	慢性期にある対象の特徴と看護	1.慢性期の考え方と慢性疾患の特徴の基本
第2回	第1章	慢性期にある対象の特徴と看護	2.慢性疾患がある対象の看護の基本
第3回	第1章	慢性期にある対象の特徴と看護	3.緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護の基本
第4回	第2章	呼吸機能障害がある対象の看護	1.慢性閉塞性肺疾患の患者の看護
第5回	第2章	呼吸機能障害がある対象の看護	2-1.肺がんの患者の特徴
第6回	第2章	呼吸機能障害がある対象の看護	2-2.肺がんの患者の看護
第7回	第3章	循環機能障害がある対象の看護	1.心筋梗塞の患者の看護について学ぶ。
第8回	第3章	循環機能障害がある対象の看護	2.心不全の患者の看護について学ぶ。
第9回	第4章	栄養摂取・代謝障害がある対象の看護	1 肝硬変の患者の看護について学ぶ。
第10回	第4章	栄養摂取・代謝障害がある対象の看護	2.胃がんの患者の看護
第11回	第4章	栄養摂取・代謝障害がある対象の看護	3 大腸がんの患者の看護
第12回	第5章	脳・神経系に障害がある対象の看護	難病の患者の看護
第13回	【演習】	慢性疾患がある対象のセルフケアを促進する援助方法〔循環機能障害がある対象の看護〕	
第14回	【演習】	慢性疾患がある対象のセルフケアを促進する援助方法〔循環機能障害がある対象の看護〕	
第15回	【まとめ】	第1～6章の要点の確認・慢性疾患がある患者の看護の体系化	

評価方法

筆記試験 70%、課題レポート・授業参加度 30%

使用教材

- 1.鈴木志津恵,藤枝佐和,成人看護学 慢性期看護論,NOUVELLE HIROKAWA
2. リンダ J.カルペニート,新島幸恵監訳,竹花富子訳,看護診断ハンドブック,医学書院

授業外学習の内容

第1回の授業で各回の講義内容に関連する授業外学習の課題や学習方法について資料で配付する。

備考

【担当教員のメールアドレス】 吉田久美子 yoshikumi@takasaki-u.ac.jp

成人看護学方法論Ⅱ-B（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子・福島直子・鈴木恵理

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修1単位

講義目標

慢性疾患がある対象の QOL の向上に向け、慢性疾患を抱えながら療養生活を送っている成人期の対象の特徴を理解し、機能障害により生じやすい影響をふまえてセルフケアを促進する看護を学習する。また緩和ケアを必要とする対象の特徴を理解し、看護を学習する。

到達目標

1. 慢性疾患を抱えながら療養生活を送っている対象の特徴について理解できる。
2. 機能障害により生じやすい影響もふまえて、対象のセルフケアを促進するための看護が理解できる。
3. 治療を受けながら緩和ケアを必要としている対象の特徴と看護が理解できる。

講義内容と講義計画

第1回	第6章	慢性疾患がある対象の看護過程	1.看護過程の概要 2.アセスメント
第2回	第6章	慢性疾患がある対象の看護過程	2.アセスメント
第3回	第6章	慢性疾患がある対象の看護過程	3.関連図・看護診断
第4回	第6章	慢性疾患がある対象の看護過程	4.患者目標・看護計画
第5回	第6章	慢性疾患がある対象の看護過程	5.看護計画・実施・評価
第6回	第7章	生体防御機能障害のある対象の看護	1.HIV/AIDSの患者の看護
第7回	第7章	生体防御機能障害のある対象の看護	2.白血病の患者の看護
第8回	第8章	調節機能障害がある対象の看護	糖尿病の患者の特徴〔1〕
第9回	第8章	調節機能障害がある対象の看護	糖尿病の患者の看護〔2〕
第10回	第9章	内部環境調節障害がある対象の看護	慢性腎不全の患者の特徴〔1〕
第11回	第9章	内部環境調節障害がある対象の看護	慢性腎不全の患者の看護〔2〕
第12回	【演習】	慢性疾患がある対象のセルフケアを促進する援助方法	〔調節機能障害がある対象の看護〕
第13回	【演習】	慢性疾患がある対象のセルフケアを促進する援助方法	〔調節機能障害がある対象の看護〕
第14回	【まとめ1】	慢性疾患がある対象のQOLの向上に向けた看護	
第15回	【まとめ2】	第7～10章の要点の確認・慢性疾患がある患者の看護の体系化	

評価方法

筆記試験 70%、課題レポート・授業参加度 30%

使用教材

- 1.鈴木志津恵,藤枝佐和,成人看護学 慢性期看護論,NOUVELLE HIROKAWA,
- 2.リンダ J.カルペニート,新島幸恵監訳,竹花富子訳,看護診断ハンドブック,医学書院

授業外学習の内容

第1回の授業で各回の講義内容に関連する授業外学習の課題や学習方法について資料で配付する。

備考

【担当教員のメールアドレス】 吉田久美子 yoshikumi@takasaki-u.ac.jp

セルフケア論（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

慢性疾患がある対象のセルフケアの重要性を理解し、セルフケアを促進するための看護を学習する。

到達目標

1. 慢性疾患がある対象を中心に、セルフケアを促進する看護の重要性が理解できる。
2. 対象のセルフケアを促進するための看護方法が理解できる。

講義内容と講義計画

第1回:第1章 セルフケアの基本 1. セルフケアの定義とオレム看護論

第2回:第1章 セルフケアの基本 2. セルフケアに関連する理論

第3回:第1章 セルフケアの基本 3. セルフケアを促す基本的看護

第4回:第2章 セルフケアを促進する看護方法 がんとともに生きる患者の特徴と看護〔1〕

第5回:第2章 セルフケアを促進する看護方法 がんとともに生きる患者の特徴と看護〔2〕

第6回:第2章 セルフケアを促進する看護方法 リハビリテーション看護を基盤にした看護方法

第7回:第3章 セルフケアを促進する看護：第1回から第6回までの学習内容の要点を体系的に整理し、セルフケアを促すことの重要性と看護方法に対し考察する。

第8回:まとめ

評価方法

筆記試験 70%、レポート・授業参加度 30%

使用教材

【テキスト】安酸史子他編集：ナーシング・グラフィカ 25 成人看護学 セルフマネジメント,MC メディカ出版

【テキストの使用法】授業中にポイントや事例に関して活用する。各自、授業外の学習でも関連部分を読み活用すること。

授業外学習の内容

1. 授業で紹介する参考文献を読み、各自で学習内容の理解に努めること。
2. 授業でテキストの関連部分を紹介する。各自でテキストを活用し復習しておくこと。

備考

【担当教員のメールアドレス】 yoshikumi@takasaki-u.ac.jp

感染看護（看護専門科目群）

担当者

安野朝子 井川沙希子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

1. 感染の成り立ちを理解し、感染症予防と管理の具体的な方策を学ぶ。
2. 医療関連感染の現状を理解しその対策を学ぶ
3. 新興・再興感染症とその対策を学ぶ

到達目標

1. 感染の成り立ちを説明できる。
2. 感染予防策と感染の成り立ちの関連について説明できる。
3. 医療関連感染の内容を説明でき、感染予防策が立案できる。
4. 新興・再興感染症の内容を説明でき、これらの感染症対策の動向について情報検索できる。
5. 医療関連感染が起こった時、医療関連感染のアウトブレイクが発生した時、自分が感染症になった時それぞれの立場でどのような心情になるのかを考えることができる。

講義内容と講義計画

第1回 感染の鎖を理解する

第2回 新興・再興感染症の課題 薬剤耐性菌の出現と国際的な感染の広がり

エボラ出血熱 MERS コロナウイルス HIV感染症 結核 多剤耐性緑膿菌
デング熱 鳥インフルエンザ

第3回 感染防止技術 標準予防策・経路別対策

滅菌・消毒・洗浄とスποルディングの分野 職業感染防止

第4回 医療関連感染サーベイランス 血管内留置カテーテル関連敗血症、尿路カテーテル関連尿路感染、
呼吸器関連肺炎、手術部位感染

第5回 地域における感染対策 在宅看護、介護老人施設、学校、その他

第6回 感染対策における情報の活用とアウトブレイクへの対応

第7回 感染症と人間の関わりについて考える

評価方法

課題のレポート A4用紙 2枚程度を提出

使用教材

【参考図書】

- ①「岩田健太郎：絵でわかる感染症 With もやしもん，講談社，2015」
- ②「金井一薫：ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる！，西東社，2014」
- ③「インфекションコントロール編集室編集：みせて説得！みて納得！図解でわかる！みんなの感染対策キホンノート，Infection Control 2014年秋季増刊（通巻266巻）メディカ出版，2014」
- ④「医療情報科学研究所編集：看護技術が見える Vol.2 臨床看護技術第1版，メディックメディア，2014」

授業外学習の内容

新聞、テレビ、その他のメディアをどうして感染症がどのように伝えられているか気をつけて情報収集しましょう。伝えられた場面で看護師は何をしているか注目して下さい。

備考

成人看護学実習 I (看護専門科目群)

担当者

石田順子・砂賀道子

開講学科と時期・単位

看護学科 3 年前期～3 年後期 必修 3 単位

講義目標

既習の知識、技術を活用し、急性期・回復期に問題のある成人期の対象を総合的にとらえ、健康障害からの回復と社会復帰に向けて看護過程を展開し、看護の実践能力を養う。

到達目標

1. 周手術期にある対象の特徴をふまえて、対象を理解できる。
2. 対象の傷害された健康段階を知り、健康障害の状況にある対象を理解できる。
3. 対象の看護上の問題を把握し、看護過程を展開することができる。
4. 対象のストレスとコーピング、ボディイメージ変化の受容、喪失と悲嘆のプロセスを理解し、必要な援助が理解できる。
5. 手術を受ける対象の外科的侵襲に伴う著しい変化を理解し、心身の回復や社会への適応をはかれるよう援助が理解できる。
6. 周手術期の対象を取り巻く家族・地域・職場などの環境を理解し、その対象に必要な援助のための保健・医療・福祉チームアプローチの必要性を理解できる。
7. 健康の維持・増進のための社会資源の活用と援助について理解できる。

講義内容と講義計画

I. 実習内容

1. 成人の急性期または回復期の健康障害を持つ患者を受け持ち、受け持ち患者の看護過程を展開する。また、受け持ち患者と関連する病棟以外の部門の見学実習等を行う。
2. カンファレンス(グループ・全体)により学びを深める。
3. 看護過程記録、事前レポート、終了時レポートなどの記録を実施し提出する。

II. 実習計画

3 週間の実習期間を通して、急性期・回復期にある患者に対して看護過程を展開する。

- 1 週目: 手術を受ける患者を各 1 名受け持たせていただく。そして受け持ち患者の情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画の立案を行う。受け持ち患者の状況に応じて手術見学等を行う。
- 2 週目: 受け持ち患者の看護計画に基づき実践し、評価を行う。状況に応じ、手術等の見学も同時に行う。
- 3 週目: 実習のまとめとして、演習を行う。また、受け持ち事例をまとめ、事例検討会を行う。

評価方法

実習目的、目標の達成度、実習の態度について総合的に評価する。

使用教材

成人看護学実習 I 実習要項、看護診断ハンドブック (医学書院)、アセスメントガイド (2 年次配布)、術後の観察ノート (2 年次配布)

成人看護学方法論 I で使用した教科書

授業外学習の内容

事前課題の見直しを行い、実習にのぞむこと。事前に受け持ち予定患者の疾患および、術式についてしっかり学習しておくこと。初めて経験する、検査や看護技術は、事前に調べて実習に臨むこと。

備考

積極的に実習にとり組んで下さい。疾患の看護に関する資料（病態関連図など）を実習前に準備して実習に臨んで下さい。

成人看護学実習Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子・福島直子・鈴木恵理・小沼美加

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修 3単位

講義目標

慢性疾患がある成人期の対象の特徴をとらえ、QOLの向上をめざしセルフケアを促進する看護を学習する。また、終末期にある対象に対しては生命の尊厳を重視し、全人的苦痛を緩和するための看護を学ぶ。

到達目標

- 1.慢性疾患を抱える対象の身体的・心理的・社会的特徴について述べるができる。
- 2.看護過程のプロセスを経て、対象に適したセルフケアの確立に向けた援助ができる。
- 3.対象の日常生活行動の援助の重要性や適した方法を理解し援助ができる。
- 4.検査や治療について目的や方法、生じやすい身体的・心理的な影響を理解し援助ができる。
- 5.終末期にある対象の全人的苦痛の理解に努め、緩和ケアについて理解し援助ができる。
- 6.慢性期・終末期にある対象の看護を考察できる。

講義内容と講義計画

I.各実習目標に対する実習内容

実習目標1：慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的側面について既習の知識を活用し捉える。

実習目標2：対象の生活習慣や自己管理に関する情報を収集し、セルフケアに関して対象が抱えている問題を分析する。対象の状態を十分考慮し具体的な目標と計画を立案し、実施状況をもとに評価する。

実習目標3：疾病や治療が日常生活行動や心理面に影響を及ぼしている状況を分析し、目標と計画を立案し実施し評価する。

実習目標4：検査や治療の目的と方法をふまえ、合併症や身体的・心理的な影響を分析し具体的に援助する。

実習目標5：対象が抱えている全人的苦痛の理解に努め、共感的態度で支援し緩和ケアを実施する。

実習目標6：病棟実習指導での学習をふまえ、慢性疾患がある対象あるいは終末期にあり緩和ケアを受けている患者のQOLの向上に向けた看護について看護理論の統合化させ考察する。

II.実習計画

1.病棟実習において慢性疾患がある患者、あるいは終末期にあり緩和ケアを受けている患者を受け持ち、看護過程を展開する。

2.学内実習でカンファレンスやグループワークを行い各実習目標に対する学びを深める。

評価方法

実習目的・目標の到達度について、成人看護学実習Ⅱの評価表にて評価する。

使用教材

主に成人看護学概論や成人看護学方法論Ⅱ、セルフケア論で使用したテキストや授業資料、看護診断ハンドブックを活用する。

授業外学習の内容

- ・成人看護学概論や成人看護学方法論Ⅱの学習内容を各自で整理しておくこと。
- ・成人看護学方法論Ⅱで紹介した参考文献や関連する文献をよく読み実習目標に関連づけ事前学習をしておくこと。
- ・実習前に看護過程の展開例を活用し準備しておくこと。

備考

老年看護学概論（看護専門科目群）

担当者

大澤幸枝・小池洋子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

老年看護の対象者である高齢者とその家族を加齢や疾病・障害、過去から現在までの社会・生活状況などから多面的に理解し、老年期におこりやすい健康障害や諸問題の特徴を理解する。
また、高齢者を援助する看護の役割を理解し、その人らしさを支え権利擁護できる心構えを学習する。

到達目標

1. 老年看護の対象者である高齢者とその家族を加齢や疾病・障害、社会・生活状況などから多面的に理解できる
2. 老年期におこりやすい健康障害や諸問題の特徴を理解できる
3. 高齢者を援助する看護の役割が理解でき、その人らしさを支え権利擁護の心構えができる

講義内容と講義計画

- 第1回 高齢者と老年看護の理念（老いること 高齢社会 老年看護の理念）
- 第2回 高齢者の特徴と理解（加齢変化 老化の理論 老年期 健康 QOL）
- 第3回 高齢者の生理機能の変化1 感覚・運動・神経系（DVD視聴を含む）
- 第4回 高齢者の生理機能の変化2 消化・腎・排泄系（DVD視聴を含む）
- 第5回 高齢者の生理機能の変化3 循環・呼吸系（DVD視聴を含む）
- 第6回 高齢者の生理機能の変化4 高齢者体験 ①
- 第7回 高齢者の生理機能の変化5 高齢者体験 ②
- 第8回 高齢者を取りまく社会（家族 保健医療福祉制度 社会資源 権利擁護）
- 第9回 高齢者看護の基本 1（諸理論 倫理：自己決定・終末期・身体拘束）
- 第10回 高齢者看護の基本 2（高齢者のアセスメント バイタルサインの特性 リスクマネジメント）
- 第11回 高齢者のヘルスプロモーション（健康づくり、介護予防 認知症予防）
- 第12回 高齢者と家族の理解 <ゲストスピーカー>
- 第13回 生活を支える看護 1（コミュニケーション）
- 第14回 生活を支える看護 2（社会参加 セクシャリティ 住まい 経済状態）
- 第15回 老年看護の諸問題・まとめ

評価方法

筆記試験 80%、レポート 20%により評価するが、授業参加度や学習態度も含め評価する。

使用教材

堀内ふきら編著：ナーシング・グラフィカ 老年看護学①-高齢者の健康と障害. 2014, メディカ出版

授業外学習の内容

高齢者と家族を理解するために、フィールドワークを行う(地域の健康老人と直接コミュニケーションをとってみる)

備考

老年看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）

担当者

内田 真理子 内田 星野千春 星河純子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

治療を必要とする高齢者、援助を必要とする要介護高齢者、終末期の高齢者など、様々な健康レベルにある高齢者の、障害や症状に応じた看護方法を学習することを目的とする。

到達目標

様々な健康レベルにある高齢者の障害や症状に合わせた看護方法が理解できる

講義内容と講義計画

- 第1回 高齢者の生活機能を整える看護の展開 1 食事と看護ケア
- 第2回 高齢者の生活機能を整える看護の展開 2 排泄とケア
- 第3回 高齢者の生活機能を整える看護の展開 3 日常生活を支える基本的動作と看護ケア
- 第4回 高齢者の生活機能を整える看護の展開 4 生活リズムと看護ケア
- 第5回 高齢者の生活機能を整える看護の展開 5 清潔とケア
- 第6回 検査・治療を受ける高齢者の看護ケア 1 検査 栄養ケア 薬物療法
- 第7回 検査・治療を受ける高齢者の看護ケア 2 放射線療法 手術療法（周手術期含む）
- 第8回 疾患を持つ高齢者への看護 1 心不全 パーキンソン病 インフルエンザ 感染症
- 第9回 疾患を持つ高齢者への看護 2 褥瘡 終末期の看護（エンドオブライフ）
- 第10回 疾患を持つ高齢者への看護 3 うつ せん妄
- 第11回 疾患を持つ高齢者への看護 4 認知症とは、診断 評価 看護
- 第12～13回 音楽療法士による高齢者対応 <ゲストスピーカー>
- 第14回 地域資源を活用した看護 高齢者のリスクマネジメント
- 第15回 生活を支える看護 2（社会参加 セクシャリティ 住まい 経済状態）
- 第15回 老年看護の目ざすもの・災害・まとめ

評価方法

筆記試験 80%、レポート 20%により評価するが、授業参加度や学習態度も含め評価する。

使用教材

北川公子：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学，2014，医学書院

授業外学習の内容

老年看護学概論を復習し、様々な健康レベルにある高齢者を想起できるよう、また、前回の授業の復讐や次回の授業範囲を予習するなど、授業外学習をしておくことが望ましい。

備考

老年看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

内田真理子 星野千春 星河純子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

治療を必要とする高齢者や援助を必要とする要介護高齢者など、様々な健康レベルにある高齢者の、障害や症状に応じた看護方法を学習し、老年期にある対象の看護実践が具体的に考えられることを目的とする。

到達目標

1. 様々な健康レベルにある高齢者の障害や症状に応じた看護方法が理解できる
2. 既習の高齢者に対する看護を学生各自が臨地実習で活用できるよう理解を深めることができる
3. 既習内容から高齢者に対する看護過程をグループワークでまとめることができる

講義内容と講義計画

- 第1回 疾病をもつ高齢者への看護 1 骨粗鬆症 骨折（大腿骨頸部骨折 脊椎圧迫骨折 等）
第2回 疾病をもつ高齢者への看護 2 脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）
第3回 疾病をもつ高齢者への看護 3 肺炎 呼吸不全
第4回 老人専門看護師 による実践活動 <ゲストスピーカー>
第5回 事例検討1 GWでの看護過程の展開演習（アセスメント）
第6回 事例検討2 GWでの看護過程の展開演習（関連図）
第7回 事例検討3 GWでの看護過程の展開演習（問題リスト・看護計画）
第8回 事例検討4 GWでの看護過程の展開演習（まとめ）
第9回 事例検討5 看護過程グループ発表①
第10回 事例検討6 看護過程グループ発表②
第11～14回 高齢者看護に必要な基本的看護（演習） 排泄 移乗 口腔ケア 嚥下障害のケア
第15回 老年看護学 まとめ

評価方法

筆記試験 70%、グループ演習 20% 課題レポート 10%から評価するが、授業参加度や学習態度も含め評価する。

使用教材

- 1.堀内ふきら編著：ナーシング・グラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践, 2014, メディカ出版
 - 2.北川公子：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学. 2014, 医学書院
 - 3.堀内ふきら編著：ナーシング・グラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害, 2014, メディカ出版
- 但し、上記2・3の教科書は老年看護学概論および老年看護学方法論Ⅰで使用している

授業外学習の内容

老年看護学概論及び老年看護学方法論Ⅰを復習し、様々な健康レベルにある高齢者への援助について、学生自ら考えてみるができるよう授業外学習をしておくことが望ましい

備考

老年看護学実習（看護専門科目群）

担当者

内田真理子 星野千春 星河純子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修 3単位

講義目標

老年期にある対象の健康上および生活上の問題を把握し、その個人と家族を支援する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得する。

到達目標

1. 老年期にある対象の健康上および生活上の問題を機能障害の視点から把握できる
2. その個人と家族を支援する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得できる

講義内容と講義計画

1. 老年期にある対象の特徴について理解する。
2. 老年期にある対象の健康上および生活上の問題を解決するための看護を実施する。
3. 高齢者ケアにおける保健・医療・福祉のシステムを理解する。

評価方法

授業参加度、実習目的・目標の達成状況、看護ケアの実施状況、実習記録およびケースレポート、学習態度による総合評価

使用教材

既習の老年看護学における使用教材および臨地実習要項

授業外学習の内容

老年看護学概論および老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱを復習し、様々な健康レベルにある高齢者への個別的な援助について、学生自らが考え臨地実習で活用できるよう授業外学習をしておくことが望ましい

備考

小児看護学概論（看護専門科目群）

担当者

櫻井美和、星野美穂

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

小児の健康と成長・発達および小児を取り巻く環境を理解し、小児看護の役割・機能を学習する

到達目標

- ①小児看護の対象、目標、および役割・機能を理解する
- ②子ども観、小児医療および小児看護の変遷を理解する
- ③小児看護における子どもの権利とその重要性および倫理的課題を理解する
- ④小児期の母子関係、家族機能とそれらの重要性を理解する
- ⑤母子保健統計の変遷、母子保健、小児保健の関係法規および行政施策を理解する
- ⑥小児看護における対象理解に必要な基礎的知識、発達理論を理解する
- ⑦小児期各期の健康問題とその解決、および、疾病の予防、健康の維持・増進に向けた支援を理解する
- ⑧上記①～⑦に基づき、日本における小児看護の課題および小児看護の役割・機能を考察する

講義内容と講義計画

第1回 科目オリエンテーション

小児看護の特徴と理念／子どもを取り巻く環境[1]：小児看護の対象、小児看護における健康の概念

第2回 小児看護の特徴と理念／子どもを取り巻く環境[2]：小児看護の対象と環境、小児看護における倫理

第3回 小児看護の特徴と理念／子どもを取り巻く環境[3]：子どもを抱える家族の特徴とその機能

第4回 小児看護の特徴と理念／子どもを取り巻く環境[4]：

・小児保健統計の変遷、母子保健および小児保健の関係法規と行政施策

第5回 小児看護の特徴と理念／子どもを取り巻く環境[5]：小児看護の目標、役割・機能

第6回 子どもの成長・発達と看護[1]：成長・発達の概念、発達の一般的原則、発達の影響要因

第7回 子どもの成長・発達と看護[2]：

・各発達段階の身体的な発達の特徴と看護①：呼吸器、循環器、血液・造血器、体温調節機能、消化器

第8回 子どもの成長・発達と看護[3]：

・各発達段階の身体的な発達の特徴と看護②：形態的発達、脳・神経系、運動機能、感覚器、免疫機能

第9回 子どもの成長・発達と看護[4]

・各発達段階の心理・社会的発達の特徴と看護①：情緒の分化、認知発達、愛着、言語・コミュニケーション機能

第10回 子どもの成長・発達と看護[5]：

・各発達段階の心理・社会的発達の特徴と看護②：発達課題

・発育評価、発達評価

第11回 子どもの成長・発達と看護[6]：

・各発達段階の日常生活習慣の自立過程と看護①：育児・しつけの概念、食事・栄養、排泄

第12回 子どもの成長・発達と看護[7]：

・各発達段階の日常生活習慣の自立過程とその支援②：清潔・衣生活、遊び、学習

第13回 子どもの健康問題と看護[1]：

・子どもの健康問題と概況、子どもの健康の維持・増進に向けた支援（子どもの睡眠、予防接種）

第14回 子どもの健康問題と看護[2]：

・子どもの事故とその支援（予防と安全教育）、子どもの心の健康問題とその支援

第15回 小児看護の役割と機能：総括：小児看護における課題と役割・機能、まとめ

評価方法

授業参加度（10%）、試験（60%）、課題レポート（30%）により、総合的に評価する。

使用教材

・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，¥3,024.

授業外学習の内容

- ・授業内容に該当する箇所について、教科書を精読し、授業に臨む。
- ・授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。
- ・提示された課題には必ず取り組む。
- ・新聞、報道等により、子どもと家族に関する社会問題や課題について情報収集する。

備考

- ・本科目は、小児看護学方法論Ⅰ、小児看護学方法論Ⅱ、小児看護学実習へと連動する重要な科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認し、積極的に授業に臨む。
- ・ポートフォリオを持参し、学習内容を補充しながら授業に臨む。

小児看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）

担当者

櫻井美和、星野美穂

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）に応じた看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶ。

到達目標

- ①小児期に生じやすい健康障害の経過、症状、治療の理解に基づき、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を統合的に理解する
- ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴的な看護問題とその看護を理解する
- ③子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で必要な小児看護技術を習得する。

講義内容と講義計画

第1回 科目オリエンテーション

健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護[1]：

- ・病気、障害および入院による子どもと家族への影響と看護

第2回 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護[2]：

- ・医療を受ける子どもの看護、子どもの病気の理解と説明

第3回 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と看護[3]：

- ・病気、障害を抱える子どもへの日常生活支援

第4回 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[1]：

- ・治療・検査・処置を受ける子どもの体験 ・採血、腰椎穿刺、骨髄穿刺

第5回 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[2]：

- ・輸液療法、与薬、発達段階に応じた説明とプレパレーション

第6回 治療・検査・処置を必要とする子どもと家族への看護[3]：手術を受ける子どもと家族への看護

第7回 子どもの示す主な症状とその看護[1]：不機嫌および啼泣、痛み、発熱、脱水等

第8回 子どもの示す主な症状とその看護[2]：呼吸困難、けいれん、意識障害等

第9回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護[1]：急性期にある子どもと家族への看護

第10回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護[2]：救急救命処置が必要な子どもと家族への看護

第11回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護[3]：長期療養を必要とする子どもと家族への看護

第12回 健康障害の病期別の子どもと家族への看護[4]：予後不良の疾患を抱える子どもと家族への看護

第13回 さまざまな状況にある子どもと家族への看護[1]：活動制限、隔離を必要とする子どもと家族への看護

第14回 さまざまな状況にある子どもと家族への看護[2]：医療的ケアを必要とする子どもと家族への在宅看護

第15回 さまざまな状況にある子どもと家族への看護[3]：外来における子どもと家族への看護

評価方法

授業参加度（10%）、試験（80%）、課題レポート（10%）により、総合的に評価する。

使用教材

・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，¥3,024。

・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論，医学書院，¥3564。

授業外学習の内容

・授業内容に該当する箇所について、教科書を精読し、授業に臨む。

- ・授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。
- ・提示された課題には必ず取り組む。
- ・新聞、報道等により、子どもと家族に関する社会問題や課題について情報収集する。

備考

- ・本科目は、小児看護学方法論Ⅱ、小児看護学実習へと連動する重要な科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認し、積極的に授業に臨む。
- ・ポートフォリオを持参し、学習内容を補充しながら授業に臨む。

小児看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

櫻井美和、星野美穂

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

小児期特有の病気・障害を抱える子どもと家族への看護を実践する上で必要な基本的知識・技術を学ぶとともに、健康障害を抱える子どもの発達段階、健康状態（疾患、疾患・治療に起因する症状、病期、治療・検査・処置など）、個別性に応じた看護過程を展開する方法および看護を実践する上で必要な基本的技術を学ぶ。

到達目標

- ①小児期特有の病気・障害を抱える子どもと家族への看護を理解する。
- ②健康障害を抱える子どもと家族の特徴をふまえ、看護過程の基本的な考え方を理解する。
- ③健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性をアセスメントする。
- ④健康障害を抱える子どもの顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案する
- ⑤子どもの発達段階、健康状態に応じた看護を実践する上で必要な小児看護技術を習得する。

講義内容と講義計画

第1回 科目オリエンテーション

健康障害を抱える子どもの看護過程[1]：小児看護における看護過程の基本的な考え方、アセスメントの特徴

第2回 健康障害を抱える子どもの看護過程 [2]：アセスメント①

第3回 健康障害を抱える子どもの看護過程[3]：アセスメント②

第4回 健康障害を抱える子どもの看護過程 [4]：アセスメント③

第5回 健康障害を抱える子どもの看護過程 [5]：看護問題の明確化①（関連図の作成）

第6回 健康障害を抱える子どもの看護過程 [6]：

看護問題の明確化②（看護問題・共同問題の抽出と優先順位の決定）

第7回 健康障害を抱える子どもの看護過程 [7]：看護計画の立案（目標設定、計画の立案）

第8回 小児期特有の病気・障害を抱える子どもと家族への看護[1]：ハイリスク新生児と家族への看護

第9回 小児期特有の病気・障害を抱える子どもと家族への看護[2]：

重症心身障害を抱える子どもと家族への看護

第10回 小児看護技術[1]：子どものフィジカルアセスメント

第11回 小児看護技術[2]：演習①（フィジカルアセスメント、心肺蘇生法、経口与薬）

第12回 小児看護技術[3]：演習②（フィジカルアセスメント、心肺蘇生法、経口与薬）

第13回 小児看護技術[4]：演習③（フィジカルアセスメント、心肺蘇生法、経口与薬）

第14回 小児看護技術[5]：演習④（フィジカルアセスメント、心肺蘇生法、経口与薬）

第15回 総括

評価方法

課題レポートと小テスト（35%）、小児看護技術演習の課題レポート（15%）、試験（50%）により、総合的に評価する。

使用教材

・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，¥3,024。

・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論，医学書院，¥3564。

授業外学習の内容

- ・授業内容に該当する箇所について、教科書を精読し、授業に臨む。
- ・授業の進行過程において、各自がポートフォリオを作成する。
- ・提示された課題には必ず取り組む。

備考

- ・本科目は、小児看護学方法論Ⅱ、小児看護学実習へと連動する重要な科目であるため、授業シラバス、授業計画を必ず確認し、積極的に授業に臨む。
- ・教職必修科目

小児看護学実習（看護専門科目群）

担当者

櫻井美和

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修2単位

講義目標

さまざまな健康状態、発達段階にある子どもとその家族を統合的に理解し、疾病の予防、健康の維持・増進、健康問題の解決を目指した個別性に応じた看護を実践するための基礎的能力を養うとともに、小児看護の役割・機能を学ぶ。

到達目標

- ①小児期にある対象の成長・発達や家族の特性をふまえ、援助的なコミュニケーションを構築する
- ②小児期にある対象を身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解する
- ③小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題とその支援の必要性を身体的、精神的、社会的側面からアセスメントする
- ④小児期にある対象の顕在的・潜在的な健康問題の解決および回避に向けた個別的な看護計画を立案、実施、評価する
- ⑤小児期にある対象の理解および看護実践をとおして、小児看護の役割・機能とその意義を理解する
- ⑥小児期にある対象と家族をとりまく保健医療福祉および教育にかかわる多職種チームの一員として行動する
- ⑦看護学の初学者として、看護の役割・機能を果たすための責任、および望ましい態度を修得する

講義内容と講義計画

1. 実習期間および実習施設
2週間の間、保育園および小児専門病院、一般病院、重症心身障害児施設の病棟において実習する。
2. 実習内容
 - 1) 保育園実習：
子どもを取り巻く人的・物理的環境、日常生活の支援場面（遊び、食事、排泄、清潔等）を参加観察する。さらに、幼児期にある健康な子どもの成長・発達の特徴、生じやすい健康問題を理解するとともに、健康な子どもへの支援のあり方とその意義を探求する
 - 2) 病棟実習：
健康障害を抱え入院している子どもを受け持ち、看護過程を展開するとともに、日常生活の支援（遊び、食事、排泄、清潔等）、治療・検査・処置にかかわる支援を参加観察、または実施する。さらに、受持ち患者への看護実践をとおして、健康障害を抱える子どもと家族への支援のあり方とその意義を探求する。
 - 3) 統合カンファレンス
保育園実習、病棟実習での学びをグループメンバー間で共有し、小児看護の役割・機能とその意義を考察するとともに、自己の課題を明確にする。

評価方法

実習目標を評価基準とし、実習、学内演習、カンファレンスにおける学生の言動、および実習記録やレポートの記載内容により、総合的に評価する。

使用教材

- ・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，¥3,024.
- ・奈良間美保他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論，医学書院，¥3564.
- ・その他、小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ、小児看護学方法論Ⅱで配布した授業資料も活用する

授業外学習の内容

・小児期にある対象の理解、看護過程の展開、小児看護学技術の実施の際に活用できるポートフォリオを各自作成する。

備考

- ・各自で作成したポートフォリオを活用し、実習に臨む。
- ・教職必修科目

母性看護学概論（看護専門科目群）

担当者

大石時子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

リプロダクティブヘルス・ライツをベースに、人間の性と生殖のメカニズムとその意義を理解し、ライフサイクルを通じた女性の健全な発達や母子の健康と安全を支援する母性看護を展開するための基礎知識を習得する。

到達目標

1. 母性看護の概念と生命の神秘を学び、母性看護の意義と役割について理解できる。
2. セクシュアリティ（人間の性と生殖）の概念と意義が理解できる。
3. リプロダクティブヘルス&ライツの概念を学んで、女性の人権とQOLについて考えられる。
4. 母性看護職者としての法的責任と義務を理解し、倫理的な視点を持つことができる。
5. 女性のライフサイクル各期の特徴と発達課題を理解し、看護の役割を理解できる。
6. 母子保健や性と生殖に関連した政策・施策、社会の動向に関心を持ち、自らの性および生命（いのち）と重ねながら、考え尊重する言動が見られる。

講義内容と講義計画

- 第1回 母性看護とは ガイダンス
- 第2回 母性看護学、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第3回 女性と労働
- 第4回 母性看護職者の法的責任と生命倫理
- 第5回 母性看護学で用いられる理論①
- 第6回 母性看護学で用いられる理論②
- 第7回 母子保健統計
- 第8回 母性看護と法律・施策
- 第9回 ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護 思春期女性の理解と看護
- 第10回 性感染症、妊娠期への感染症の予防
- 第11回 セクシュアリティ、インターセックス、性の健康等
- 第12回 生殖補助医療と生命
- 第13回 更年期女性の理解と看護
- 第14回 自己学習ノート
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 60%、課題レポート 30%、出席状況、学習態度による総合評価

使用教材

ナーシング・グラフィカ母性看護学①、母性看護実践の基本、第3版、2014年、メディカ出版

授業外学習の内容

授業の最初や産後に当日や前回の授業内容に関する練習問題等を実施することもあるので、予習や復習をしておくこと。また予習・復習を通じて、専門用語の意味を理解しておく事。

備考

配布する自主学習ノートを活用すること。

母性看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）

担当者

新野由子・新井基子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

マタニティサイクルにある女性の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。妊娠、分娩期の正常・異常な経過について学習する。母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学実習と関連付け講義をすすめる。

到達目標

マタニティサイクルにある女性と新生児の特徴を理解し、看護を実践するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。妊娠、分娩の正常・異常な経過について学習する。

母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学実習と関連付け講義をすすめる。

1. 妊婦、産婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解できる。
2. 妊娠、分娩の生理的な経過とその診断、検査等を理解し、正常に経過させるための看護を理解できる。
3. 妊娠期、分娩期に起こりやすい異常徴候を理解し、その早期発見と回復に向けた看護を理解できる。
4. 妊婦、産婦に対して必要な看護技術について理解できる。
5. 妊婦、産婦の家族に対して必要な看護を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション マタニティサイクルとは
- 第2回 妊婦の看護 ①身体・心理・社会的特徴
- 第3回 妊婦の看護 ②妊婦健康診査とケア
- 第4回 妊婦の看護 ③検査(NST他)とケア
- 第5回 妊婦の看護 ④日常生活、マタニティトラブルとセルフケア
- 第6回 産婦の看護 ①分娩の経過
- 第7回 産婦の看護 ②産婦の身体、心理、社会的特徴
- 第8回 産婦の看護 ③分娩 第1期～4期のケア
- 第9回 産婦の看護 ④分娩 第1期～4期のケア,分娩準備教育
- 第10回 異常妊産婦の看護 ①妊娠中の異常
- 第11回 異常妊産婦の看護 ②分娩中の異常
- 第12回 特別講義「母性看護と専門職の役割」
- 第13回 演習(妊産婦への看護技術)
- 第14回 演習(妊婦の集団指導)
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、レポート課題 20%、授業参加度、授業態度による総合評価

*筆記試験の受験資格は、授業実時間の3分の2以上の出席を条件とする。

使用教材

ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 第3版 2014年 メディカ出版

授業外学習の内容

授業で取上げるテーマについて、テキストを中心に予習して授業に臨むこと。また自分なりに要点をまとめて、復習をすること。

母性看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

新野由子・新井基子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

女性のライフサイクルにおける褥婦および新生児の特徴を理解し看護を学ぶ。

到達目標

1. 褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
2. 産褥の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に経過させるための援助について説明できる。
3. 産褥期におこりやすい異常の徴候を理解し、その早期発見と健康を回復させるための援助について説明できる。
3. 褥婦の看護に必要な特有の技術を身に付け、母性看護が実践できる能力を養う。
4. 新生児の身体的、心理的、社会的特徴を理解できる。
5. 新生児の生理的な経過とその診断、検査を理解し、正常に発育させるための看護を理解できる。
6. 新生児に起こりやすい異常徴候を理解し、その早期発見と回復に向けた看護を理解できる。
7. 妊娠、分娩期を踏まえて、産褥期にある母性および家族に対して看護ができる能力を養う。

講義内容と講義計画

- 第1回 褥婦の看護 ①身体・心理・社会的特徴
第2回 褥婦の看護 ②退行性変化を促進する援助
第3回 褥婦の看護 ③進行性変化を促進する援助
第4回 褥婦の看護 ④日常生活とセルフケア
第5回 褥婦の看護 ⑤異常褥婦のケア
第6回 新生児の看護 ①新生児の身体的特徴
第7回 新生児の看護 ②出産直後と日常生活のケア
第8回 新生児の看護 ③異常新生児の看護
第9回 看護過程の展開 ①アセスメント
第10回 看護過程の展開 ②アセスメント
第11回 看護過程の展開 ③計画立案
第12回 看護過程の展開 ④実施・評価
第13回 演習:子宮底の測定、腹囲の観察、授乳支援
第14回 演習:新生児の沐浴
第15回 まとめ

評価方法

筆記試験 80%、レポート課題 20%、授業参加度、授業態度による総合評価

*筆記試験の受験資格は、授業実時間の3分の2以上の出席を条件とする。

使用教材

ナーシング・グラフィカ 母性看護② 母性看護技術 第2版 メディカ出版 2014年

授業外学習の内容

授業で取上げるテーマについて、テキストを中心に予習して授業に臨むこと。また自分なりに要点をまとめて、復習をすること。自己学習ノートを活用して、自分なりの理解を深めること

母性看護学実習（看護専門科目群）

担当者

新野由子・新井基子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修2単位

講義目標

妊婦、産婦、褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に適した基礎的看護を実践できる能力を養う。

到達目標

- 1.妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的経過、母子関係の形成について理解する。
- 2.受け持ちケースの看護過程を展開することができる。
- 3.母性を取り巻く地域の医療・保健・福祉諸機関や他職種との連携について理解する。
- 4.母性看護を通して自己の母性、父性意識を理解し、発展させることができる。

講義内容と講義計画

1.実習施設:産婦人科病院

2.内容

1)機能別実習

外来、陣痛室・分娩室、褥室、新生児室において、妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護を見学、体験する。

2)受け持ちケース実習

正常に経過すると思われる母子を受け持ち、出産から退院まで看護を体験する。

限られた実習期間ではあるが、母子を受け持ち看護過程を展開する。

(詳細は母性看護学実習要項を参照)

評価方法

授業参加度、学習状況や態度、提出物など実習評価表を用いて総合的に評価する。

使用教材

母性看護学実習要項

母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト：母性看護学1，母性看護学2（医学書院）

授業外学習の内容

母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習して臨むこと。既習の母性看護学科目を復習しながら、自らの実習計画を立案し、必要な事前学習を行っておくこと。実習で経験した事柄について、テキストや図書館での資料を用いて復習すること。

備考

精神看護学概論（看護専門科目群）

担当者

田邊要補

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

心の健康問題についての理解を深め、現代社会における精神保健・医療・福祉の活動とあり方を考える。また、精神保健福祉制度を理解し、精神看護の機能と役割を学習し、精神障がい者の人権について学ぶ。

到達目標

1. 精神看護学の基本的な考え方を理解できる。
2. 精神の健康と障がいを理解できる。
3. 人間の心のはたらきを理解できる。
4. 精神障がいの治療の歴史及び法制度を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 こころについて考える
- 第2回 精神看護学について1 課題
- 第3回 精神看護学について2 基本的な考え方
- 第4回 精神の健康と障がい 精神の健康とは
- 第5回 人間の心のはたらき1 人間の心の諸活動
- 第6回 人間の心のはたらき2 心のしくみと人格の発達①（防衛機制）
- 第7回 人間の心のはたらき3 心のしくみと人格の発達②（発達の理論）
- 第8回 人間の心のはたらき4 心の危機とストレス
- 第9回 関係のなかの個人1 全体としての家族
- 第10回 関係のなかの個人2 人間と集団
- 第11回 社会の中の精神障害1 精神障害と治療の歴史（レポート）
- 第12回 社会の中の精神障害2 精神障がいと文化・社会学
- 第13回 社会の中の精神障害3 精神障がいと法制度
- 第14回 「A Beautiful Mind」（レポート）
- 第15回 「A Beautiful Mind」（レポート）

評価方法

筆記試験 70%、レポート 20%（第11回、第14・15回）、授業参加度 10%

使用教材

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]
配布資料

授業外学習の内容

シラバスをふまえ、授業で取り上げるテーマについて、テキストを中心に予習して授業に臨むこと。
既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。
自分なりに要点をまとめて、復習すること。

備考

教職必修科目

精神看護学方法論Ⅰ（看護専門科目群）

担当者

田邊要補

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

精神看護を実践するための具体的な知識・技術について学習する。

到達目標

1. ケアの原則・方法やケアをする上での関係を理解できる。
2. 精神科における看護の役割を理解できる。
3. 地域で生活するための原則や法制度および地域での看護の実際を理解できる。
4. 精神科以外での精神看護を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ケアの人間関係1 ケアの原則
- 第2回 ケアの人間関係2 関係をアセスメントする:プロセスレコード
- 第3回 ケアの人間関係3 患者－看護師関係でおこること
- 第4回 精神科における看護の役割1 入院治療の意味を理解する
- 第5回 精神科における看護の役割2 治療的環境をつくる
- 第6回 精神科における看護の役割3 安全をまもる
- 第7回 精神科における看護の役割4 緊急事態に対処する
- 第8回 精神科における看護の役割5 回復を助ける
- 第9回 身体をケアする1 精神科の治療と身体ケア①
- 第10回 身体をケアする1 精神科の治療と身体ケア②
- 第11回 身体をケアする2 身体合併症
- 第12回 地域における精神看護1 地域で生活するための原則
- 第13回 地域における精神看護2 地域での看護の実際
- 第14回 精神科以外での精神看護1 身体疾患と精神看護
- 第15回 精神科以外での精神看護2 リエゾン精神看護

評価方法

筆記試験 80%、課題 10%（第2回）、授業参加度 10%

使用教材

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]
配布資料

授業外学習の内容

シラバスをふまえ、授業で取り上げるテーマについて、テキストを中心に予習して授業に臨むこと。
既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。
自分なりに要点をまとめて、復習すること。

備考

教職必修科目

精神看護学方法論Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

田邊要補

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修1単位

講義目標

精神に特徴的な疾患や症状をもつ人に対しての具体的な看護援助方法を学習する。

到達目標

1. 精神に特徴的な疾患や症状に応じた看護方法を理解できる。
2. 精神看護学で看護過程を展開する方法を理解できる。
3. 精神に障がい者のある方の理解を深める。

講義内容と講義計画

- 第1回 統合失調症患者の看護
- 第2回 気分障害患者の看護
- 第3回 精神科の症状と看護
- 第4回 アセスメントの視点、CP 値換算
- 第5回 事例展開①（個人）
- 第6回 事例展開②（個人）
- 第7回 精神看護技術：意思の尊重
- 第8回 当事者を支える視点・働きかけ。地域で生活している当事者の体験談
- 第9回 当事者を支える視点・働きかけ。地域で生活している当事者の体験談
- 第10回 事例展開①（グループワーク）
- 第11回 事例展開②（グループワーク）
- 第12回 感情労働とメンタルヘルス
- 第13回 事例の看護過程のグループ発表①
- 第14回 事例の看護過程のグループ発表②
- 第15回 経験者（精神に障害のあるかた）の体験談話

評価方法

筆記試験 50%、事例展開（個人）20%、事例展開（グループ）20%、授業参加度 10%

使用教材

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]・精神看護の展開 精神看護学[2]、新クイックマスター改訂版「精神看護学」監修：松下正明・坂田三允・樋口輝彦発行：医学芸術社
配布資料

授業外学習の内容

シラバスをふまえ、授業で取り上げるテーマについて、テキストを中心に予習して授業に臨むこと。
既習学習をふまえ、主体的・積極的に参加すること。
自分なりに要点をまとめて、復習すること。

備考

精神看護学実習（看護専門科目群）

担当者

田邊要補

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修2単位

講義目標

既習の知識を統合して、精神医療における看護の役割・機能および精神を障がいされた個人とその家族の理解を深める。精神の健康回復への援助およびその過程を通して、自己の内面の変化を洞察し、自己理解・看護観を深める。

到達目標

精神疾患をもつ人々とのかかわりを通して自己洞察を深め、共感・受容・距離の意味を体験的に説明することができる。

講義内容と講義計画

- 1.精神障がいをもつ対象を理解し、健康回復のために必要な援助ができる。
- 2.精神障がいをもつ対象のコミュニケーションの特徴を理解できる。
- 3.対象の看護上の問題を把握し、看護計画を立案・実施・評価できる。
- 4.医療チームメンバーの役割を認識し、看護の役割を認識できる。
- 5.実施した看護を報告できる。
- 6.対象者への援助を通して、自己洞察できる。

評価方法

実習中の面接を通して、実習の目標の到達度について、評価表(80%)、実習態度・提出物(20%)で評価する。

使用教材

実習中に適宜提示する。

授業外学習の内容

精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習して臨むこと。

備考

在宅看護学概論（看護専門科目群）

担当者

棚橋さつき

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修2単位

講義目標

在宅看護の目的と特性を知り、在宅で生活する療養者とその家族に必要な看護を提供するための基礎知識、および在宅療養者を支える社会資源やサポートシステムについて学ぶ。また、継続看護についての方法とあり方と連携について学ぶ。

到達目標

- 1.在宅看護の変遷や関連する制度について社会情勢などを踏まえながら理解できる。
- 2.在宅療養者や家族機能について理解できる。
- 3.訪問看護ステーションの役割と機能について理解できる。
- 4.継続看護の方法について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 在宅看護の目的と特性
- 第2回 在宅看護における家族看護
- 第3回 在宅療養者の理解とサポートシステム
- 第4回 在宅看護の法的基盤①（介護保険制度）
- 第5回 在宅看護の法的基盤②（訪問看護制度）
- 第6回 訪問看護ステーションの経営と管理
- 第7回 チームケアとマネジメント
- 第8回 他職種との連携①
- 第9回 他職種との連携②
- 第10回 退院支援とは
- 第11回 入院から在宅への継続看護（退院調整・退院支援）
- 第12回 入院から在宅への継続看護（事例検討）①
- 第13回 入院から在宅への継続看護（事例検討）②
- 第14回 事例発表・まとめ
- 第15回 在宅看護の展望と総括

評価方法

・筆記試験、ミニテスト、レポート、授業参加度、学習態度、グループワークによる総合評価

使用教材

- ・新版 在宅看護論 医歯薬出版株式会社 2400円（税別）
- ・ステーション日記 棚橋さつき 1000円（税別）
- ・その他、必要時に資料を配布

授業外学習の内容

- ・今まで学んできた事を組み合わせていく、統合的学習となりますので、他の科目も復習しながら学習に臨んで下さい。
- ・毎回授業の最初に豆テストをしますので、しっかり復習しておくこと。

備考

キーワード：「在宅看護」「在宅移行」「訪問看護制度」

受講ルール：私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

在宅看護学方法論 I (共通教養科目)

担当者

新井明子・田村直子・棚橋さつき

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

在宅看護における日常生活援助および対象別看護の特徴について学習する。また、家族を単位とする看護についてのアセスメント・プランを学習する。

到達目標

- 1.在宅療養者の日常生活援助について理解できる。
- 2.在宅療養者の対象別看護の特徴が理解できる。
- 3.在宅療養者とその家族の意思を尊重した具体的な看護過程が立案できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 在宅対象者の理解と対象別看護（高齢者、認知症）
- 第2回 在宅対象者の理解と対象別看護（難病）
- 第3回 在宅対象者の理解と対象別看護（小児、障害者・児）
- 第4回 在宅対象者の理解と対象別看護（終末期）
- 第5回 在宅対象者の日常生活援助（環境調整、リハビリテーション）
- 第6回 在宅対象者の日常生活援助（服薬・食事）
- 第7回 在宅対象者の日常生活援助（清潔・入浴等）
- 第8回 在宅対象者の日常生活援助（排泄）
- 第9回 在宅対象者の日常生活援助についてグループ発表・まとめ
- 第10回 在宅看護過程について ペーパーシュミレーションのオリエンテーション
- 第11回 ペーパーシュミレーション（アセスメント）
- 第12回 ペーパーシュミレーション（プラン作成）
- 第13回 ペーパーシュミレーション（プラン修正）
- 第14回 在宅看護過程のグループ発表①
- 第15回 在宅看護過程のグループ発表②・まとめ

評価方法

筆記試験、レポート、グループ課題による評価、発表会、授業参加度、学習態度による総合評価

使用教材

- ・新版 在宅看護論 医歯薬出版株式会社 2400円（税別）
- ・よくわかる在宅看護 角田直枝 学研メディカル秀潤社 2600円（税別）
- ・その他、資料を配布

授業外学習の内容

- ・グループワークによる学習については積極的に参加してほしい。・各学生は事前に参考書や関連する書籍において事前学習を行い主体的に取り組んでほしい。
- ・日程の後半から、在宅の特徴を踏まえた、看護過程の展開の内容になります。多面的にとらえられるように、いろいろな科目の復習をして、臨んで下さい。

備考

キーワード：「在宅看護」「対象別看護」「援助方法」「看護過程」

受講ルール：私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

在宅看護学方法論Ⅱ（共通教養科目）

担当者

新井明子・田村直子・棚橋さつき

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期 必修 1単位

講義目標

在宅療養者に対して行う基本的な看護技術について学ぶ。また、在宅の場で医療的処置を受けながら療養する人々に対する基本的な知識、技術について学習する。

到達目標

・在宅看護における看護技術の知識や技術が理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 在宅看護における看護技術（吸引、在宅酸素）講義①
- 第2回 在宅看護における看護技術（人工呼吸器）講義②
- 第3回 在宅看護における看護技術（吸引、在宅酸素、人工呼吸器）技術演習
- 第4回 在宅看護における看護技術（経管栄養、在宅中心静脈栄養等）①講義
- 第5回 在宅看護における看護技術（経管栄養、在宅中心静脈栄養等）②技術演習
- 第6回 在宅看護における看護技術（ストーマ、褥瘡管理等）①講義
- 第7回 在宅看護における看護技術（ストーマ、褥瘡管理等）②技術演習
- 第8回 在宅看護におけるリスクマネジメント

評価方法

・筆記試験、授業参加度、学習態度による総合評価

使用教材

- ・新版 在宅看護論 医歯薬出版株式会社 2400円（税別）
- ・よくわかる在宅看護 角田直枝 学研メディカル秀潤社 2600円（税別）
- ・その他、資料を配布

授業外学習の内容

- ・専門的技術やケア方法についての学習になるので、事前に教科書で予習を十分に行って講義に臨んでほしい。また自分なりに要点をまとめて復習すること。
- ・在宅看護における看護技術を学習しますが、基本的看護技術をもう一度学習して講義に臨んで下さい。

備考

キーワード：「在宅看護」「看護技術」
受講ルール：私語、携帯電話の使用は厳禁とする。

在宅看護学実習（看護専門科目群）

担当者

棚橋さつき・新井明子・田村直子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修2単位

講義目標

在宅で療養する療養者と家族を総合的に理解するとともに、家族を支える社会資源や制度を学ぶ。また、様々な発達段階、健康レベルの人々を「生活の場」で支えてゆく在宅看護の意義と課題について実習の中から学んでいく。

到達目標

- 1.地域における在宅療養者と家族が理解できる。
- 2.在宅と施設看護の違いを述べるができる。
- 3.「生活の場」に沿った訪問看護計画が立案できる。
- 4.社会資源の種類や利用方法が説明することができる。

講義内容と講義計画

1.実習目標

- 1)在宅療養者と家族の多様な特性が理解できる。
- 2)在宅療養者と家族の望む生活を理解し、療養者と家族の生活心情や意思を尊重したかかわりができる。
- 3)生活の場であることを踏まえた在宅療養者の看護過程を展開することができる。
- 4)療養者とその家族の生活を支援するための社会資源制度とそれらに基づいた社会資源の活用方法を理解することができる。
- 5)在宅療養者と家族を支えている保健・医療・福祉サービス機関や他職種との連携について理解することができる。

2.実習概要

- 1)訪問看護ステーションおよび関連施設で2週間の実習をおこなう。
訪問看護ステーションでは療養者1名を受け持ち、実習中に1回、または2回以上訪問看護に同行し、看護過程を展開する。また、受け持ち以外の療養者にも同行訪問する。
- 2)学内カンファレンスを実習の2週目におこなう。カンファレンスでは、看護過程の展開について話し合い、在宅療養者の生活や理解を深める。また、訪問看護を提供している事業所の特徴や関係機関との連携、在宅における工夫、チーム医療の重要性について実習の成果を伝える場とする。

評価方法

実習記録 訪問看護計画 事前・事後レポート その他提出物
実習参加度、学習態度などによる総合評価

使用教材

実習要項実習記録授業で使用したテキストおよび資料、授業概要その他

授業外学習の内容

・色々なお宅への訪問となるが、学生らしい態度を忘れず、積極的に療養者や家族とのコミュニケーションを図ってほしい。
・在宅看護関係科目における復習を行い、特に医療依存度の高い療養者の看護について重点的に学習を深めて実習に取り組んでほしい。

備考

インフルエンザ接種時期、出席日数等について、実習要項を必ず理解しておくこと。

キーワード：「在宅看護」「実習」

公衆衛生看護学概論（看護専門科目群）

担当者

深澤英子、倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修2単位

講義目標

公衆衛生看護学の全体像を把握するため、公衆衛生看護の歴史から見る健康課題の変遷と、公衆衛生看護の役割及び活動の特徴を理解する。

到達目標

- 社会環境や生活状況から生じる健康課題をとらえることができる。
- 公衆衛生看護活動の場と活動の概要を理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 公衆衛生看護の特徴
- 第2回 公衆衛生看護のはじまり
- 第3回 日本の公衆衛生看護活動の歴史
- 第4回 社会環境の変化と健康課題
- 第5回 ヘルスプロモーション
- 第6回 日本における健康づくり運動「健康日本21」
- 第7回 第二次「健康日本21」と「健康格差」
- 第8回 公衆衛生看護活動の場と内容
- 第9回 保健行動と保健活動
- 第10回 公衆衛生看護活動で用いられる技術①（地区診断・計画策定）
- 第11回 公衆衛生看護活動で用いられる技術①（保健指導）
- 第12回 保健医療福祉システムと法体系
- 第13回 産業保健
- 第14回 学校保健(宮崎)
- 第15回 地域の健康づくりを推進するために

評価方法

学習態度により総合的に評価する。特に講義は対話形式やパワーポイントを利用した説形式が中心となる。レポート・筆記試験による評価80%、授業参加度20%とする。

使用教材

公衆衛生看護学.jp（インターメディカル）

授業外学習の内容

- ・テキストは講義前によく読み、予習をしておくこと

備考

- ・講義は対話形式で行う。積極的に発言すること。
- 教職必修科目

公衆衛生看護方法論（看護専門科目群）

担当者

倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修2単位

講義目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動全般と地域の看護職の役割について学ぶ。保健所における保健活動と市町村における保健活動の実際を学び、母子、成人、高齢者等のライフサイクル別、また、健康課題に応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における看護職である保健師活動の実際を学習する。

到達目標

- ① 地域における看護職としての保健師の機能と役割を理解する
- ② 保健所および市町村保健師の機能と役割を理解する
- ③ 保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等の保健師業務と役割を学ぶ
- ④ 公衆衛生看護活動のなかでの連携、チームケアにおける保健師の役割を学ぶ

講義内容と講義計画

- 第1回 保健師業務1(保健指導・家庭訪問)
- 第2回 保健師業務2(健康相談・健康教育・健康診査)
- 第3回 母子保健活動（日本の現状と課題）
- 第4回 母子保健活動と保健師の役割
- 第5回 成人保健活動（日本の現状と課題）
- 第6回 成人保健活動と保健師の役割
- 第7回 メタボリックシンドローム／特定健診・特定保健指導
- 第8回 高齢者保健活動（日本の現状と課題）
- 第9回 高齢者保健活動と保健師の役割
- 第10回 難病／障害者保健活動と保健師の役割
- 第11回 感染症保健活動と保健師の役割
- 第12回 災害保健活動・危機管理
- 第13回 歯科保健活動と保健師の役割
- 第14回 産業保健活動と保健師の役割
- 第15回 まとめ

評価方法

試験 70%、授業参加度・授業態度等 30%を総合して評価します。

使用教材

- ・公衆衛生看護学 荒賀直子/後閑容子編 インターメディカル 最新版 4,400円
- ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版 2,400円

授業外学習の内容

次回の授業範囲についてテキストに目を通しておくこと。
授業の復習をし、不明な点は授業時間外でも構わないので積極的に質問してください。

備考

質問はいつでも受け付けます。（メール可）※ただし、メールの場合は学科・氏名を必ず記載のこと。

地域ケアシステム実習（看護専門科目群）

担当者

倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期～3年後期 必修1単位

講義目標

地域社会で生活する在宅療養者と家族の個別的ニーズを包括的にとらえ、介護保険制度を中心とした地域ケアシステムを理解する。

到達目標

1. 地域における保健・医療・福祉の連携を理解できる。
2. ケアマネジャーを中心とした地域ケアシステムの概要を理解できる。
3. 介護保険における予防給付および介護給付サービス内容を理解し、各サービスの目的と役割について理解できる。
4. 地域の中で展開される居宅サービスおよび地域密着型サービス活動の実際を学ぶことができる。

講義内容と講義計画

1. 地域における保健・医療・福祉の連携を理解できる。
2. ケアマネジャーを中心とした地域ケアシステムの概要を理解できる。
3. 介護保険における予防給付および介護給付サービス内容を理解し、各サービスの目的と役割について理解できる。
4. 在宅療養者の多様な住環境や自立を支える生活支援の実際を学ぶことができる。

評価方法

実習状況（60%）、報告会参加度（20%）、記録物（20%）等による総合評価

使用教材

・実習には、介護保険の知識が必須です。テキストや資料を用い事前学習をしっかりと行って実習に臨むこと。

授業外学習の内容

・報告会では、実習概要だけでなく各サービスの内容、関係職種、役割以外に介護保険上の知識に関してもレポートすること。・在宅看護実習(訪問看護)と合わせ、地域療養者をサポートするシステムとして考えること。

備考

教職必修科目

健康教育論（看護専門科目群）

担当者

青柳千春・倉林しのぶ・野本悦子・下平きみ子・池田優子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 必修 1単位

講義目標

あらゆるライフステージの人々の健康の保持増進と疾病からの回復や QOL の向上を目指した健康教育の意義を理解し、個別的・集団的健康教育の方法と実際を学ぶ。

到達目標

1. 健康教育の目指すものと目的を理解する
2. 健康教育の対象と方法を理解する

講義内容と講義計画

- 第 1 回 新しい健康教育の目指すもの 地域における健康教育の実際
- 第 2 回 学校における健康教育(養護)
- 第 3 回 学校における健康教育の実際
- 第 4 回 病院における健康教育の実際
- 第 5 回 グループ課題「スマートライフ」をテーマに健康教育プログラムを作成
- 第 6 回 グループワーク、プログラムの作成
- 第 7 回 グループワークの発表
- 第 8 回 仲間教育の意義 ピアエデュケーションの実際

評価方法

授業への参加度を 30 点、テスト・レポートを 70 点とする

使用教材

別途提示

授業外学習の内容

授業ごとに感想と自己の課題を書いてもらうので、予習・復習をすること
「スマートライフ」について事前学習をしておくこと

備考

ケアネットワーク論（看護専門科目群）

担当者

棚橋さつき

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 選択1単位

講義目標

看護活動におけるネットワークの意義を理解し、地域の様々な健康課題に対する効果的援助を進めるために、関係者・施設間の連携とネットワーキングの実際と看護職の役割を学ぶ。

到達目標

施設から在宅への移行に伴う、職種間の連携について必要なサービスや地域資源を理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ケアネットワークとは
- 第2～3回 多職種の理解①②
- 第4回 地域における多職種の役割とは
- 第5回 在宅医療連携推進事業について
- 第6回 地域包括ケアシステムとは
- 第7回 地域における社会資源
- 第8回 ケアネットワークにおけるGW 今後のケアネットワークの展望

評価方法

授業への参加度を20%、レポート課題80%（内容に関しては授業の中で説明）

使用教材

そのつど、必要な資料を適宜準備。

授業外学習の内容

講義に関連する報道や新聞記事など実際の社会における「ケアネットワーク」や「地域連携」等の内容に関心を持つこと。

備考

施設だけでなく広く地域全体を考える講義になります。今まで学んだ知識を活かして講義に望んでください。

家族看護論（看護専門科目群）

担当者

新野由子・櫻井美和・田邊要補・大澤幸枝・新井明子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

家族をひとつのユニット、家族機能をひとつのシステムとして捉え、個人及びその家族が持っているセルフケア能力を高める援助の方法について学習する。また、家族のライフサイクルの段階に応じた発達課題、直面する危機や健康問題に対する支援のあり方を学ぶ。

到達目標

- ①現代社会における「家族」の多様性を理解できる。
- ②家族看護における看護職の役割が理解できる。
- ③家族アセスメントの方法と家族支援のあり方が理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 家族および家族看護の基本概念(家族とは・家族の機能と役割)
- 第2回 家族看護の実際① 家族の始まり（母性を考える）
- 第3回 家族看護の実際② 小児疾患患者の家族への支援
- 第4回 家族看護の実際③ 精神疾患患者の家族への支援
- 第5回 家族看護の実際④ 高齢者を介護する家族への支援
- 第6回 家族看護の実際⑤ 難病疾患患者を介護する家族への支援
- 第7回 家族看護の実際⑥ 在日外国人家族への支援
- 第8回 まとめ

評価方法

レポート 60%、授業参加度・態度 40% により総合的に評価します。

使用教材

テキストは使用しない。資料を配布するのでファイリングして毎回持参すること。

授業外学習の内容

・授業の復習をすること

備考

・不明な点は以下の参考文献を参照しつつ、積極的に質問してください。

【参考文献】

鈴木和子、渡辺裕子著：家族看護学—理論と実践 第4版、日本看護協会出版会、2012

看護研究概論（看護専門科目群）

担当者

縄秀志・武田貴美子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 必修 1単位

講義目標

看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う

到達目標

1. 看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義について理解できる。
2. 基本的な研究方法（実験・準実験研究、質問紙調査、事例研究、内容分析）について理解できる。
3. 文献検索の方法と文献のクリティーク方法が理解できる。基本的な統計処理方法について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 看護研究とは/看護学における研究の意義,研究デザイン
- 第2回 文献検索の方法
- 第3回 文献クリティーク/量的研究 ① 実験,準実験研究
- 第4回 量的研究 ② 質問紙調査
- 第5回 4年生の研究発表会
- 第6回 統計処理
- 第7回 統計処理
- 第8回 質的研究 ① 事例研究
- 第9回 質的研究 ② 質的記述的研究
- 第10回 質的研究 ③ 質的記述的研究
- 第11回 文献クリティーク、研究計画書の作成
- 第12回 演習:文献検索と文献レビューと計画書の作成
- 第13回 演習:文献検索と文献レビューと計画書の作成
- 第14回 演習:文献クリティークのレポート作成
- 第15回 演習:プレ研究計画表作成

評価方法

レポート課題 80%、授業参加度 20%

レポート：興味のある研究テーマに関する主要な文献を3つ以上クリティークし、1. 研究テーマを選択した理由（具体的な現象）、2. 文献クリティークから得られた知見、3. 2を踏まえて今後どのように研究テーマを絞り込み、研究に取り組むのかをまとめる。レポートA4用紙2枚以上（引用文献を明記すること）、文献クリティークの用紙を添付すること。

使用教材

これからの看護研究－基礎と応用－第2版、小笠原知枝・松木光子編集、ヌーヴェルヒロカワ 2008 3,800円

授業外学習の内容

文献検索ソフトを使用して文献検索を行い、研究計画書の作成の準備のために各自3件以上は文献を入手しクリティークする。また、4年生の研究ゼミナールの発表会に参加する。

備考

4年次で取り組む研究ゼミナールに向けての基礎的学習です。専門領域の実習を行ないながらの講義は大変だと思いますが、集中して取り組んでください。看護実践の質の向上や看護学の発展は、研究を通して行なわれま

す。皆さんが卒業後に看護専門職として働く中でも研究活動が求められます。4年次の研究ゼミナールを充実したものにするためにも研究の基礎知識を身につけてください。

キーワード:量的研究、質的研究、尺度、統計的検定方法

nawa@takasaki-u.ac.jp

看護管理学 I (看護専門科目群)

担当者

野本悦子・下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 必修 1単位

講義目標

今まで学んできた個別的ケアの延長ではなく、病院における看護活動はマネジメントなしでは成立しないことを理解し、「組織の中の看護」を学ぶ。

到達目標

1. 看護管理が、役職者だけでなく、すべての看護師の役割であることが理解できる。
2. 基礎教育で学んだ個別的ケアの力を、「組織の中の看護」の中で位置づけなおし、臨床の看護へ向けた準備ができる。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 看護管理とは何か
- 第 2 回 看護ケアのマネジメント
- 第 3 回 看護倫理に基づく「安心の看護の提供」
- 第 4 回 看護サービスのマネジメント①
- 第 5 回 看護サービスのマネジメント②
- 第 6 回 看護と経営 組織の中の個人
- 第 7 回 マネジメントに必要な知識と技術
- 第 8 回 看護を取り巻く諸制度 まとめ

評価方法

1. 参加度 30%
2. 課題レポート 70%で評価する。

使用教材

系統看護学講座別巻 8「看護管理」医学書院

授業外学習の内容

医療や看護の現場で問題となっていることについて新聞や雑誌からトピックスを取り上げ整理しておくこと。

備考

メールアドレス nomoto@takasaki-u.ac.jp

看護管理学Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

野本悦子・下平きみ子・池田優子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年後期 必修 1単位

講義目標

最終学年の最後として、看護の学びを統合し、臨床への移行がスムーズにできるよう、「看護マネジメント」の視点から学びを深める。

到達目標

1. 臨床への移行に向けて、臨床に適応できるための準備と心構えができる。
2. 看護マネジメントに必要な様々な理論とスキルを磨く

講義内容と講義計画

- 第1回 新人看護師を取り巻く現状と課題
- 第2回 看護ケアのマネジメントの促進
- 第3回 医療制度の変化と看護の質の向上
- 第4回 キャリア開発と専門職論・生涯学習論
- 第5回 看護管理の理論とスキル
- 第6回 モチベーションマネジメント・ストレスマネジメント
- 第7回 コーチングを活用した会話術・交渉術
- 第8回 まとめ

評価方法

1. 授業や演習への参加度を40%
2. 看護管理に関するレポートの評価を60%

使用教材

池田優子「育成・連携・交渉の上手な会話術」日総研出版 2011
医療制度の変化について雑誌や新聞情報などを使いその都度提示

授業外学習の内容

看護管理に必要なマネジメントスキルを復習し、演習に臨むこと

備考

メールアドレス nomoto@takasaki-u.ac.jp

看護倫理学Ⅱ（看護専門科目群）

担当者

野本悦子・下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 必修 1単位

講義目標

医療をめぐる環境は大きく変化し、医療の高度化や複雑化の中で、新たな倫理的課題が浮かび上がってきている。ここでは、今まで受けた講義や実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決へ向けた道筋を考える力を養う。

到達目標

1. 「看護における倫理とは何か」について理解する。
2. 臨地実習の中で直面した倫理的ジレンマと課題を明確化できる。
3. どのような態度と行動を取ってゆけばいいか、倫理的判断力と意思決定プロセスが歩める。

講義内容と講義計画

- 第1回 看護における倫理
- 第2回 看護の中における倫理的問題①
- 第3回 看護の中における倫理的問題②
- 第4回 学生が臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマ①
- 第5回 学生が臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマ②
- 第6回 学生が臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマ③
- 第7回 学生が臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマ④
- 第8回 まとめ

評価方法

毎回の感想レポート及び参加態度を40%。倫理的ジレンマとその解決に向けたレポートで60%として評価します。

使用教材

使用教材については講義前に提示します。事前課題は必ずしてきてください。

授業外学習の内容

看護の倫理的課題について文献や新聞記事の中から課題を整理しレポートする。自分自身の課題として、倫理的問題を考えてもらうため、今までの実習の中で抱えた倫理的ジレンマについて、整理しておくこと。整理した課題をもとにグループワークを行います。

備考

ヘルスカウンセリング（看護専門科目群）

担当者

池田優子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 必修 1単位

講義目標

患者とのコミュニケーションを通してその思いを聴ける技術を身につけることは看護するものにとって不可欠な要素である。本講義では看護に必要なカウンセリングマインドについて理解し、患者の理解と健康へ向けた専門的支援方法としてのヘルスカウンセリングを学ぶ。

到達目標

1. カウンセリングの「4つの基本的姿勢」が理解できる。
2. [傾聴]の大切さが理解でき、実施できる。
3. 自分のブロックに気づき、確認のための「共感的くり返し」が実施できる。
4. カウンセリングとガイダンス、指導の違いを理解し、使い分けが理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 ヘルスカウンセリングとは カウンセリングシートの実施
- 第2回 ヘルスカウンセリングの4つの基本姿勢と「自己理解のためのチェックリスト」
- 第3回 「確認」と「共感」の理解「印象に残ったこと」のモデリング学習
- 第4回 モデリング学習の振り返り カウンセリングの実施 VTR 聴取
- 第5回 カウンセリングの手順のモデリング共感と同感の違い
- 第6回 健康カウンセリング面接法の理解 VTR 聴取
- 第7回 2人1組でカウンセリングを実施 プロセスシートに記入
- 第8回 まとめ

評価方法

1. 演習ごとの感想レポートと授業への参加度で30%。
2. ヘルスカウンセリングの実施と分析、考察のテスト・レポート70%で評価します。

使用教材

その都度資料を配布

授業外学習の内容

カウンセリングの4つの姿勢やスキルの演習を毎回行います。学ぶスキルが異なるので、実施した内容について課題を整理して、復習し、次の授業に臨むこと。3回目のモデリングを観察し、課題についてレポートする。

備考

医療コミュニケーション論（看護専門科目群）

担当者

池田優子・野本悦子・下平きみ子

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 必修 1単位

講義目標

医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、医療場面におけるコミュニケーションの特徴の理解と、状況に応じたコミュニケーション技術を学ぶ

到達目標

1. 医療におけるコミュニケーションの特徴が理解できる
2. コミュニケーションプロセスにおける阻害要因について述べられる
3. 効果的なコミュニケーションの方法を知り、実施する
4. 患者の状態に応じたコミュニケーションのあり方について考えられる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 医療におけるコミュニケーションとは
- 第 2 回 医療者が陥りやすいコミュニケーションの落とし穴
- 第 3 回 患者が医療者に求めるものの理解「当事者の声を聴く」
- 第 4 回 患者のニーズをつかむためのコミュニケーション
- 第 5 回 基本的なコミュニケーションスキル 1
- 第 6 回 基本的なコミュニケーションスキル 2
- 第 7 回 基本的なコミュニケーションスキル 3
- 第 8 回 ターミナルケア場面におけるコミュニケーション
- 第 9 回 高齢者とのコミュニケーション
- 第 10 回 高齢者施設でのコミュニケーション体験 I
- 第 11 回 高齢者施設でのコミュニケーション体験 II
- 第 12 回 コミュニケーション体験での課題と解決策
- 第 13 回 学生実習場面におけるコミュニケーション
- 第 14 回 事例を基にしたコミュニケーション演習
- 第 15 回 会話のプロセスレコードの振り返りとまとめ

評価方法

評価方法：高齢者とのコミュニケーション体験の感想とプロセスレコードの提出で 40 点
コミュニケーション演習を実施後のプロセスレコードと考察レポートで 60 点

使用教材

篠崎恵美子・藤井哲也「看護コミュニケーションー基礎から学ぶスキルとトレーニング」
医学書院

授業外学習の内容

医療施設における高齢者とのコミュニケーション体験を実施するので、事前に予習・復習しておくこと
最終講義日に事例を基にしたコミュニケーション演習を取り入れるので、課題について事前練習しておくこと

備考

専門看護活動論Ⅰ（クリティカルケア）（看護専門科目群）

担当者

石田順子、砂賀道子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 選択1単位

講義目標

生命の危機状態にある対象の特徴を学び、救急医療と救急看護における看護師の活動を通して専門的な看護の役割と機能を学ぶ。さらに、クリティカルにおける倫理的課題に対して知見を深める。

到達目標

1. クリティカルケアの概念および対象とその家族の特徴について説明できる。
2. クリティカルにおける看護の専門性について理解できる。
3. クリティカルにおける倫理的課題について考え、説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 クリティカルケアとは:クリティカルケアの概念と特徴 クリティカルにおける専門性
- 第2回 集中ケア認定看護師の役割:実際の活動について
- 第3回 救急看護認定看護師の役割:実際の活動について
- 第4回 倫理的課題を考える ①心肺停止患者の看護
- 第5回 倫理的課題を考える ②熱傷患者の看護
- 第6回 グループワークと発表:クリティカルにおける倫理的課題について
- 第7回 グループワークと発表:クリティカルにおける倫理的課題について
- 第8回 まとめ

評価方法

レポート、グループワークへの参加度による総合評価

使用教材

1. 道又元裕他：系統看護学講座別巻クリティカルケア看護学. 医学書院
2. 佐藤まゆみ, 林直子編集：成人看護学急性期看護Ⅱ救急看護学. 南江堂

授業外学習の内容

成人看護学方法論Ⅰ、および成人看護学概論におけるこの講義に関係するところを復習して授業に臨むこと。指定の教科書を授業の予定に沿って読んでおくこと。

備考

講義中に聞いたことのない専門用語が出てくることもあるので、そのままにせず質問すること。
メールアドレス：石田：jishida@takasaki-u.ac.jp、砂賀：sunaga@takasaki-u.ac.jp

専門看護活動論Ⅱ（ターミナルケア）（看護専門科目群）

担当者

吉田久美子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 選択1単位

講義目標

人生の終末期にある患者の全人的苦痛について理解し、患者及び家族の QOL の向上のための看護のあり方について緩和ケアを基盤に学習する。

到達目標

講義内容と講義計画

- 第1回 1.緩和ケアの概念、歴史、動向
第2回 2.全人的苦痛に対する援助 1)終末期にあるがん患者の身体的苦痛とその援助 [1]
第3回 2..全人的苦痛に対する援助 1)終末期にあるがん患者の身体的苦痛とその援助 [2]
第4回 2)終末期にある患者の心理的苦痛と援助
第5回 3)終末期にある患者の社会的苦痛と援助
4)終末期にある患者のスピリチュアルペインと援助
第6回 4.終末期にある患者の家族への援助
第7回 5.緩和ケアにおけるチーム医療の重要性と患者の役割
第8回 まとめ 第1～6回の学習内容の要点を体系的に整理し、ターミナルケアについて考察を深める。

評価方法

レポート70%、授業参加度30%

使用教材

- 【テキスト】購入の必要はない。
【使用教材】各回の授業で資料などを配布する。

授業外学習の内容

授業で紹介する参考文献を読み、各自で学習内容の理解に努めること。

備考

【担当教員のメールアドレス】yoshikumi@takasaki-u.ac.jp

専門看護活動論Ⅲ（災害看護）（看護専門科目群）

担当者

未定

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 選択1単位

講義目標

災害という非日常的な事態において人的・物資的資源がない状況で、命の危険にさらされた被災者を救助し「避けられた死」を防ぐべく災害時の特殊な場面に対応するための、初動体制のあり方と看護の技術を習得する。

到達目標

- 1.災害時の初動体制の原則を知る。
- 2.災害に特有な外傷の処置方法を習得する。
- 3.災害時、傷病者に優先順位をつける意味を理解し実践できる。
- 4.資材に限られた状況での傷病者の搬送、応急処置のための技術を習得する。

講義内容と講義計画

- 第1回 骨折の固定法
- 第2回 骨折の固定法（演習）
- 第3回 トリアージ
- 第4回 トリアージ（演習）
- 第5回 搬送法（講義と演習）
- 第6回 基本的応急処置（演習）初動体制における処置（確認とAED,CRP、安楽体位）
- 第7回 特殊応急処置（演習）患者メイクと処置：ガラス・棒・やけど
- 第8回 事例演習

評価方法

レポート課題 50%、参加度 50%

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

演習参加時は、事前の講義の内容をよく復習して臨んでください。最終回では本科目で習得した知識と技術を駆使して演習を行いますので、自己練習に励んでください。

備考

運動しやすい服装で参加してください。

国際看護学（看護専門科目群）

担当者

望月 経子 李 孟蓉

開講学科と時期・単位

看護学科 1年前期 必修 1単位

講義目標

世界における様々な格差の実態を知って、看護者として世界平和・全人類の繁栄と福祉を願いつつ国際協力の必要性和意義を理解し、看護活動の場を地球的視野で認識する。看護における国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。

到達目標

1. 看護による国際協力の意義、活動の場所と対象を理解する。
2. 世界の健康問題とそれらに対する戦略、および課題を理解する。
3. 国際協力における看護の方法論について理解する。
4. 異文化看護の理論を理解する。
5. 国際看護活動に影響を与える因子を理解する。
6. 日本国内における国際看護を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 国際看護の概念
- 第2回 世界の健康問題
- 第3回 健康格差に対する世界の取り組み
- 第4回 異文化理解と異文化看護論
- 第5回 世界における国際看護支援の実際（1）政府開発援助の活動
- 第6回 世界における国際看護支援の実際（2）NGOの活動
- 第7回 在留外国人への看護と健康支援
- 第8回 まとめ

評価方法

筆記試験 70%、レポート課題 20%、授業参加度 10%

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業の後にミニレポートを課します。前回の授業を踏まえて記述してもらいますので、復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

災害看護学（看護専門科目群）

担当者

未定

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期 必修 1単位

講義目標

災害の概念について多角的に学び、被災者の特性や生活上の困難さ、健康への影響を理解する。そのうえで災害時の看護師の役割を理解し、災害の時期・場所・対象特性を考慮した適切な看護を提供するために必要な知識と技術を習得する。また、公助・共助・自助の意味を理解し、自らの防災力を高める。

到達目標

- 1.災害の概念を理解し、災害が健康に及ぼす影響を理解する。
- 2.災害看護の概念を理解する。
- 3.災害各期に応じた看護の特徴を理解する。
- 4.災害時要援護者の特性とその看護を理解する。
- 5.災害時に必要な応急処置法を習得する。
- 6.災害時の精神的ケアの方法を習得する。
- 7.災害時の公助を理解するとともに自助能力を高める。

講義内容と講義計画

- 第 1 回 災害および災害看護の概念（CSCATTT 含む）
- 第 2 回 災害時の疾病構造
- 第 3 回 災害サイクルに応じた看護：急性期
- 第 4 回 災害サイクルに応じた看護：急性期に必要な看護技術（包帯法）
- 第 5 回 災害サイクルに応じた看護：急性期に必要な看護技術（三角布法）
- 第 6 回 災害サイクルに応じた看護：中長期
- 第 7 回 災害サイクルに応じた看護：静穏期
- 第 8 回 災害と感染コントロール
- 第 9 回 被災者の生活と災害時要援護者
- 第 10 回 災害時要援護者への看護①母性・小児・障がい者
- 第 11 回 災害時要援護者への看護②高齢者・慢性疾患患者・外国人
- 第 12 回 災害とストレス
- 第 13 回 災害と精神保健
- 第 14 回 災害と法制度
- 第 15 回 看護と防災

評価方法

筆記試験(70%)、レポート(20%)、授業参加度（10%）

使用教材

配布する資料

授業外学習の内容

授業の後にミニレポートを課します。前回の授業を踏まえて記述してもらいますので、復習して考えをまとめておいてください。

備考

授業の中でグループディスカッションと発表を設けます。積極的な参加を期待しています。

看護学特論（看護専門科目群）

担当者

大石時子

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 選択1単位

講義目標

母性看護学・母子保健に関するトピックス的な事柄についての論文と一緒に読み、討議する等、ゼミナール方式で学び、看護者としての役割や課題を探求する。

到達目標

1. 母子保健や母性看護の文献を読むことができる
2. 文献検索、収集、クリティークができる
3. 自分の思いや考えを言語化できる
4. 今後の課題と看護者としての役割や課題が説明できる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文を読む
- 第3回 論文を読む
- 第4回 女性・妊産婦ケアステーションの見学
- 第5回 論文を読む
- 第6回 論文の読み合わせ、討議
- 第7回 論文の読み合わせ、討議
- 第8回 まとめ

評価方法

授業や討議への参加度 50%、レポート 50%

使用教材

論文はこちらで用意します

授業外学習の内容

領域によるため、詳細は後日発表する。

備考

オフィスアワー hopefull@hotmail.co.jp

チーム医療アプローチ演習（看護専門科目群）

担当者

棚橋さつき

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 必修1単位、理学療法学科 4年前期 選択1単位

講義目標

チーム医療が必要な事例を用いて、他学科の学生から構成される混成グループでのディスカッションを通して、福祉・医療系の専門職の各専門職の役割・活動および患者・家族に必要な福祉・医療活動について検討する。さらに、チーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性およびチーム医療における専門職の連携を促進するための課題についてディスカッションやグループ発表を通して考察する。

到達目標

1. 事例における福祉・医療系の専門職の各専門職の役割・活動が理解できる。
2. 事例における患者・家族に必要な福祉・医療活動が理解できる。
3. 事例におけるチーム医療を促進するための福祉・医療系専門職の協働の必要性が理解できる。
4. チーム医療における専門職の連携を促進するための課題を考察できる。

講義内容と講義計画

第1回 オリエンテーション 事例患者・家族の全体像の把握しグループで討議①

第2回 グループで討議②

第3～4回 専門職毎のアセスメント内容をグループ内で発表し、患者・家族に必要な福祉・医療活動について全体発表を行う。

第5～6回 チームにおける専門職毎の役割と活動についてグループワーク討議。

第7回 各専門職の役割と活動、チーム医療を推進するための他職種連携についてグループ発表をする。

第8回 チーム医療における専門職連携を促進するための課題・まとめ

評価方法

グループワークの参加態度・積極性（20%）

グループ発表の内容（30%）

レポート（1200字程度） 50%

使用教材

配布資料

授業外学習の内容

- ・3年次までの講義・演習・実習を通して学んだ知識を統合して、他学科の専門職を目指す学生との交流を深めながら行う学習内容ですので、事前に他職種等について学習すること。
- ・グループディスカッション方法について学習しておくこと。

備考

・大学において他職種と意見交換をできる貴重な時間ですので、専門職の理解を深めてください。

キーワード 専門職 チーム医療 多職種連携

統合実習（看護専門科目群）

担当者

看護学科教員

開講学科と時期・単位

看護学科 4年後期 必修2単位

講義目標

基礎看護学実習、各専門領域看護学実習（成人、老年、小児、母性、精神、在宅、地域）を踏まえて、既習の知識と技術を統合し、看護実践能力の向上を目指すための実習と位置づける。

到達目標

在宅療養の必要な患者の入院中から退院および外来通院までの継続看護の実際を学び、在宅移行期にある患者および家族の看護ニーズを理解し、在宅移行期における看護に必要な知識と技術を習得する。また、在宅移行期にある患者および家族をサポートするチーム医療の実際を学び、チーム医療における専門職としての看護活動および役割について考察する。

講義内容と講義計画

実習施設は、実習オリエンテーション時に提示する。

評価方法

実習中の看護活動、記録物、まとめのレポートなどから評価表をもとに実習目標の達成度から評価する。評価方法の基準は、実習オリエンテーション時に提示する。

使用教材

実習要項（後日提示する）

授業外学習の内容

実習施設によって異なるので実習オリエンテーション時に提示する。

備考

研究ゼミナール（看護専門科目群）

担当者

看護学科教員

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期～4年後期 必修 4単位

講義目標

自らの関心に基づき、主体的にテーマを選び、文献検討を踏まえて、研究目的を明確にする。目的に沿った研究手法を用いてデータ収集、分析を行い、結果を考察し、論文を作成する。その一連の過程を通して、研究的な思考（批判的思考・論理的思考）や態度を養う。

到達目標

文献検討を踏まえて研究目的を明確化できる
目的にあった研究方法を決定できる
データ収集、データ分析ができる
結果を多角的に検討し、考察できる
研究論文を作成できる

講義内容と講義計画

個人またはグループで関心を持つテーマに関連深い教員の指導の下に研究を行なう。
指導教員毎に、ゼミナール形式で指導を受ける。
研究成果は報告書(論文)としてまとめ、発表する。

評価方法

研究への取り組み姿勢・態度、テーマの明確化、文献検討、研究計画、論文作成などを考慮し、各指導教員が総合的に評価する。

使用教材

看護研究概論の授業資料
小笠原知枝編集；これからの看護研究，第2版，ヌーヴェルヒロカワ 3,800円

授業外学習の内容

看護研究概論の内容を十分理解しておくこと。
図書館等を利用し、研究テーマについて自己学習を行うこと。
今までの学習の中から自分の関心のあるテーマについて、研究を通して探求すること。

備考

指導教員と相談しながら十分な文献検討を元に研究計画書を作成し、適宜、計画書発表会を行なう。期日までに論文を提出し、論文発表会を行なう。

キーワード：卒業研究、専門性

保健統計学（保健師課程科目）

担当者

宮崎有紀子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 保健師必修 1単位

講義目標

わが国の主な衛生関係統計資料の概要、および地域で用いられる主要な健康指標について学び、地域の健康水準の把握方法を習得する。また、統計処理の基礎を理解し、方法を習得する。

到達目標

1. 地域診断に必要な統計資料の意義について理解できる。
2. 地域の健康水準を表す指標について理解できる。
3. 指標の標準化について理解でき、計算できる。
4. データの整理、図表化ができる。
5. 図表化したデータを基に考察できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 人口のとらえかた
- 第2回 健康と疾病のとらえかた
- 第3回 指標の標準化
- 第4回 生命表
- 第5回 人口の将来予測
- 第6回 統計処理演習①
- 第7回 統計処理演習②
- 第8回 まとめ

評価方法

授業参加度 20%、試験 80%

使用教材

国民衛生の動向（厚生統計協会）

授業外学習の内容

公衆衛生学、疫学等と関係する部分が多い。他の関連科目で学習したことも含めて授業内容の復習をする。

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。

なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。

yukiko@takasaki-u.ac.jp

公衆衛生看護活動論 I (保健師課程科目)

担当者

倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 保健師必修2単位

講義目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。母子、成人、高齢者等のライフサイクルに応じた個人と家族への支援、また集団を対象とした支援等、地域における保健師活動の実際を学習する。

到達目標

- ①保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等における保健師業務と役割を学ぶ
- ②ライフサイクルにおける保健施策と保健師の役割を学ぶ
- ③演習を通して基本的な保健指導技術を学ぶ

講義内容と講義計画

- 第1回 母子保健活動1 母子保健施策・母子保健計画
- 第2回 母子保健活動2 各種健康診査、予防接種
- 第3回 成人保健活動1 成人保健施策・成人保健活動
- 第4回 成人保健活動2 生活習慣病と保健指導
- 第5回 成人保健活動3 メンタルヘルス
- 第6回 高齢者保健活動1 保健福祉制度・介護保険
- 第7回 高齢者保健活動2 要支援・要介護高齢者と介護者への援助
- 第8回 演習オリエンテーション(課題の提示と準備)
- 第9回 演習準備(グループワーク、資料作成)
- 第10回 演習準備(グループワーク、資料作成)
- 第11回 演習(問診)
- 第12回 演習(問診)
- 第13回 演習(保健指導)
- 第14回 演習(保健指導)
- 第15回 まとめ

評価方法

試験 60%、演習 20%、授業参加度 10%、授業態度等 10%を総合して評価します。

使用教材

公衆衛生看護学 (インターメディカル)・国民衛生の動向

授業外学習の内容

保健師として必要な知識、技術について予習、復習をし、しっかりと準備をした上で演習に臨むこと。

備考

・授業の復習をし、不明な点は授業時間外でも構わないので積極的に質問してください。・公衆衛生看護実習を実施するにあたり、本授業での演習体験は重要です。

公衆衛生看護活動論Ⅱ（保健師課程科目）

担当者

倉林しのぶ・赤堀八重子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 保健師必修2単位

講義目標

地域住民の健康生活を支援する公衆衛生看護活動の考え方と展開方法・技術を学ぶ。地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応した地域保健活動の計画立案方法を理解する。

到達目標

- ① 地区把握の方法が理解できる
- ② 地区診断の方法が理解できる
- ③ 保健事業計画立案の方法が理解できる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 地区診断とは
- 第3回 既存資料からの情報収集①
- 第4回 既存資料からの情報収集②
- 第5回 地区視診①
- 第6回 地区視診②
- 第7回 地区視診③
- 第8回 情報の整理
- 第9回 情報の分析、健康課題抽出①
- 第10回 情報の分析、健康課題抽出②
- 第11回 地域保健活動計画立案①
- 第12回 地域保健活動計画立案②
- 第13回 地域保健活動計画立案③
- 第14回 発表、情報の共有
- 第15回 まとめ

評価方法

試験 60%、演習 20%、授業参加度 10%、授業態度等 10%を総合して評価します。

使用教材

公衆衛生看護学（インターメディカル）・国民衛生の動向

授業外学習の内容

- 保健師として必要な知識、技術についてしっかりと準備をした上で演習に臨むこと。
- ・授業の復習をし、不明な点は授業時間外でも構わないので積極的に質問してください。
 - ・公衆衛生看護実習を実施するにあたり、本授業での演習体験は重要です。

備考

母子保健論（保健師課程科目）

担当者

倉林しのぶ・赤堀八重子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 保健師必修 1単位

講義目標

地域における主な母子保健施策、および母子保健活動の実際について学び、母子の健康生活を支援するために必要な知識・技術を習得する。

到達目標

1. 母子保健の現状と課題、主な母子保健施策について理解することができる。
2. 乳幼児の発育・発達の評価ができる。
3. 育児に関する課題や悩みについて理解し、課題の解決に向けて支援することができる。
4. 虐待の予防と対応、および連携する組織について理解することができる。
5. 母子保健事業に関わる連携職種や住民組織について理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 母子保健の概要
- 第2回 健康診査と発育・発達評価
- 第3回 栄養指導
- 第4回 育児相談
- 第5回 家庭訪問計画
- 第6回 家庭訪問(演習)
- 第7回 ハイリスク事例の検討
- 第8回 まとめ

評価方法

授業参加度 60%、レポート 40%

使用教材

公衆衛生看護学.jp

授業外学習の内容

主に乳幼児と育児期の母親への支援について学習します。保健師は地域で家庭訪問、育児相談、健康診査、予防接種等、母子に関わる機会が多いため、母性看護学・小児看護学で学んだ知識を基に、さらに理解を深めてください。

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。
なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。
yukiko@takasaki-u.ac.jp

産業保健論（保健師課程科目）

担当者

帆苺なおみ

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 保健師必修1単位

講義目標

産業保健の目的を自主的に達成するために、産業看護職が事業者、労働者の双方に対して行う健康支援について実際の活動事例を通して学ぶ。また、わが国の労働衛生対策を知り、医療や福祉などの現場で働く労働者の健康管理支援について、その課題と対策について学習する。

到達目標

企業における産業看護職の役割を理解し、活動の実際を知ることができる

講義内容と講義計画

- 第1回 産業看護の理念と背景
- 第2回 わが国における産業保健・看護活動の実態
- 第3回 産業保健活動の基本と産業看護活動
- 第4回 主な産業保健の実際
- 第5回 労働衛生にかかわる法令・政策
- 第6回 産業看護の課題
- 第7回 医療・福祉現場など、働く人の健康課題と対策
- 第8回 まとめ

評価方法

試験（レポート）70%、授業参加度・授業態度等30%を総合して評価します。

使用教材

河野啓子：「産業保健・産業看護論」日本看護協会出版会

授業外学習の内容

授業の復習をし、不明な点は授業時間外でも構わないので積極的に質問してください。

備考

学校保健論（保健師課程科目）

担当者

中下富子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年後期 保健師必修1単位

講義目標

学校保健制度と活動の概要について学ぶ。
児童生徒の現代的健康課題に対する学校における対応策を学ぶ。
学校保健活動の中核的な養護教諭の役割について学ぶ。

到達目標

1. 学校保健関係法令、学校保健の構造領域とその活動内容について説明することができる。
2. 養護教諭の職務内容について説明することができる。
3. 児童生徒の具体的な健康課題及びその対応策について説明することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 学校保健の制度(教育関係法令、学校保健の領域)、児童生徒の現代的健康課題
- 第2回 養護教諭制度の変遷、保健室経営と保健室経営計画
- 第3回 学校保健組織活動(学校保健組織、学校保健計画)、学校における保健教育
- 第4回 学校における保健管理 (1)学校環境衛生活動
- 第5回 学校における保健管理 (2)健康診断、疾病予防
- 第6回 学校における保健管理 (3)健康観察、救急処置
- 第7回 学校における保健管理 (4)健康相談
- 第8回 定期試験

評価方法

レポート30%、期末試験70%にて評価する。

使用教材

南山堂 改訂8版 学校保健マニュアル 編集 衛藤隆、岡田加奈子 4,300円 2013年3月

授業外学習の内容

指定した教科書のページを事前に学習しておく。

備考

埼玉大学教育学部 中下富子 tonakasi@mail.saitama-u.ac.jp

健康危機管理論（保健師課程科目）

担当者

倉林しのぶ・赤羽潤子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 保健師必修1単位

講義目標

自然災害、大規模な事故、感染症等、個人が日常的に遭遇する病気や事故とは規模・性質の異なる健康の安全を脅かす状況に対する公衆衛生上の体制、対応と、保健師がかかわる健康危機管理事例について学習する。

到達目標

- 1.健康危機管理システムと保健所、市町村等の役割について理解できる。
- 2.平常時、災害発生時、災害復旧・復興対策期等、各期に応じて必要な保健師の活動が理解できる。
- 3.地域住民への啓発と相互支援力について理解することができる。
- 4.健康危機管理に必要な保健師の管理能力について理解することができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 健康危機管理システムと対策
- 第2回 災害と保健活動①
- 第3回 災害と保健活動②
- 第4回 災害と保健活動③
- 第5回 演習（自然災害時の対策と対応①）
- 第6回 演習（自然災害時の対策と対応②）
- 第7回 演習（自然災害時の対策と対応③）
- 第8回 まとめ

評価方法

授業参加度 60%、レポート 40%

使用教材

公衆衛生看護学.jp（インターメディカル）

授業外学習の内容

健康危機発生時の体制及び組織における保健師の管理能力について学習します。また、自然災害が起きたことを想定した机上での演習を行います。

保健師は地域で住民を対象とした災害保健活動に関わることも多いため、地域看護・地域看護管理で学んだ知識を基に、さらに理解を深めてください。

備考

公衆衛生看護組織論（保健師課程科目）

担当者

深澤英子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年後期 保健師必修 1単位

講義目標

地方自治体における保健計画策定・施策化・予算の仕組みについて学ぶ。また、関係機関、地区組織との連携及び地域ケアシステムの構築について学ぶ。

到達目標

- ・地方自治体における計画策定・施策化・予算のしくみについて理解できる。
- ・保健活動に関係する組織や関係者間の連携について理解できる。
- ・他区組織やグループ活動支援における保健師の役割について理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 保健医療福祉システムと法体系
- 第2回 健康課題と健康づくり施策
- 第3回 地域特性の把握
- 第4回 地方自治体における計画策定
- 第5回 事業計画と予算の仕組み
- 第6回 住民参加と地区組織活動
- 第7回 地域におけるグループ支援と組織化
- 第8回 地域ケアシステムと保健師の役割

評価方法

学習態度により総合的に評価する。レポート・筆記試験による評価 70%、授業参加度 30%とする。

使用教材

公衆衛生看護学.jp（インターメディカル）・国民衛生の動向・過疎山村地域で暮らす独居高齢者

授業外学習の内容

- ・参考書、テキストは講義前によく読み、予習をしておくこと

備考

公衆衛生看護学実習 I (保健師課程科目)

担当者

倉林しのぶ

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 保健師必修 2 単位

講義目標

地域および地域に暮らす人々の特徴とニーズを理解した上で、地域住民を対象とした「健康教育」を実施する。対象地域に即したテーマの選定、企画、運営、評価、また、地域住民との関わりを通して、公衆衛生看護活動の具体的な理解を深める。

到達目標

1. 保健指導技術のひとつである「健康教育」の目的と役割を理解できる。
2. 地域の健康課題を明確にし、優先順位と目標を設定した上で計画を立案し実施できる。
3. 健康教育実施後に、そのプロセス評価ができる。

講義内容と講義計画

1. 既存のデータや地域踏査を通して、対象とする地域の特徴を理解できる。
 2. 地域で活動する民生委員やボランティアとの関わりの中かで、地域の特徴や住民のニーズを理解できる。
 3. 対象に合ったテーマを選定し、健康教育の企画立案ができる。
 4. 対象の特徴や条件を考慮した、健康教育の運営ができる。
 5. 対象に合わせた媒体を使用し、効果的な教育が実施できる。
 6. 実施した健康教育を評価した上で、地域にフィードバックすることができる。
- *健康教育実践は、地域公民館で行う予定です。

評価方法

グループワーク参加度・貢献度 (40%)、実習状況 (40%)、記録物 (20%) 等による総合評価

使用教材

公衆衛生看護学実習要項

授業外学習の内容

・グループワークには積極的に参加し、情報の共有化を図った上で企画に結び付けていくこと。・運営当日は、住民やボランティアの方々と積極的にコミュニケーションをとりながら進めること。

備考

・健康教育実践は 1 日ですが、データ収集・地区踏査や地域民生委員さんとの連絡調整、また、事前準備、リハーサルなどすべてを含めて実習であることを心がけて下さい。

質問はいつでも受け付けます。(メール可) ※ただし、メールの場合は学科・氏名を必ず記載のこと。

E-mail: kura@takasaki-u.ac.jp

公衆衛生看護学実習Ⅱ（保健師課程科目）

担当者

倉林しのぶ・赤堀八重子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 保健師必修3単位

講義目標

地域社会で生活する住民や家族の保健ニーズと地域の健康課題を包括的にとらえ、課題を解決するための公衆衛生看護活動の基本的実践方法を習得する。

到達目標

1. 地域における公衆衛生活動の実際が理解できる。
2. 住民が生活している地域全体の特徴と健康課題が理解できる。
3. 公衆衛生活動を展開している保健所、市町村の役割と機能が理解できる。
4. 個人や家族・集団・地域という単位での身体的・精神的・社会的特性を理解し、あらゆる健康レベルにある対象に応じた援助が実践できる。
5. 住民に対する看護活動（家庭訪問・健康診査・健康相談・健康教育等）を体験し、各種保健事業の展開を理解することができる。
6. 地域における保健・医療・福祉の連携のあり方を学び、地域ケアシステムにおける保健師の役割を理解できる。

講義内容と講義計画

群馬県内の保健所および市町村において、3週間の実習を行う。保健所では主に広域的・専門的な公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。市町村では地域の特性と地域に暮らす人々の健康課題を把握し、市町村で展開される公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。保健所・市町村それぞれの公的機関としての機能・役割および保健師の機能・役割を理解し、公衆衛生看護活動について総合的に学ぶ。

評価方法

実習参加度 30%、実習状況 30%、記録物 40%

使用教材

公衆衛生看護学実習要項、保健福祉事務所事業概要、公衆衛生看護学.jp（インターメディカル）、その他これまでに使用してきた関連資料

授業外学習の内容

- ・事前学習は重要です。しっかり取り組んでください。
- ・自主性が期待されます。自分なりの目標を持ち、実習に臨んでください。・わからないことをそのままにせず、積極的に調べたり、質問するなどして解決してください。

備考

質問などで研究室に来る際は、事前に下記メールアドレスからアポイントを取ってください。

なお、メールには学科・学年・学籍番号・氏名を必ず記載すること。

kura@takasaki-u.ac.jp

学校保健（教職に関する科目）

担当者

青柳千春

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 養護教諭必修 2単位

講義目標

学校保健に関する基礎的知識を修得するとともに、学校において健康教育を進めていくために必要な実践力の基礎を身に付ける。

到達目標

1. 学校教育の目標、学校保健の目標を述べることができる。
2. 学校が抱える課題を説明することができる。
3. 保健教育の内容と機会、教職員の役割を理解できる。
4. 保健管理の内容と教職員の役割を理解できる。
5. 組織活動の内容と、連携について理解できる。
6. 関連法規を理解できる。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と内容(健康の定義、ヘルスプロモーション、他)
- 第2回 児童生徒の心身の発達と健康 (1. 形態の発育、身体各部の発育発達)
- 第3回 児童生徒の心身の発達と健康 (2. 機能面の発達、児童生徒の健康課題)
- 第4回 健康診断
- 第5回 健康観察・保健指導
- 第6回 疾病管理
- 第7回 感染症対策
- 第8回 救急処置 (1. 学校における救急処置の意義・目的・体制、救急処置の実際 (内科))
- 第9回 救急処置 (2. 救急処置の実際 (外科))
- 第10回 学校安全
- 第11回 健康教育 (1. 学校における健康教育)
- 第12回 健康教育 (2. 保健指導の授業構想)
- 第13回 精神保健
- 第14回 学校環境衛生
- 第15回 学校保健計画、学校保健組織活動、まとめ

評価方法

筆記試験の成績 60%、レポート課題・小テスト・授業参加度 (40%)

使用教材

筆記試験の成績 60%、レポート課題・小テスト・授業参加度 (40%)

授業外学習の内容

配布されたワークシートを活用し、次回の授業内容を予習しておくこと。

- 1.学級活動（保健指導）学習指導案の作成。

備考

養護概説（教職に関する科目）

担当者

青柳千春

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 養護教諭必修 2単位

講義目標

学校保健を推進する中核的役割を持つ養護教諭の職務と機能、役割を理解し、児童生徒の健康問題の解決方法と技術について、専門的・実践的に学習する。

到達目標

1. 「養護」の本質や概念、職務内容について、説明することができる。
2. 保健室経営の計画を立てることができる。
3. 保健学習の指導案を書いて実践的な指導ができる。

講義内容と講義計画

- 第1回 教育関係法令と教育行政
- 第2回 学校教育と学校保健
- 第3回 養護教諭の職務
- 第4回 学校における救急処置
- 第5回 健康診断
- 第6回 健康観察と疾病管理
- 第7回 精神保健・健康相談と養護教諭の役割
- 第8回 学校環境衛生
- 第9回 保健室経営
- 第10回 組織活動 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割と職務内容
- 第11回 児童生徒の発育発達と健康課題
- 第12回 保健教育（効果的な教材の活動）
- 第13回 保健教育（保健学習及び保健指導）
- 第14回 保健教育（授業構想と指導案作成）
- 第15回 現代的健康課題の解決思案（模擬授業の提案と検討）、まとめ

評価方法

筆記試験の成績 60%、レポート課題・小テスト・授業参加度（40%）

使用教材

「新養護概説<第8版>」 采女智津江 編集 少年写真新聞社 2,400円＋税
「教員採用試験養護教諭」 東京アカデミー編 七賢出版

授業外学習の内容

配布されたワークシートを活用し、次回の授業内容を予習しておくこと。

1. 保健学習指導案の作成
2. 保健だよりの作成

備考

積極的な姿勢を期待しています

健康相談 I (教職に関する科目)

担当者

水出房子

開講学科と時期・単位

看護学科 3年後期 養護教諭必修 1単位

講義目標

健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進めるうえで必要な実践力を身に付ける

到達目標

1. 養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる
2. ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識・スキルを健康相談に生かすことができる
3. 関係者と連携した支援の在り方を考えられる

講義内容と講義計画

- 第 1 回 オリエンテーション、養護教諭と 健康相談
- 第 2 回 養護教諭の特性と保健室の機能を活かす
- 第 3 回 子どもの支援体制と学校内・外の連携
- 第 4 回 健康相談に活用できる理論
- 第 5 回 児童生徒理解、保健室来室場面での健康相談
- 第 6 回 健康相談の記録
- 第 7 回 危機管理と養護教諭
- 第 8 回 いじめ理解と支援・対応

評価方法

講義への参加度・貢献度 (30%)、課題レポート (70%)

使用教材

「養護教諭の行う健康相談活動」大谷尚子 東山書房

授業外学習の内容

1. 集団討論や事例検討会での自分の発言を振り返り、自身の課題を明確にする。
2. 課題レポートにとりくむ

備考

健康相談Ⅱ（教職に関する科目）

担当者

水出房子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 養護教諭必修 1単位

講義目標

健康相談の基礎的知識・技術を踏まえ、保健室における健康相談を進めるうえで必要な実践力を身に付ける

到達目標

1. 養護教諭の行う健康相談の特徴が理解できる
2. ヘルスカウンセリングや教育相談で学んだ知識・スキルを健康相談に生かすことができる
3. 関係者と連携した支援の在り方を考えられる

講義内容と講義計画

- 第1回 虐待の理解と支援・対応
- 第2回 発達障害を持つ子どもの理解とその対応
- 第3回 不登校・保健室登校の理解とその対応
- 第4回 慢性疾患の理解と対応
- 第5回 性感染症の理解と対応
- 第6回 薬物乱用の理解と対応
- 第7回 事例検討(研究)の意義と進め方
- 第8回 まとめ

評価方法

講義への参加度・貢献度（30%）、課題レポート（70%）

使用教材

「養護教諭の行う健康相談」大谷尚子 東山書房。

授業外学習の内容

1. 集団討論や事例検討会での自分の発言を振り返り、自身の課題を明確にする。
2. 養護実習で立ち会った児童生徒の事例をまとめる。
3. 課題レポートにとりくむ

備考

教師論（教職に関する科目）

担当者

深見匡

開講学科と時期・単位

看護学科 1年後期 養護教諭必修 2単位

講義目標

本講義を通して【到達目標】に掲げる内容を修得し、法令で定める「教育職員（教員）」の責務を踏まえ、教職に携わる者に相応しい資質や知識・技能を獲得することを目的とする。

到達目標

教職を目指す者として必要となる、①教育学の原理、思想、歴史の基礎的な知識、②現代の教育問題の基礎的な知識、③教職に携わる者として求められる資質や教育方法上の基礎的な技能を修得することを目指し、④教育問題を考察する際にはこれらの修得した知識や技能を活用することができるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は以下の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第1回 ガイダンス（授業計画、試験・評価方法など）
- 第2回 教職にかかわる諸制度①（公教育法制）
- 第3回 教職にかかわる諸制度②（学校教育）
- 第4回 教職にかかわる諸制度③（学校教育）
- 第5回 教職にかかわる諸制度④（教員養成制度）
- 第6回 教職にかかわる諸制度⑤（教員の職務）
- 第7回 教職にかかわる諸制度⑥（教員の職務）
- 第8回 教職にかかわる諸制度⑦（教員と基本的人権・政治）
- 第9回 教育の原理①（人間の発達）
- 第10回 教育の原理②（人間と社会）
- 第11回 現代の教育をめぐる諸課題①（学力問題）
- 第12回 現代の教育をめぐる諸課題②（生徒指導）
- 第13回 現代の教育をめぐる諸課題③（教育改革）
- 第14回 国際比較を通して考える
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

授業時に指示する授業外課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育基礎論（教職に関する科目）

担当者

深見匡

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 養護教諭必修 2単位

講義目標

教育学を学ぶ上での基礎的な知識となる、①教育の原理、思想、歴史、教育制度、現代的諸問題、様々な教育実践について理解し、概括的に知識を習得すること。②その際、様々な教育事象について、歴史や社会構造をふまえた観点から分析・理解・説明などができるようになること。

到達目標

①【講義目標】に記した内容を理解・修得し、②実際の教育問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は下記の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第 1 回 ガイダンス(授業計画、試験・評価方法など)
- 第 2 回 教育の原理と思想 ①(社会の中の教育)
- 第 3 回 教育の原理と思想 ②(教育への認識)
- 第 4 回 教育の原理と思想 ③(発達の理論)
- 第 5 回 近代公教育の歴史 ①(近代)
- 第 6 回 近代公教育の歴史 ②(現代)
- 第 7 回 公教育の諸制度 ①(教育基本法他)
- 第 8 回 公教育の諸制度 ②(教育課程)
- 第 9 回 公教育の諸制度 ③(教育課程)
- 第 10 回 現代の教育をめぐる諸課題(教育問題と教育実践)
- 第 11 回 現代の教育をめぐる諸課題(学力問題) ①
- 第 12 回 現代の教育をめぐる諸課題(学力問題) ②
- 第 13 回 国際比較の観点から見る日本の教育 ①
- 第 14 回 国際比較の観点から見る日本の教育 ②
- 第 15 回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%＝貢献度・授業態度・提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については授業時に指示する。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

授業時に指示する授業外課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育心理学（教職に関する科目）

担当者

宮内 洋

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 養護教諭必修2単位

講義目標

短い学校生活期間だけに限定せずに、生涯発達を視野に入れて、既存の教育心理学領域の知見を新たな視野から講義していく。

到達目標

私たちが生まれて人生を全うするまでの生涯における発達を念頭に置き、各段階毎の学びの基本的な知見を学ぶことによって、教える側の基本的態度を身につける。

講義内容と講義計画

- 第1回 ガイダンス：発達とは何か
- 第2回 生涯発達と「優生思想」
- 第3回 新生児期・乳児期における学び
- 第4回 幼児期における学び（1）：認知発達を中心に
- 第5回 幼児期における学び（2）：道徳性の発達を中心に
- 第6回 障害のある幼児の心身の発達と学び
- 第7回 児童期における学び（1）：記憶研究を中心に
- 第8回 児童期における学び（2）：学習について
- 第9回 障害のある児童・生徒の心身の発達と学び
- 第10回 思春期における学び
- 第11回 青年期における学び
- 第12回 成人期以降の学び（1）：教育方法
- 第13回 成人期以降の学び（2）：評価
- 第14回 老年期における学び
- 第15回 まとめ

評価方法

筆記試験の結果、受講態度、授業中の課題などによって総合的に評価します。

使用教材

教科書は指定しません。必要に応じて、資料を配付します。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介していきます。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

教育制度論（教職に関する科目）

担当者

深見匡

開講学科と時期・単位

看護学科 3年前期 養護教諭必修2単位

講義目標

本講義を通して、「到達目標」に掲げる内容を理解・修得し、教育制度のあり方が教育の実質と深い関わりを持つことについて理解できるようになること。

到達目標

教職を目指す者が修得すべき教育学の基礎的な知識のうち、主として教育制度に関わる事項について修得することを目標とする。その際、社会の中にあつて教育を組織する枠組みである教育制度について、①近現代における（公）教育制度の歴史、②現行制度の仕組みと役割、③教育改革の諸構想の観点を中心に学ぶ。

講義内容と講義計画

第1回 ガイダンス(授業計画、試験・評価方法などについて)

第2回 教育の組織化

第3回 教育の歴史 ①(近代公教育)

第4回 教育の歴史 ②(現代公教育)

第5回 教育の諸制度 ①(日本国憲法と教育基本法)

第6回 教育の諸制度 ②(学校体系)

第7回 教育の諸制度 ③(教育内容)

第8回 教育の諸制度 ④(教科書)

第9回 教育の諸制度 ⑤(学校と校務分掌)

第10回 教育の諸制度 ⑥(教育行政)

第11回 現代的課題 ①(学級編制など)

第12回 現代的課題 ②(教育の多様化・能力主義)

第13回 現代的課題 ③(参加と選択)

第14回 国際比較を通して考える

第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

授業時に指示する授業外課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育課程・特別活動論（教職に関する科目）

担当者

富岡栄

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 養護教諭必修 1単位

講義目標

学校教育には学習指導の他に特別活動の領域があり、ともに教育課程において児童・生徒の教育に重要な役割を果たしています。この授業では、学校教育において重要な位置を占めている特別活動を、教育課程との関連において、その歴史、意味、実践などを幅広く考察します。

到達目標

・特別活動の意義・歴史と変遷・学校における様々な特別活動の諸相について学生の理解・実践力をつけます。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 教育課程と特別活動
- 第2回 学習指導要領における特別活動
- 第3回 学級活動と生徒会活動
- 第4回 学校行事 第1回小テスト予定
- 第5回 クラブ・部活動
- 第6回 学校保健・安全指導
- 第7回 給食指導
- 第8回 まとめ 第2回小テスト予定

評価方法

2回の小テストに約70%、授業への貢献度等に約30%を配分し、総合的に評価する。

使用教材

自作のプリント

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。また、小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学校において重要な役割を果たしている特別活動について、教育課程との関連でその全般を概観する予定です。学校とは何をやる所であるかの明確な考えを持って授業に参加することを期待します。

道徳教育の研究（教職に関する科目）

担当者

深見匡

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 養護教諭必修2単位

講義目標

①道徳心や規範意識の形成は「道徳」の時間だけではなく学校教育全体で追求されるべきこと。②「道徳」のような個人の内心に働きかける公教育の営みは、複雑な法的・社会的問題をはらむこと。③「道徳」を日常生活的な規範基準としてのみ捉えず、様々な価値判断の基準として捉えること。「道徳」教育の学習は以上の諸点の学習であることを理解できるようになること。

到達目標

①【講義目標】の内容を理解・修得し、②実際の教育問題や、価値に関わる問題の考察や解決にあたり、獲得した知識を活用できるようになること。

講義内容と講義計画

授業計画の概要は下記の通り。詳細は初回の授業で提示する。

- 第1回 ガイダンス(授業計画、評価方法等について)
- 第2回 道徳の定義・理論(社会の価値体系としての道徳)
- 第3回 現代の公教育法制と道徳の時間について ①
- 第4回 現代の公教育法制と道徳の時間について ②
- 第5回 道徳の理論(ピアジェ 他)
- 第6回 道徳の理論(コールバーグ 他)
- 第7回 道徳の理論(ロールズ 他)
- 第8回 公教育と道徳の歴史(戦前日本)
- 第9回 公教育と道徳の歴史(戦後日本)
- 第10回 道徳教育の実際(道徳の問題群と諸実践) ①人権
- 第11回 道徳教育の実際(道徳の問題群と諸実践) ②いじめ
- 第12回 道徳教育の実際(道徳の問題群と諸実践) ③いじめ
- 第13回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育 ①
- 第14回 国際比較の観点からみた日本の道徳教育 ②
- 第15回 まとめ

評価方法

授業への出席を含む平常点（30%：参加度、授業態度、提出物など）、期末試験（70%）を総合して評価する。評価の詳細については適宜授業中に指示をする。

使用教材

テキストや資料は毎回の授業で配布する。

授業外学習の内容

授業時に指示する授業外課題を行うこと。

備考

教育への関心を絶えず自覚的に高める努力を求めたい。授業への積極的参加はもちろん、日常生活における様々な情報収集や、教育実践への関わりを大事にしてもらいたい。

教育課程・方法論（教職に関する科目）

担当者

森部英生

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 教職必修 1単位

講義目標

教育の仕事には、教師の深い教養と優れた人格のみならず、教育課程全体の理解と豊かで適切な方法・技術が不可欠です。この授業は、教育の成否を左右するとも言える教育の課程と方法について、歴史を踏まえながら、考察しようと思います。

到達目標

教育課程及びそれを達成するための教育方法について、学生の理解・実践力をつけます。・教育課程が単なるプログラムではないこと、・教育方法が単なるテクニックとは異なること、・教育の内容と方法には長い積み重ねがあること、・正確な知識と実践力を身につけて教育現場に臨めるようにすること。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション 教育課程・方法の意義
- 第2回 教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領（含学生報告）
- 第4回 教育方法・教育実践の歩み（含学生報告）
- 第5回 様々な教育方法論（含学生報告）
- 第6回 授業形態と教育方法（含学生報告）
- 第7回 授業と学習（含学生報告）
- 第8回 様々な教具（含学生報告）

評価方法

評価は、授業の途中で行う2回の小テスト(約70%)、授業貢献度(発言、質問、授業中の態度など。約30%)、で行う。

使用教材

教材は適宜自作のプリントを配布

授業外学習の内容

授業終了後は、毎回配布するプリントを熟読の上、復習しておくこと。事前にシラバスを見て、次回のテーマについて然るべき予習をしておくこと。また、途中で2回実施予定の小テスト前には、当該範囲のプリント・ノート類を見直すこと。

備考

学生諸君自身が学校時代に受けてきた種々の授業を思い出しながら、授業の意味と方法を問い直し、その有する重要性について深く自覚しつつ授業に参加することを望みます。

生徒指導論（教職に関する科目）

担当者

宮川清

開講学科と時期・単位

看護学科 2年前期 養護教諭必修2単位

講義目標

生徒に自己指導力を付けさせるための働きかけが学校教育あげて行われる『生徒指導』である。それに関わる理論は、教育学・心理学を始めとして広い領域に及ぶ。ここでは、学校教育の現場に活用される‘行動科学’に基づく諸理論を学ばせ、生徒に現代社会により良く生きるための力を扶養する教員の指導力の基礎を身に付けさせる。

到達目標

講義内容と講義計画

- 第1回 本能と知能（理性と学習）
- 第2回 学習成立の原理（条件反射、試行錯誤、洞察、模倣）
- 第3回 学習の心理Ⅰ
- 第4回 学習の心理Ⅱ
- 第5回 集団心理：ピグマリオン効果・リンゲルマン効果等
- 第6回 発達課題と発達段階
- 第7回 青年期の心理Ⅰ
- 第8回 青年期の心理Ⅱ
- 第9回 モラトリアムとアイデンティティの確立
- 第10回 欲求不満とストレス問題
- 第11回 ストレス対策と耐性の育成
- 第12回 教育相談と思春期クリニック
- 第13回 生徒指導の手法と事例研究Ⅰ
- 第14回 生徒指導の手法と事例研究Ⅱ
- 第15回 Role play と Debate の実習

評価方法

平常活動・演習問題（50%）、学期末試験点（50%）の二本立て

使用教材

図解「心理学のすべて」日本実業出版 ￥1500

授業外学習の内容

備考

教育相談（教職に関する科目）

担当者

宮内洋

開講学科と時期・単位

看護学科 2年後期 養護教諭必修2単位

講義目標

生徒とその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を説明する。この際には、密室に閉じた相談活動ではなく、学校、さらには地域に開かれた支援を視野に入れる。臨床発達心理士である講師としては、机上の空論や理想論ではなく、より現実的な内容に徹したい。

到達目標

生徒とその保護者等を対象とした相談活動に必要な基礎的事項を理解する。

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション：受容と共感
- 第2回 他者との距離
- 第3回 「気づく」ということ
- 第4回 教育相談の場
- 第5回 各自の枠組の相違の体験的理解
- 第6回 コミュニケーションの困難性
- 第7回 性格類型の罫
- 第8回 生徒の「性格」理解
- 第9回 いじめについて（1）：映像から考える
- 第10回 いじめについて（2）：中学校におけるいじめの実態
- 第11回 校内暴力について
- 第12回 生徒指導と教育相談
- 第13回 教育相談のロールプレイング（1）：ロールプレイングの実践
- 第14回 教育相談のロールプレイング（2）：ロールプレイングの振り返り
- 第15回 まとめ

評価方法

全講義終了後に実施される筆記試験と、講義期間中に課せられる課題、講義に臨む態度・参加する姿勢等によって、総合的に判断する。

使用教材

教科書は指定しません。必要に応じて、資料を配付します。また、より知りたい・学びたい人のために、参考文献や映画やマンガ等の種々の作品を、講義の中で適宜紹介していきます。

授業外学習の内容

授業後に各自で復習をして、授業内容の正しい理解に努めてください。

備考

最初の講義の時間に約束をします。その約束を最終回まで守ってください。

養護実習（教職に関する科目）

担当者

青柳千春・水出房子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年前期 養護教諭必修 5単位

講義目標

教育の現場において、児童生徒への理解を深め、養護教諭に必要な知識・技術・態度・実践力を養う。

到達目標

- 1) 学校の特性、組織、運営について理解することができる。
- 2) 学校保健全般について理解することができる。
- 3) 養護教諭の役割、保健室の機能を学び、技術を習得することができる。
- 4) 児童生徒の生活を理解し、発育発達段階に応じた保健教育、保健管理について理解することができる。

講義内容と講義計画

1.事前・事後指導 1単位 30時間(15回授業)

事前指導 13回

- 第1回 学校教育の中の養護教諭の役割
- 第2回 学校保健計画、安全計画と養護教諭の役割
- 第3回 学校保健委員会活動
- 第4回 学校の日課と健康観察
- 第5回 保健教育の法的根拠・内容・機械
- 第6回 保健教育指導案の作成の手順及び留意点
- 第7回 保健室の執務の実際
- 第8回 危機管理
- 第9回 学校環境衛生
- 第10回 感染症、食中毒発生時の対応
- 第11回 健康診断の意義と目的、計画の立て方の実施の流れ
- 第12回 健康診断の実施と事後措置
- 第13回 健康診断（演習）

事後指導 2回

- 第1回 養護実習のまとめ
- 第2回 養護実習の発表・振り返り

2.実習 4単位 180時間(4週間)

- 1)事前学内実習において、保健室来室者対応（救急処置等）の演習を行う。保健指導、健康教育の指導案を作成し、保健教育の授業を学内で実施する。
- 2)小学校・中学校・高等学校において3週間の実習を行う。

実習目標

- ①学校の特性、組織運営について理解する。
 - ②学校保健全般について理解する。
 - ③養護教諭の役割と具体的活動を理解し、養護教諭の指導のもとで実践する。
 - ④児童・生徒の生活状況を理解し、発達・発育段階に応じた保健管理・保健教育を実施する。
- 3)実習終了後は、学内において実習のまとめと実習報告会を開催する。

評価方法

実習校における評価（含、授業実践等）（50%）、実習の課題レポートの提出（20%）、授業時の参加度・貢献度（30%）による総合評価

使用教材

「新版、養護教諭 執務のてびき」 東山書房
「新学校保健実務必携」 第一法規
「教員採用試験養護教諭」 東京アカデミー七賢出版

授業外学習の内容

配布されたワークシートを活用し、次回の授業内容を予習しておくこと。

- 1.学校保健関連法については各自で調べ、課題文を作成する。
- 2.健康診断の測定法、環境衛生検査の方法、救急処置の実際、包帯固定法の実技は、各自で復習し、実習に備え習得する。
- 3.保健学習・保健指導の指導案の作成は、時間外に各自で準備する。
- 4.養護実習終了後は、実習報告会に備え、資料の準備を行う。

備考

- 1.明確な目的持ち、主体的に学習をすすめることを期待しています。
- 2.事前学内実習の課題は、提出期限を必ず守ること。

教職実践演習（養護教諭）（教職に関する科目）

担当者

森部英生・青柳千春・水出房子

開講学科と時期・単位

看護学科 4年後期 養護教諭必修 2単位

講義目標

これまでの教職課程における学びを振り返ることで、養護教諭になるために必要な能力を身につけ、学校組織の一員として自覚し、教師として豊かな感性や人間関係を高めようとする事ができる。

到達目標

将来養護教諭として学校現場で児童生徒に十分対応していける資質・能力、及び、養護教諭としての使命感や責任感、教育的愛情さらには、社会性や対人関係能力等を備えるに至ること、及びそれをさらに確かなものとし、これを確認することができる

講義内容と講義計画

- 第1回 オリエンテーション、学校教育と養護教諭
- 第2回 保健教育 (1. 授業構想)
- 第3回 保健教育 (2. 模擬授業)
- 第4回 保健教育 (3. 保健だより・掲示物の構想)
- 第5回 保健教育 (4. 保健便り・掲示物の発表)
- 第6回 教育目標を達成するための学校保健計画の検討
- 第7回 子どもの抱える成長・心の問題 (1. 学校事故)
- 第8回 子どもの抱える成長・心の問題 (2. 発達障害)
- 第9回 子どもの抱える成長・心の問題 (3. 不登校・保健室登校)
- 第10回 保健室経営計画の検討
- 第11回 学校における養護教諭の役割、校内教職員との連携
- 第12回 保護者・地域との連携と養護教諭の社会性、人間性
- 第13回 子供理解と子供に対する教育的愛
- 第14回 外国籍の子供についての理解
- 第15回 まとめ

評価方法

授業へ貢献度により、主として平常点で総合的に評価する

使用教材

適宜資料を作成配布。

授業外学習の内容

この授業は、養護教諭としての資質・能力を大学で最終的に確かめることを目的とするものです。学校における養護教諭の役割と任務等について、深い自覚をもって授業に参加することを希望します。毎回授業の内容を確認し、自分なりの考えをまとめて発表できるように準備をしておくこと。

備考